



地域包括ケアシステムの構築を
 目的に、南下浦地区エリアにて地域診
 断を試みることにした。それは、当該
 地域に①支援を提供しなければいけ
 ない人がどれだけいて、②その地域に
 現在どのような資源・サービスがあり、
 ③対象者は既存サービスをどのように
 利用しているのかを把握・分析したう
 えで、④足りない資源・サービスは何
 かを把握する作業である。



地域包括ケア推進の ための地域診断書

上宮田第1区の場合

社会福祉法人三浦市社会福祉協議会
 令和7年 10月 31日



地域診断
2025 Oct.

contents

2	はじめに
7	対象地域
7	地域診断エリア
8	人口・世帯数の推移
8	歴史
9	経済・産業・医療
9	交通と安全
11	教育環境の状況
12	仮説と持続可能な地域社会の構築に向けたビジョン
13	上宮田第1区の調査結果
13	■直撃！キーマンに聞いた
	上宮田第1区長 高橋 公雄さん
16	上宮田第1区民生委員 竹原 治美さん
17	山岸 義明さん、原田 喜信さん
18	南下浦地区 主任児童委員 長嶋 貴子さん
19	■上宮田第1区における地域踏査の概要
	●ソフト面（人々の暮らし、助け合いの仕組み等）住民ヒアリング
20	石作2組について
29	各地区
42	●ソフト面 活動団体ヒアリング
	特集1 芙蓉ハイツについて
45	特集2 スクールガードについて
51	各団体
62	各施設
67	●ソフト面 店舗・会社等
82	●ハード面
95	■ワークショップ「茶話会」について
99	結果
101	今後に向けて
105	編集後記

はじめに

市民活動は、地域の人々が自らの意思で課題に取り組み、より良い社会を築こうとする営みです。その過程で、世代や立場の異なる人々が出会い、対話し、協働することによって、多様な価値観や知恵が交じり合います。こうした交流やつながりは地域に新しい発想や活力をもたらし、互いを支え合う風土を育てます。さらに、市民活動は行政では拾いきれない小さな声やニーズを掬い上げ、地域の文化や暮らしを豊かに保つ役割をも果たすのです。このように、主体的な参加と共感によって紡がれる市民活動は、地域社会に深みと温かみを与え、まさに「芳醇な」社会をつくり出す源泉となるのです。

一方でこれを実現するのは、そう簡単ではありません。ちょっとした「仕掛け」が必要となります。

多くの市民は地域への関心や貢献意欲を持ちながらも、参加のきっかけや活動の場を見出せず、その一步を踏み出せないでいます。ゆえに、情報の発信や出会いの場の創出、活動の見える化などを進めることが求められるわけですが、それでも市民が地域活動に参加することは、決して容易なことではありません。日常生活や仕事（学業）に追われる中で、新たな活動に参加することは、時間的・精神的にも一定の負荷を伴うからです。また、初めて関わる人々との協働には不安や緊張を感じることも少なくないでしょう。

だからこそ、「生活支援コーディネーター」と「協議体」は、地域包括ケアシステムの構築というフィルターを通して、市民活動や地域づくりを支える中核的な仕組みとして機能しなければならないのです。

生活支援コーディネーターは、地域における支え合いの仕組みづくりを推進する調整役として、住民や関係団体、行政、専門職などの多様な主体をつなぎ、既存の資源を有機的に結び付けるとともに、新たなサービスや活動の創出を支援する役割を果たすことになっています。

一方、協議体は、生活支援コーディネーターの活動を組織的に補完すべく、地域の多様な関係者が集まり、生活支援に関する情報共有や課題分析、方策の検討をおこなう場です。協議体の議論を通じて、地域の実情に即した支援の方向性が整理され、コーディネーターの活動と連動しながら、地域全体での支援体制の充実が図られるというわけです。

しかし、私達は、それだけで地域社会が抱える課題が解消できるとは考えてはいません。地域社会が抱える課題を地域住民が「我がこと、丸ごと」にするためには、地域社会に対するより深い理解が求められると考えるからです。

三浦市社会福祉協議会が、ここ数年の重点的活動に「地域診断」を掲げてきたのはそのためです。行政や専門職による調査にとどまらず、住民自らが主体的に関わる「住民参加の地域診断」を実施することこそが地域住民に社会参加を促す最良の手段であると思い至ったのです。住民自身が地域の強みや課題、支え合いの可能性を共に見つめ直すことで、地域に対する愛着と当事者意識が醸成されるのではないのでしょうか。また、こうした対話と協働の過程を通じて、新たな関係性や活動の芽が生まれ、持続可能な地域づくりの基盤が強化されるのだと私達は確信して

います。住民参加の地域診断は、単なる現状把握にとどまらず、地域社会を共に支える意識を育むプロセスであり、共生社会の実現に向けた第一歩として位置づけられるのではないのでしょうか。

そこで私たちは、当該地域における地域診断を実施するにあたり、次のように踏査を計画化しました。

1 目的

地域社会が抱える課題を住民自らの「我がこと」として捉え、地域に対する理解と当事者意識を醸成するとともに、持続可能な支え合いの仕組みづくりに資することを目的とする。また、地域の強みや資源を明らかにすることで、市民活動や行政施策との連携を促進し、地域共生社会の実現を図る。

2 現状

- ・地域内には、多様な世代・立場の住民や団体が存在する一方で、住民活動への参加は限定的であり、情報不足や心理的・時間的負担により参加へのハードルが存在する。
- ・行政や専門職による形式的な調査はおこなわれているものの、住民の視点を十分に反映した地域課題の把握は限定的である。
- ・生活支援コーディネーターや協議体は活動しているが、住民一人ひとりの主体的な関わりへの促進にはさらなる仕組みづくりが求められる。

3 課題

- ・住民が地域課題を自分事として認識し、参加意欲を持つための具体的なきっかけが不足している。
- ・地域の課題や資源に関する情報共有の仕組みが不十分であり、住民・団体・行政の連携が十分に活かされていない。
- ・初参加者や関心層が参加しやすい場の設計や支援が限定的であり、参加の心理的ハードルが残っている。

4 方針

- ・住民が主体的に関わる地域診断を通じて、地域課題と資源の現状を共有し、地域に対する愛着と当事者意識を醸成する。
- ・生活支援コーディネーターおよび協議体と連携し、診断の成果を市民活動や地域施策に反映させる。
- ・初参加者を含む幅広い住民が安心して参加できる環境を整備することにより、参加のハードルを下げる。

5 取り組み

①参加型ワークショップの開催

住民、地域団体、専門職等が一堂に会し、地域課題や支え合いの現状を整理するワークショップを実施する。しかし、ワークショップという言葉にはいかにもお堅いイメージが付きま

う。そこで我々は、これを「茶話会」と呼称し、大きく敷居を下げることにした。

②地域資源マッピング

地域の施設、団体、活動、人材などの資源を住民の視点で把握し、課題解決の可能性を見える化する。

③アンケート・聞き取り調査の実施

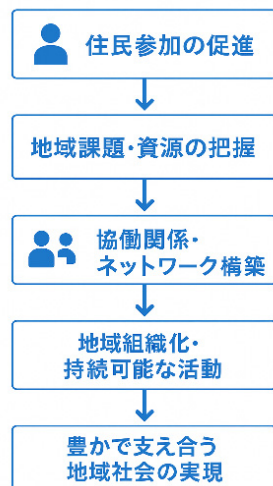
幅広い住民の意見を収集し、日常生活上の困りごとや希望を明らかにする。

④情報共有と意見交換の場づくり

ワークショップ（茶話会）や協議体での議論を通じて、診断結果を地域住民全体で共有し、今後の活動方針に活かす。

⑤診断結果のフィードバックと活用

診断結果をもとに、行政・協議体・市民団体が連携して具体的な支援策や活動計画を策定する。



これらの地域踏査のプロセスを図示すると、左のようなフローになります。文字どおり、地域踏査に基づく地域診断は地域の組織化に大きく寄与するものであることがご理解いただけるでしょう。

ともあれ、三浦市を取り巻く高齢化、人口減少、地域経済の低迷といった状況は、地域包括ケアや支え合いの仕組みづくりに対して、待ったなしの課題を私達に突きつけます。

一方で、平成 30 年に東岡区を対象に地域診断をおこなった際は、国土交通省の公示地価が、三浦半島地域の地価下落に暗い影を落としている旨ご報告をしましたが、しかし、今日ではその傾向にも変化が見られ、令和 7 年現在、三浦市の公示地価の平均は（1 平方メートルあたり約 59,520 円〔坪単価約 19 万 6,800 円〕）

で、前年比+1.1%の上昇を示しています。また、初声町では 1 平方メートルあたり 55,623 円（坪単価 18 万 3,878 円）、前年比+1.3%といった上昇も見られ、地域によっては底堅さを示す傾向もあります。こうした変化は、地域の資産価値や税収基盤、住環境の側面から、地域社会の安定性と潜在力を再評価する契機となっています。地域社会が「生きている」ことを実感する瞬間です。

もちろん、地価動向や統計データだけでは、地域を取り巻く「生活実態」や「支え合いの潜在性」、「住民の課題意識」を把握することはできません。地価の変化は経済的側面を映す一方で、高齢者の暮らしや介護ニーズ、移動手段の利便性、生きがいつくり、孤立感といった生活の実情は数値には表れにくいからです。だからこそ、地域包括ケアシステム強化法の趣旨に沿い、地域住民自身が主体的に地域を診断し、課題と可能性を共有することが何より重要になります。

私達はこれまでに 8 つの地域で実施してきた地域診断の経験から、次の 3 点が明らかになりました。

1 地域診断のプロセスそのものが、住民同士の対話と関係づくりの契機となること

地域を歩き、意見を交わし、課題と資源を書き出す過程で、これまで関わりの少なかった住民同士がつながり、「地域をともに考える」関係が生まれます。

2 地域の潜在力を顕在化させ、行政や団体の支援を呼び込むきっかけとなること

地域診断によって見えてきた「強み」と「弱み」を整理することで、行政・専門職・住民団体が連携し、現実的で地域に即した解決策を検討することが可能になります。

3 地域の組織化や協議体づくりに向けた第一歩となること

地域診断を通じて住民が課題意識を共有することで、住民相互の支え合いや第 2 層協議体など、地域の自律的な仕組みづくりに発展していく可能性が高まります。

これらを踏まえると、住民参加から始まり、地域診断を経て、最終的に地域の組織化へとつなげる取り組みが、三浦市において極めて重要であるといえます。単に住民を巻き込むのではなく、住民が主体的に行動し、継続的な関係性を築けるような仕掛けづくりが求められると考えるからです。

今後は、地域診断・住民参加・協議体構築の三つのステップを一体的に進め、地域包括ケアシステムの土台を強化していくことが必要です。最新の地価動向が示すように、地域の潜在力は決して失われてはいません。私達はこれまでの実践を踏まえ、モデル地域を軸に診断を重ね、地域住民による、地域住民のための「地域包括ケアシステム」を構築してまいります。

最後になりますが、この取り組みを進めるうえで、最も重要な理由について申し上げます。それは、地域包括ケアシステムの本質に深く関わる問題であり、私達自身の大きな反省を伴うものでもあります。これまで、いわゆる専門職と呼ばれる人達が、地域社会や個々の生活課題に対して、さまざまな形でマネジメントをおこなってきました。しかし、そのような支援のあり方だけでは、「住民を社会資源としてどのように活用するか」という発想にとどまってしまうことに、私達は気づかされました。この反省こそが、地域包括ケアシステムを構築するうえでの出発点であると考えています。そして今、私達は「住民を支援の対象として扱う」のではなく、「自らの暮らしを自らが決定する主体として尊重する」ことが、これからの地域包括ケアの理念ではないかと考えるようになりました。すなわち、「住み慣れた地域でどのように生きていくか」という意思決定を、住民自身の手に取り戻すことこそが、この取り組みの核心なのです。

今年 7 月末に起きたカムチャツカ半島沖の地震に伴う津波警報発令時、三浦市では避難所の開設が他市に比べて遅れたことが指摘されています。多くの自治体が発令後ただちに避難所を開設したのに対し、本市では 16 時過ぎにようやく開設に至りました。この問題は指揮命令系統に大きな瑕疵があったとして議会でも取り上げられました。その間、学校や民間の福祉施設などが独自の判断で避難所を開設するに至りましたが、現場は大きな混乱に見舞われました。この事

例は、行政対応の迅速性や危機管理体制の課題を浮き彫りにするとともに、同時に地域の主体的な判断と行動の重要性を示すものでもあります。すなわち、地域の安全や安心を支えるうえで、市民一人ひとりや地域団体が自らの判断に基づき行動できる仕組み、すなわち「自律的な市民活動」が不可欠であることを改めて示したと言えます。行政の対応には限界がありますが、市民活動は地域の実情をよく知る住民自身の力によって、より柔軟かつ迅速に動くことができます。今後は、行政と市民活動が相互に補完し合う関係を築くことで、より強靱で持続可能な地域社会の形成が期待されます。

対象地域

今回調査するのは、上宮田第1区である。上宮田第1区は、三浦市南下浦町上宮田に位置し、令和7年6月現在920世帯が暮らす区である。

隣接する区は、高円坊東区、高円坊西区、上宮田第2区、上宮田第3区、上宮田第5区である。南東は東京湾の内湾である金田湾、北東は横須賀市津久井との市境に接している。人家や商店のほとんどは、海に近く、比較的平坦で標高の低い南部に集中している。また同区は、京浜急行電鉄の三浦海岸駅と津久井浜駅の間に位置していて、南部に線路が通っている。北部は丘陵地で、畑が占めている。区内には旭小学校（以下「旭小」とする。）、三浦幼稚園などの教育機関がある。

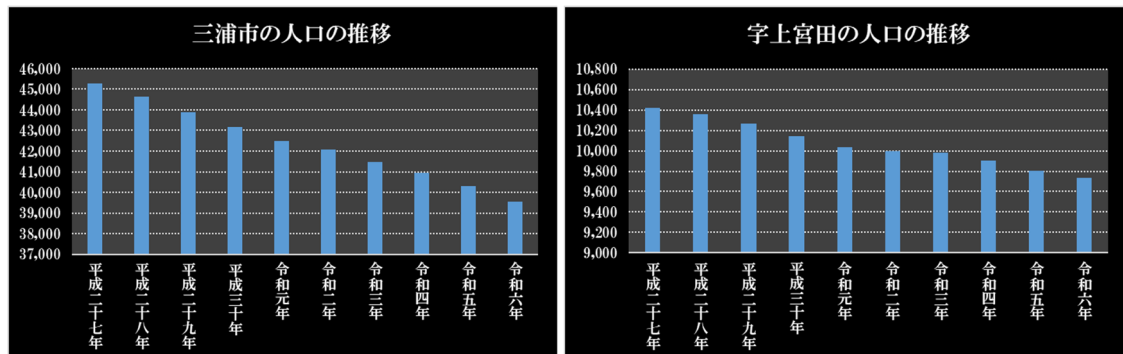
海岸線と、そこから1本中に入った旧道付近に、コンビニエンスストア、飲食店、個人商店、歯科、福祉施設等が点在している。



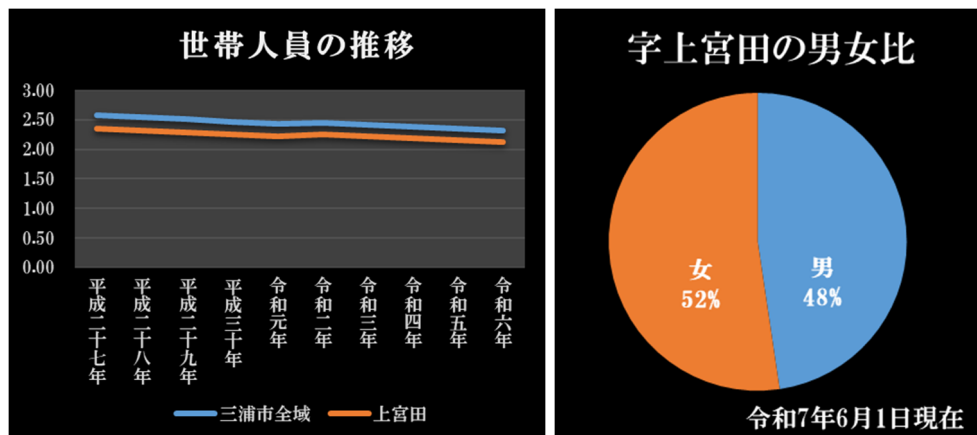
人口・世帯数の推移

上宮田第1区の世帯数としては920世帯となっているが、人口数としては区単位でのデータがなく、字単位になるため、ここでは南下浦町上宮田の数を利用する。字上宮田の世帯数4,572に対して、上宮田第1区の世帯数は920で、字上宮田の約20%の人が上宮田第1区民にあたる。

字上宮田の人口は9,672人、世帯数は4,606（令和7年6月1日現在）。下グラフからもわかるように、人口減少が続いている。ただし、ここ10年の三浦市全域の人口減少率は約12.7%である一方、字上宮田については、約6.5%（680人）である。



字上宮田の世帯人員の平均は2.13人（令和6年10月1日現在）で、10年の間に約9.7%減少している。三浦市の世帯人員の平均は2.32人（同上）、同期間における減少率は約10%と近似している。高齢化と人口減少が続いていることから、市全域と同様に、今後も世帯人員の減少傾向は続くことが予想される。続いて人口の男女比であるが、三浦市全域の比率と近似している。



歴史

歴史的には、康平4（1061）年に「宮田」の地名が起こり、後に上宮田と下宮田に分かれたが、その時期ははっきりしない。永禄10（1567）年の北条氏の感状には「上宮田」の地名が出てくる。昭和30年に市制が施行され、同年上宮田が1区と2区に分割された。

なお区内には、歴史ある神社仏閣がある。諏訪神社は永正（1504～1521）に起こり、文政11（1828）年に現在の場所に移った。毎年7月26・27日におこなわれる例祭では、上宮田第1区

及び第2区の区民が屋台を担ぐなど、地域住民とのつながりがある。三樹院は、上宮田第2区にある十劫寺の末寺として起こった。同院ホームページによると、宝永五（1709）年に本尊がもたらされたという。

経済・産業・医療

駅へのアクセスが良いベッドタウンである一方、第一次産業就業者も働く地域である。近年においても、新たに戸建て住宅が建設され、少数ではあるが移住者もある。北部は野菜畑が多く、南部には漁業協同組合がある。

また、区南部にある三浦海岸は観光地である。昭和41年に三浦海岸駅が開通し、昭和44年に京急三浦ビーチセンターという海のレジャー施設が、隣接する上宮田第2区の海岸に開業したこともあり、昭和40年代の三浦海岸は、右表のとおり賑わいを見せていた。観光客数及び海の家は徐々に減少し、同センターも平成10年に閉鎖された。令和7年現在、夏季は市営の海水浴場が開設されている。

南下浦地域の海の家申請件数

年	上宮田	南下浦計
昭和34	18	18
42	57	94
平成30	7	9

三浦海岸観光客数

年	人数
昭和32	5万人
46	399万人
平成30	188万人

商業施設について、昭和15～25年頃には、大衆湯場、和船造船所、写真館や日本初のオイルサーディンの缶詰工場があったそうだ。今も旧道から海岸線沿いにかけての地域には商店、商業施設が点在している。ファミリーレストランやカフェなどの飲食店、コンビニエンスストア、理容店、福祉施設などがある。病院や診療所はないが、歯科医院が2軒ある。商店等については67頁より詳述する。

交通と安全

①公共交通機関

上宮田第1区内には、公共交通機関の駅や停留所がない。上宮田第1区会館（以下「区民会館」とする。）の最寄りの駅は京浜急行電鉄の津久井浜駅で、徒歩13分（900m）である。三浦海岸駅からは徒歩15分（1.1km）である。

津久井浜駅にはバス停がない。三浦海岸駅バス停には、横須賀市民病院行き、衣笠十字路行き、引橋経由三崎東岡・三崎港行き、釧崎経由三崎東岡行きがある。北部については、三浦海岸駅～横須賀市民病院ないし衣笠十字路間を運行する京浜急行バスの「水ヶ尻」が最寄りとなる。

歴史的には、戦後まもなく上宮田～野比間の海岸道路（現在の国道134号線）が建設された。開始時期は不明であるが、久里浜～三浦海岸に通じるバスが運行し、昭和30年頃までは旧道を走っていた。昭和41年に京浜急行電鉄が開通したことから利用客が徐々に減り、平成元年に運行を終了している。

なお、三浦市立病院の送迎バスの「上宮田コース」は、上宮田第1区の海岸線沿いを通る。上宮田コース中、23か所ある停車場所のうち「上宮田漁協前（上宮田第2区との境目付近）」「レストランCOCO's（ココス）」「上宮田諏訪神社入口」の3つが区内の停車場所である。右表のとおり、往路は2便、復路は1便出ている。

停車場所	時刻	
	1便（往路）	2便（復路と往路）
市立病院 発	-	11:00
三浦海岸駅前	7:45	11:40
上宮田漁協前	7:47	11:33
レストランCOCO'S	7:49	11:34
上宮田諏訪神社入口	7:50	11:36
市立病院 着	8:30	12:00

②防災・生活安全体制

防災体制として、住民による「上宮田第1区自主防災隊」を組織している。地区単位で3つの隊に分かれていて、今井原・仲今井は「第1分隊」、大瀬戸は「第2分隊」、芝原・石作は「第3分隊」である。各分隊に15名前後の隊員がいる。主な役割は、区の防災訓練の補助や防災倉庫の器具の点検、区の草刈りの補助等である。詳細は59頁に後述する。

区内の「防災隊器具庫」は、区民会館、漁業協同組合、石作公園の敷地内の3か所にある。倉庫には、スコップやバールなどの災害時用資材のほか、区民会館と漁業協同組合の倉庫には消火活動用の小型ポンプもある。なお旭小には、市と区が共有する防災倉庫も設置されている。

また上宮田全域において活動する、三浦市消防団第7分団の詰所が区内にある。詳細は58頁に後述する。

災害時の避難場所について、まず切迫した災害の危険から逃れるための場所で、災害の種類ごとに市が指定する「緊急避難場所」は地震・津波の場合は旭小、土砂災害・風水害の場合は旭小と区民会館となっている。

そして、災害によって自宅に住めなくなってしまった場合などに避難生活を送る場所として市が指定する「指定避難所」は、旭小である。避難所の運営は「旭小学校避難所運営委員会」がおこなう。同委員会は、各地域（区）から選出された委員と、避難所となる施設の管理者及び市の職員で構成される。委員会の構成員は、平時から訓練をおこない、避難所開設に備えることになっている。

また、三浦創生舎は高齢者と障害者を、三浦幼稚園は乳幼児を対象とした「福祉避難所」（高齢者や障害者、妊産婦など、避難所での生活に特別な配慮が必要と判断された方が指定避難所から移り避難生活をおこなうために市が指定した福祉施設）として市に登録されている。

コロナ禍以前は、年1回、消防署の協力を得て区の防災訓練を実施していた。内容は、地区ごとに設定した高台避難の場所へ集まって点呼し、訓練会場の旭小へ集合し、消防署の協力で、煙体験や仮設トイレの組み立て体験、AED講習、災害の映像を観る等である。多いときは、住民約200名が集まった。年によっては、石作公園で消火訓練をしたこともある。高台避難場所は、海拔20m以上にある5か所を設定しているが、場所の再検討を予定している。

生活安全体制としては、スクールガードの取り組みがある。旭小の児童の見守りを目的として、平成 18 年に上宮田第 1 区が立ち上げた。令和 7 年 4 月現在も、45 名の住民有志が関わっている。詳細は 45 頁に後述する。

その他に、7～9 月の土・日曜日夜間に「愛のパトロール」と、3・4 月は不定期で「防犯パトロール」を実施している。

教育環境の状況

上宮田第 1 区の教育機関として、旭小、三浦幼稚園がある。

旭小は昭和 57 年 4 月に、上宮田小学校の一部校舎を借りて開校した。翌 58 年 1 月に新校舎に移り、この日を創立記念日とした。詳細は 65 頁に後述する。

三浦幼稚園は昭和 30 年に設立した。預かり保育や園庭開放等も実施している。詳細は 68 頁に後述する。

また、現在の区民会館はかつて「三浦市立上宮田児童会館」という三浦市で唯一の児童厚生施設であり、子どもの遊び場になっていた。しかし平成 24 年に策定された「三浦市立児童館の廃止等に関する方針」により、上宮田児童会館は閉館してしまった。なおその後、区として存続交渉を続けた結果、市より会館を譲り受けることになり、令和元年 10 月 1 日付で区民会館に役目を変えている。

参考文献

本章の執筆にあたり、上宮田や三浦海岸について研究する長島文夫氏にご協力いただいた。この場を借りて御礼申し上げる。

長島文夫、三浦海岸シリーズ（Ⅲ）郷土の記録、神奈川県、平成 17（2005）年、702p

長島文夫、三浦海岸シリーズ（Ⅳ）年表でたどる上宮田（増補新訂）、神奈川県、平成 17（2005）年、223p

長島文夫、三浦海岸シリーズ（Ⅵ）かみみやだ、神奈川県、平成 21（2009）年、53p

長島文夫、三浦海岸シリーズ（ⅩⅢ）データで見るとさつと～上宮田を中心に～、神奈川県、令和元（2019）年、75p

また、本誌に掲載している地図は、OpenStreetMap（URL openstreetmap.org/copyright）を使用した。

仮説と持続可能な地域社会の構築に向けたビジョン

以上のような統計的データと、調査前に得た地域住民の意見をもとに、調査エリアの都市像について次のような仮説を立てた。

「農業、漁業や観光業が盛んな地域であったが、海水浴客の減少による経済の停滞や少子高齢化により、かつての活気がなくなっている。一方で、環境と駅へのアクセスのよさから、今も移住してくる人がいる。

地域住民の高齢化に加えて、コロナ禍により、ちょっとしたお茶会などの住民間の交流が減り、区の防災訓練也未実施である。地域の活動が停滞する中でも、高齢者が中心となって児童の登下校を見守るスクールガードの取り組みは精力的におこなわれている。

一部住民の、地域の子どもへの関心が高いことや、年齢・職業・出生など多様な居住者がいることから、さまざまな住民活動を生み出す可能性がある地域ではないか。」

果たして、この仮説を立証するために我々は、地域踏査（フィールドワーク）を実施することにした。主にその任にあたったのは、生活支援コーディネーターの齋田聖子と山田達也、上宮田第1区の住民有志である。生活支援コーディネーターの齋田が作業を主導した。

“仮説”に基づき、調査エリアにおいて、“互助”を範疇とする「生活支援サービス」の構築に向けて、下記のとおり、1つのビジョンを共有するに至る。目的は「住み慣れた地域社会の中で『誰もが』『いつまでも』『安心して』生活できるようにすること」にある。

■■ビジョン■■

連綿と築き上げてきた“支え合いの仕組み”を次代に引き継ぎ、住み慣れた地域社会の中で、誰もが安心してこれまでの生活を“継続”できるよう“ちょっとした困りごと”なら相互に助け合えるような“まちづくり”をめざす！

このビジョンの具現化を目途に、仮説の立証を試み、そこに乖離^{かいり}があるとするなら、逐次それに修正を加え、新たな、しかし、現実的な“都市像”を形成したいと考えた。

ゆえに、四則演算で求められるような量的データ（統計的）のみならず、足で稼ぐ質的データを重視することにした。当然そこには、地域住民に対するヒアリングや住民懇談会で得られた情報も加味されることになり、結果的に“人間的”地域診断を可能にするのではないかとの結論を得たからである。

上宮田第1区の調査結果

地域踏査を実践するにあたって留意したのは、調査エリアのネガティブな部分を顕在化することに優先して、むしろ、その“強み”をより多く発見することに比重を置いたことにある。そこで「まちで発見した“あれこれ”沢山見つけよう！このまちの“強み（ストレングス）”」という惹句のもとに作業を進めた。

はたして、上宮田第1区では、どのような“発見”を得ることができたのであろうか？

なおこの地域診断書には、令和5年12月～6年8月の調査と、一部令和6年9月～7年10月に追加調査した内容を掲載している。

直撃！キーマンに聞いた



上宮田第1区区長
高橋 公雄さん

区内の大瀬戸という里に住んでいる。定年退職前から区の役員を10年担い、その後区長になり6年が経つ。

区の様況

1区は、920世帯が住み、19の組がある大きな区である。昔からの漁師や農家の家もあるが、マンションやアパートも多い。

20～30年前から企業の保養所がなくなり、その跡地や農家の家や畑だった土地に、戸建て住宅が何軒も建ち、アパートも徐々に増えてきた。ここ数年の間にも、新しい住宅が10数軒まとまって、一つの組として新たに区に加わることがあった。一方、区全体としては一人暮らしの高齢者や高齢夫婦の世帯が増え、空き家も増えていると感じる。

大瀬戸は1組で120軒近くあり、管理が大変である。新しく越してきた人が組長になることも多くなってきたが、新しい組長は道がわからないなど、地域に詳しくない場合も多いため、積極的に声を掛けフォローしている。社協会費等の集金のときに、組長と一緒に各家を回ったこともある。

区民会館は築60年を超える建物で、以前は児童会館だった。修繕費がかかるが、水と電気を通し区民が利用できるようにしている。卓球台があり、卓球クラブがよく利用している。市の元気アップ教室も開催している。児童会館の時代からある滑り台は残し、子どもが安心して遊べるように保険をかけている。

区長として困っていること

ゴミステーションの問題がある。高齢者から「ゴミステーションが家から離れていて、ゴミ捨てに行けなくなったので近くに増やしてほしい」と相談が入ることがある。市は「場所さえ決めてくれれば回収に行く」というが、細い路地の多い住宅地の中でスペースを探すのは難しく、とても苦労している。アパートやマンションの場合は、大家さんに敷地内にゴミステーションを作るようお願いしている。

また海岸には、普通のごみ回収では捨てられないようなボードの破片等が落ちていることがある。都度、市の市民協働課や環境課に相談に乗ってもらっている。

区内の街灯には、区のものとしのものがある。住民から「街灯が切れた」と連絡があれば、まず夜に見に行き確認し、その後昼間に行き番号等の情報を確認し、市のものであれば市に連絡するという手間が掛かっている。

今後について

地域に新しい住民が増えているが、交流が少ないので、できれば行事をやりたいと思っている。以前区長会から譲り受けた餅つきの道具もあるので活用したい。

自治会の組織構成と区費

- ・役員は、区長、副区長、会計、会計補佐、書記各1名と監事2名の体制。
- ・他に自主防災隊や、民生委員、保健衛生委員、青少年指導員などの専門委員がいる。自主防災隊には、災害時対応だけでなく、木の伐採もやってもらっている。
- ・旭小の学区において、上宮田第5区の住民を含む45名が、スクールガード（子どもの見守り）をおこなっている。詳細は45頁参照。
- ・組と世帯数（令和6年4月現在）

区には「今井原」「仲今井」「大瀬戸」「芝原」「石作」の5つの「里」という区画があり、更にその中は「組」というまとまりがある。月1回、全19組による組長会議が開催されている。一部、自治会組織を有する組もある。

里	今井原	仲今井	大瀬戸	芝原	石作
組	今井原1 今井原2 今井原3 今井原4	仲今井1 仲今井2 仲今井3	大瀬戸	芝原1 芝原2 芝原3 芝原4 芝原5	石作1 石作2 石作3 石作4 石作5 石作6

	組名	世帯数		組名	世帯数		組名	世帯数
1	今井原1	80	8	大瀬戸	116	14	石作1	68
2	今井原2	52	9	芝原1	60	15	石作2	33
3	今井原3	76	10	芝原2	43	16	石作3	53
4	今井原4	37	11	芝原3	69	17	石作4	18
5	仲今井1	32	12	芝原4	52	18	石作5	21
6	仲今井2	58	13	芝原5	25	19	石作6	11
7	仲今井3	26						

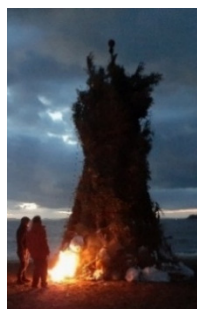
- ・区費は一月あたり400円。

区の行事

- ①区民会館の外回りの大掃除 年1回
 - ②防犯パトロール 祭礼・花火大会時に実施
- ※避難訓練は、コロナ禍以降未実施。

その他地域の行事

- ① おんべ焼き 1月7日に三浦海岸で開催している。
- ・令和7年1月は、今井原・仲今井地区、大瀬戸・芝原地区の2つのおんべを作った。



令和7年1月のおんべ焼きの様子。地域内外の大勢の人がおんべ焼きを見に、朝早くから海岸に集まった。これに合わせて、消防第7分団も警戒活動を実施していた。

②諏訪神社の祭礼 例年7月26・27日に開催する例大祭について

- ・3組に分かれ御神輿を担ぎ、屋台を引いて練り歩く。い組・ろ組が上宮田第1区、は組が第2区となっている。
- ・祭礼の主体は30代までの若者（若い衆）で、それ以上の人はOB（諏訪神会・祭友会）として関わっている。最近は若い女性の参加者も増えている。
- ・子ども神輿では中学生が活躍している。その下の代の小学生に木遣りを教える伝統がある。
- ・その他の祭礼として、元旦祭、春祭、秋祭がある。
- ・諏訪神社の神主は現在、菊名の白山神社が担当している。



木遣種類

- ★うけとりまし〜た〜ぞうえ〜
- ・これが〜い〜み〜だあよ〜
- ・さいた〜さく〜ら〜にいえ〜
- ・きょうは〜たい〜りょう〜だあね〜
- ・はこね〜はちり〜があね〜
- ・おきの〜しら〜ほ〜があね〜
- ・おだわ〜ちよ〜おち〜ん〜
- ★〇〇〇に〜わた〜す〜ぞうえ〜
- ・さい〜たあよおさあ〜くら〜
- ・これが〜あ〜よい〜ぐ〜み〜
- ・よほ〜ほ〜

わ〜んこ〜れわっ〜せ、ええ！
 よ〜およ〜おや〜れ
 う〜ら〜え〜ら〜りや〜んよ、
 よ〜おおお〜いっさんせ、
 ええよほ〜おや〜れ
 きてええ！え〜えええええ
 や〜れ〜こ〜や〜れ〜

写真は令和6年度の例大祭の様子。画像は、中学生が小学生に木遣りを教えるためのカード。

民生委員の思い

上宮田第1区民生委員
竹原 治美さん

地区の様子・住んでいて感じる事

- ・昔からの行事である例祭やおんべ焼き等、人口が減少していても続けていることがすごい！
- ・地元の漁協組合も新しい人材は少ない中でも、年末と3月の年2回売り出しを始めるなど頑張っている。
- ・地区の高齢化、少子化が進み、人口が減ってきている中、移住者が増えている。昔からの住民と新しい住民との関係がまだできていないところもあると感じる。

民生委員として活動していてよかったこと

- ・民生委員では、いろいろな分野の人達の講演会を聞いたり、話し合いをする機会が多い。たくさんの人達と話することができて勉強になっている。

民生委員をしていて困っていること

- ・区内のマンションやアパートに住んでいる人達とコミュニケーションをとっていきたいが、思うようにできていない。

地域で「困っていそう」「こんな手助けがあったらいいな」と思うこと

- ・隣近所の助け合いが理想だが、なかなか難しいと感じている。
- ・住民からは「地域の行事が少ない。」「地域の行事に参加したいが参加しにくい。」との声がある。
- ・担当する地区では、高齢者の交通手段がないことが課題。高齢者にとって、三浦海岸駅までは距離がある。駅まで行かないとバスが利用できず、病院や買い物に行くだけでも大変。

実施している互助的な取り組み

- ・自宅の近所に移住してきた人達との交流があり、10名くらいで定期的に情報交換をしている。民生委員として、困ったときの相談を受けたり、漁協組合や祭礼の若い衆と顔をつなぐことで輪が広がっている。
- ・お祭りに参加する若い世代に、神社の掃除や区の会館の草むしりなどを年に1回からでもやってもらえるように働きかけた。

これからやってみたいこと

- ・まずは防災に関心のある人を対象に、津波からの避難行動を考える「逃げ地図」づくり※をおこないたい。

※「逃げ地図とは、いつどこに逃げたら安全か？最も近い避難場所まで何分程度かかるか？一目でわかる自前の地図」のこと。認定NPO法人日本都市計画家協会「逃げ地図」HPより引用。

民生委員の思い



上宮田第1区民生委員
山岸 義明さん

地区の様子・住んでいて感じる事

- ・近くに海があり、静かで温暖である。地区の方も優しい雰囲気です。
- ・おんべ焼きや例祭等、行事が多くあり、住民の一体感が強い。様々な行事に参加させてもらっている。
- ・高齢者が増えている現状で、小さなことでも手助けができないかと模索している。

民生委員をしていてよかったこと

- ・民生委員として2期目に入り、自分の顔を覚えてくれる方が増えてきて嬉しい。
- ・月1～2回の訪問巡回では、対象の高齢者の元気な顔を見て、少しの時間でもお話できるのでよかったと思う。
- ・いろいろな方から相談を受けることが増えた。少しでも役に立てているのかなと思う。

実施している互助的な取り組み

- ・自分が住んでいる芙蓉ハイツでは「ふようハイツ交流サロン」を立ち上げ、コミュニケーションをとることで、一人暮らしの方を含めた孤立防止や見守りにつなげるべく実施している。また、緊急時の連絡網を作成した。詳細は42頁参照。

これからやってみたいこと

- ・もっと地区を歩いて多くの方と話して、関係をつくっていききたい。

民生委員の思い



上宮田第1区民生委員
上宮田第1区会計
原田 喜信さん

地区の様子・住んでいて感じる事

- ・地域住民の皆さんの協力によって、スクールガードの活動がスムーズである。
- ・月1回、全19組による組長会議が開催され、地区の問題点等、情報交換がおこなわれている。
- ・高齢者が年々増えている。
- ・いいところは、通勤通学の交通の便がいいこと。コンビニやスーパーマーケットがあり、買い物をするにも便がよく適している。
- ・小学校が近くにあり、公園もある。遊ぶのに不自由しない。

民生委員をしていてよかったこと

- ・毎月の定期的な訪問を高齢の方が楽しみにしてくれている。ゆっくりお話できる。
- ・頼み事を手伝うと非常に喜ばれる。例えば、病院への連絡やゴミの処理、施設の紹介など。

地域で「困っていそう」「こんな手助けがあったらいいな」と思うこと

- ・高齢化に伴い、ゴミ捨てや買い物が不自由になってきている。緊急時の病院への連絡も支援が必要。

これからやってみたいこと

- ・これからますます高齢化が進んでいく。近所付き合いが少なくなり、高齢者は特に社会参加の機会も少なくなり孤立していく。地域に、自身の意見を発信したり、交流できる場をつくっていく必要がある。
- ・運動不足も心配なので、公園や広場等、ラジオ体操ができる場所を見つけて、実施していきたいと思う。

主任児童委員の思い



南下浦地区主任児童委員
石作2組組長(調査当時)
長嶋 貴子さん

地区の様子・住んでいて感じるこ

- ・住民間で声を掛け合えるような、のんびりとした地域性である。いろいろな支え合いの仕組みがあるマンションがあり、昔からの祭を続けることで気の置けない間柄が自然にできている地域があったり、新たにできた戸建て世帯間で新たに組を作ったりと、いい感じだと思う。
- ・祭の盛んな地区では、年代を超えたつながりがあり羨ましい。
- ・組長同士の情報交換ができるとそれぞれいいところをまねできるので、区の定例会で機会があるといいと思う。

主任児童委員をしてよかったこと

- ・生まれ育った地域だが、仕事が忙しいことを理由に地域から離れていたため、地域に関われないことを後ろめたく思っていた。3年ほど前に仕事を辞めた後に「委員をやらないか」と声を掛けてもらい引き受けた。その結果、地域を知ることができた。後ろめたさも和らぎ、引き受けてよかったと感じている。
- ・地域住民と、お互い様の関係性ができてきたかなと思う。

地域で「困っていそう」「こんな手助けがあったらいいな」と思うこと

- ・子ども達は学校、高齢者は地域包括支援センター等に相談し、支援やアドバイスを受けることができる。しかし若者～高齢者になるまでの間、どの分野にもあてはまらない人がいる。その人達が困っても相談先がないので、対応できる場所があればいいと思う。

これからやってみたいこと

- ・今後は地域に還元できる活動をしたいと思っている。
- ・災害時、地域の皆さんが適切な対処や避難ができるようになるために、話し合ったり、手段を考えたりする場づくりを身近なところからやりたい。災害は難しいテーマなので、何回か繰り返し顔を合わせることで、意見がいいやすくなるような、ワイワイした集いができればいいと思う。

■上宮田第1区における地域踏査の概要

ソフト面（人々の暮らし、助け合いの仕組み等） 住民ヒアリング

調査は、95 頁に後述するワークショップ（茶話会）に参加する住民有志と共に取り組んだ。有志の近隣住民を主な対象として調査を実施した。

実施方法は、各戸を訪問し、ヒアリングシートに基づき、聞き取りをおこなった。また、対象者の状況に応じて、アンケート調査とした。各組長には、区の定例会を通じてアンケート用紙（右図）を配布・回収した。

上宮田第1区組長用	
変えたい地域づくりに向けた地域診断・ヒアリングシート（個人用）	
① 氏名（姓・名・姓） ② 性別（男・女） ③ 年齢（20代・30代・40代・50代・60代・70代・80代） ④ 職業（就労・無職・専業主婦・専業主夫・その他） ⑤ 住居（賃貸・持ち家） ⑥ 家族構成（家族構成） ⑦ 地域に對して、思っていることを自由に記入してください。 ⑧ ご記入後は、次回上宮田第1区定例会に於いて、他の参加者に共有させていただきます。	① 災害時に備えて不安なことはありますか、ある場合はどんなことですか。また、避難の仕方等について考えていることはありますか？ ② 地域で住みやすい等、あるといいなと思うことはありますか。たとえばどんなことですか？ ③ これからどんな地域になってほしいですか？ ④ その他
① あなたが思う上宮田第1区のいいところはどこですか？ ② 生活していて困っていること、こんな手助けがあったらいいなと思うことはありますか？（困りごとの限りでも構いません） ③ あなたのまわりで住民同士の支え合いはありますか、ある場合はどんなことですか？	
④ 災害時に向けて不安なことはありますか、ある場合はどんなことですか。また、避難の仕方等について考えていることはありますか？ ⑤ 地域であるといいなと思うことはありますか。例えばどんなことですか？ ⑥ これからどんな地域になってほしいですか？ ⑦ その他	
社会福祉法人 三浦市社会福祉協議会 地域福祉課 〒230-0101 三浦市関下浦野上宮田 1459-3 TEL・FAX 046-878-0802	

ヒアリングとアンケート共通の質問項目は以下のとおりである。

①上宮田第1区のいいところはどこですか②生活で困っていること・こんな手助けがあったらいいなと思うことはありますか③あなたの周りで住民同士の支え合いはありますか。ある場合はどんなことですか④災害時に向けて不安なことはありますか、ある場合はどんなことですか。また、避難の仕方等について考えていることはありますか⑤地域であるといいなと思うことはありますか。例えばどんなことですか⑥これからどんな地域になってほしいですか。

全 101 件の回答を得ることができた。なお、そのうち石作 2 組については、組長の協力により全世帯を対象に調査を実施することができたので、結果をまとめて次頁より掲載する。それ以外の各組の結果は 29 頁より掲載する。

また、調査の中で区内に 2 か所ある中規模程度マンションの一つである「芙蓉ハイツ」において、活発な住民活動をおこなっていることがわかった。これらは特集として 42 頁より紹介する。

同じく特集として、活発に活動する「スクールガード」を 45 頁より紹介する。

●石作2組について

長嶋貴子組長に調査の協力を依頼したところ「石作2組の組長になったこの機会に、住民の困りごとや希望などを把握し、今後の自治会活動に活かしたい。」と意欲的な返事をいただいたことから、組役員とともに調査に取り組むこととなった。

調査の概要	実施方法：回覧板にて調査の趣旨や内容を掲載したお知らせを回し、訪問の可否や希望する調査時間を尋ねた。訪問が難しい人にはアンケートの協力を依頼した。 調査期間：令和6年4～5月 回答数：合計31件（訪問15件、アンケート16件）
組の概要	 現在の世帯数は33軒。昭和50年代に、37軒の戸建て住宅が分譲されてできた地区。なお、住宅ができた数年後に、旭小が開校した。
調査の感想 （長嶋貴子組長）	石作2組のことがあまりわからずに組長を受けたが、この地域診断の機会が巡ってきて、本当に運がよかった。調査で今まで面識のなかった方に会えたことや、面識はあっても「地域のことをどんな風に思っているか？」など普段聞けないことがわかった。 調査結果から、皆さんが会う機会を持つことができれば、情報交換や、顔の見える関係づくりができそうだと思います。まずは「いい加減」に集いをやってみようと考えた。そしてやっているうちに「いい加減（適度）」になってきたらいいなと思う。将来的には、ここで生まれたよいつながりなどを、地域に還元していければと思う。キャッチフレーズは『いい加減』から『いい還元』で、目指せ！住みよい石作2組である。 調査で住民の関心の高さを感じたのは、災害や避難のことである。ま

石作2組のヒアリングとアンケート調査の結果

全意見を「①地域の強み」「②地域の弱み・困りごと」「③災害時を見据えて不安なこと・できたらいいと思うこと」「④地域の集まり等の希望」「⑤今後の希望」の5種類に分類した。そこから更に、共通する項目ごとに分け、主だった意見を抽出した。

①地域の強み

支え合い	・近所に頼りになる人がいる、入院時の手助けを頼んでいる。 ・わからないことがあると、近所の人に教えてもらっている。 ・近所でおすそわけをしている。 ・気づいたときに地域の草刈りや庭掃除をやっている。 ・以前は犬の散歩を手伝っていたこともある。 ・遠方の買い物には近所の人の車に乗せてもらっていて、大変助かっている。 【子ども関係】 ・地域の人達が小学校や子ども達を大事にしてくれる。スクールガードがたくさんいる。 ・第2子出産後の天候が悪い日は、上の子を幼稚園の送迎バスの駐車場に行く間、近所の人の下の子を見ていてくれた。 【声掛け】 ・散歩をしていると近所の人声が掛けてくれる。 ・近所との挨拶は欠かすことはない。人間関係の構築を意識している。 ・近所には元気な人が多い。一人暮らしの人には声を掛けている。 ・近所で井戸端会議を見かけたら、声を掛けている。
環境	・駅に近いのに静か。自然が豊か。 ・スーパーやコンビニが近くにあり、買い物しやすい。 ・学校や市役所の支所等の公共機関も近くにある。 ・病院が近くにある。 ・学校も買い物も駅も歩いて行ける。ちょうどいい距離。
自助	以前知り合いが道で倒れたとき、自分の情報（住所や緊急連絡先、血液型等）を書いた紙を持っていたら、情報を元にすぐ病院に搬送されたと聞いたので、自分も持つようにしている。

②地域の弱み・困りごと

生活上の 移動と買 い物	・市立病院の巡回バスの本数が少なく、利用しづらい。電車に乗って三崎口駅まで出て、路線バスで通っている。 ・貯金の出し入れをする郵便局が遠いので、駅前など近くに作ってほしい。 ・これから先、年を取ると動きが鈍くなっていくので買い物が不自由になる。 ・買い物に行く交通手段がほしい。今は毎日のようにタクシーで行っている。 ・刺身を作ってくれるお魚屋さんがほしい。 ・商店街、デパート、ラーメン屋、特に出前をするお店がほしい。
防犯	・押し売りや、振り込め詐欺が不安。 ・振り込め詐欺の電話や怪しい修理業者・買取業者がたびたび来て対応に苦労した。気づかず悪徳業者に屋根の修理を頼んでしまったが、近所の人が「おかしい」と教えてくれたので断ることができた。近所を悪徳業者が回っているとわかっていれば、防ぐことができる。
交流	・コロナ禍の前は、近所で電球を取り換えたりする助け合いが普通にあった。コロナ禍から感染防止に気を遣い、お付き合いしにくくなってしまった。コロナ禍が終わっても元の付き合いには戻らず、関係が希薄になってしまった。どうやったら取り戻せるだろうか。 ・近所で顔を合わせる機会が減った。自分もあまり外へ出ない。高齢になったこともあってか、コロナ禍以来、外に出るのが疲れるようになった。 ・自治会で役をやっている地域の人と交流があるが、役から降りると交流がなくなり、最近は外に出ることもなく人と会わない。 ・最近は地域の人顔が分からない。 ・昔は庭に出ていると声を掛け合う関係があったが、最近は近所の人と話すことがなくなってきている。 ・ゴミ出しで誰かに会えば話すこともあるが、早めに出すと人に会うことも少ない。
自治会	自治会の継続が今後難しくなりそうで心配している。高齢者が多い自治会で、活気のあるところを見学したい。運営方法等を知りたい。

環境	・ゴミステーションの掃除をしてくれている人がいるが、その人ができなくなったらどうするか。子どもも巻き込んでイベント的に草取り競争をして、ご褒美をあげてはどうか。 ・用水路に流れ込んだ土が溜まり草が生えてしまうため、たびたび市に相談している。（91 頁に写真あり） ・道路沿いの大木が、強風で折れて交通の邪魔になりそうで心配。 ・自宅、周辺の清掃、木の伐採をしてほしい。今は近所の方がやってくれている。 ・公園の近くにいつも路上駐車する車があり、子どもの通学路なので事故になるのではと不安に感じる。警察で取り締まってほしい。 ・夜、一方通行の道をすごいスピードで走っている車がいって危ない。 ・中通り（石作の真ん中の道）を通る車が多いが、外側の道（墓地側の道）を通ってもらったほうがいいと思う。
介護疲れ	家族の介護をしている。デイサービスへの連絡や、自分が決めないといけないことが多く、大変で疲れてしまう。
困っていない	・以前から三浦に住んでいるので困ったことはない。親戚が近くにいる。 ・特に困ったことはないが、情報が入りやすかったらいいと思う。 ・あまり考えたことがない。 ・あまり話をする機会がないので、困っている人のことはよくわからない。

③災害時を見据えて不安なこと・できたらいいと思うこと

避難	【不安なこと】 避難が難しい ・旭小に避難するには、坂や階段があり、行くのは難しい。老健なぎさに行くにも坂があり大変。目の前の畑かみかん畑なら避難できるかもしれない。 ・旭小まで逃げるのは大変なので、逃げるのを諦めてしまうかもしれない。 ・避難所の旭小の学校周辺は急傾斜の特別警戒区域と警戒区域のため不安。 ・中通りの出入り口付近で家が崩れて道をふさいだら通れなくなるので、その際は家の敷地内を通過して外側の道に出てはどうか等、近隣間で話し合っていた。 避難路・避難場所がわからない ・災害時、外に出て平気かどうか心配なので家にいるつもりでいる。外に出るとして、どこに行けばいいのかわからない。一人だから、声掛けしてもらえると嬉しい。 ・子どもが通学路にいるときに地震があったら、どこを通ったらいいか。 旭小が心配 ・旭小に避難するつもりだが、擁壁のクラックは大丈夫なのか心配。 ・家の前の道は土砂災害警戒区域なので危ない。災害時に「この道を通るといい」等と言ってくれる人がいてほしい。 ・家族では避難場所、集合場所を旭小の〇〇のところで決めている。ただ、津波が来たら旭小が孤立してしまうのではないかと。高円坊を目指して逃げた方が、最終的に横須賀方面へ逃げられるのではないと思う。 ・旭小が統合でなくなったら避難場所がなくなるので心配。 【できたらいいこと】 声掛け ・みんなで声を掛け合って避難所に行く。 ・まずは自分の身を守ってから、近所に声掛けして逃げようと思っているが、離れた家までは声を掛けに行けない。訓練をしているとパッと行動できると思う。みんなで話し合うことが大事。 ・災害時、地域には年配の人が多く、助けられるよう役割分担が決まっているといい。声を掛けるだけでもいいと思う。バラバラにやるより、声を掛ける区分けを決めておくといい。災害時に動ける人がどれくらいいるのかということや道路状況によって、車にピックアップして旭小に行くなどできたらよい。 訓練 ・両隣に、いつも子どもをかわいがってくれる高齢者が住んでいる。津波が来たとき一緒に逃げられるよう、避難訓練できるといい。 ・スムーズに避難できるか？高齢者も多いので訓練など必要ではないか。
----	--

話し合い	・自治会の中で災害時の避難について話し合っていないことが不安。個別では考えているようだが、皆で話し合うことでフォローし合えると思う。例えば心配な家庭への声掛けなど、誰がどの人に声を掛けるかを決めるなど、役割分担できるという。 ・歩行困難な人への配慮が必要。避難時の補助等について地区の連携が薄いと感ずる。 ・地域の人達との話し合いの場をつくり、人間関係を密にして、お互いに助け合えるようにしたい。 ・「逃げ地図」ワークショップを自治会で予算を出してもらってできたらいいと思う。 ・年1回の定例会はあるが、これからは災害についての話し合いができればよいと思う。 ・以前組長をしていた頃に、避難について組でも話し合い、市に提案書を出したことがある。
------	---

環境	・近くの土手が土砂災害危険区域になっていて、すぐ下は通学路になっていることもあり、心配。何かあればすぐ市に連絡するようにしている。昨年木が倒れたときは市が伐採に來たり、市の働きかけで地主達が集まって作業をしていたこともあった。 ・家の裏手の土手が崩れてきたらと思うと怖い。 ・旭小の擁壁にクラックがあり、平成20年に石作2組自治会として教育委員会に陳情し、それから両方で定期的に観測調査をしていて、現在まで概ね変化はなしとなっている。小学校付近の傾斜地が土砂災害警戒区域であること、水平方向クラックの原因がわからないこと、近年の災害は想定外のことが多いことなどの理由から、少しでも不安を少なくするためにも継続観測が必要との思いがあり、教育委員会に調査継続をお願いしている。（91頁に写真あり） ・津波は来なくても組の中にある水路が内水氾濫する可能性もあるのではないかと。水路に山側から土が流れてきているので心配。 ・災害時のトイレは、道路の下水管の蓋を取って、トイレとして使うといいと思う。 ・県の中心部から、三浦市までの道路が少ないので、災害時に救援物資が届きにくいのではと心配。
----	--

支え合い	・三浦海岸ハイツのように黄色いタオルを出して、安否確認できたらいいと思う。 ・災害時に冷静な人がいてくれると助かる。
------	---



自助	・備えはまだきちんとできていないが、ミルクは多めに用意している。 ・長期間他地域に滞在する場合、留守で連絡できないと大変困る。隣家、近隣家にそういう家庭の住所、連絡先を明示しておくように連絡があるとよい。 ・火事には気をつけて欲しい。
----	---

④地域の集まり等の希望

交流の場	・人としゃべる場があるといい。身内が亡くなった方は、話す人がいない。若い方と挨拶はするけど、お付き合いはない。 ・顔を見て集まれる機会があるといいと思う。ポットを持って歩いて行けるくらいの近いところ。でも集まる場所がない。そこに行けば誰かがいるようなところがあるといい。空き家が増えているので、オーナーの協力で使えるといい。 ・集える場所が区のあるところがあるといいと思う。人と話せたり、相談できる場所。集う場所があれば、地域の人の興味、関心のあるテーマ（認知症、振り込め詐欺、感染症等）の研修ができる。 ・駅周辺の歩いて行けるところに、ベビーカーで気軽に行ける場所があるといい。 ・同世代の親子に会える場所がほしい。
------	---

活動	女性達で2、3人ずつのグループを作って活動するのはよいと思う。
----	---------------------------------

イベント	・お祭り ・昔は花見の会もあった。
------	--

集まりは 難しい	・集まれる場所がない。区の会館は遠い。 ・個人情報の問題がある。人とどこまで、どのように接していいかわからない。
-------------	---

⑤今後のこと・希望や不安

交流	・住民間で気軽に話ができる地域になってほしい。 ・どんなことでも親しく話すことができ、助け合っていける地域になってほしい。 ・コロナのせいであまり話せなかったと思う。これからはもっと皆さんと話したい。 ・近隣住民との連携が強くなるといいと思う。 ・家の中に閉じこもっている人が多いが、昔の井戸端会議のようにみんなで話し合いができるようになってほしい。 ・高齢になり年々体力がなくなり、緊急時に助け合うことが困難となる。若い人との交流の場があるといいと思う。 ・情報が入りやすくなってほしい。
----	---

地域の頼れる存在	・30年位前、地域では定年後の世代が地域を守ってくれている感じがあった。若い世代の私達に声を掛けて育ててくれた。 ・昔は、わんから（喫茶店）で月1回男性陣が地域のことについて話し合いをしていた。当時のメンバーはいなくなり、今は音頭をとる人がいない。若い人が音頭をとってくれたら助かる。高齢者がカバーすることはできる。
----------	--

買い物	本人も同行できる買い物支援があるといい。
-----	----------------------

自治会のあり方	・区の定例会をレンタルスペースあいばでやってくれると少し近いので助かる。会場利用料はみんなで負担すればいいと思う。定例会が昼間なら会館まで行くことができるが、夜は危なくて行くことができないため、組長を引き受けられない。 ・定例会について、南下浦コミュニティセンターでできないか。不可能であれば時間設定に配慮してほしい。 ・高齢者が増え、組を抜ける人も増えるのではないか。若い世代は子育てで忙しく、組の役割をできないこともあるがどうしたらいいか。
---------	--

雰囲気	・高齢化により住民が減り、空き家が増えている。若い人が引っ越して来やすい環境になるといいと思う。 ・いい意味で「昔ながらの集落」のような地域になってほしい。 ・穏やかに過ごすことのできる場所、地域。
-----	---

その他	・警察のパトロールを増やしてほしい。 ・「自治会に未加入でもゴミは出せる」とわかりやすく説明したらいいと思う。
-----	---



No	性別	年代	上宮田第1区のいいところ	生活上の困りごと、 あったらいいと思う手助け	住民同士の支え合いが あるか	災害時の不安	避難の仕方等について 考えていること	地域であるといいなと思うこと	どんな地域になってほしいか	その他
8	女	30	海まで平坦で環境も良く、地域の目 もあり住みやすい。	・最近、子どもを外で遊ばせたり、 登下校させる時の不安が大き い。 ・子どもの遊び場がない。ハイツの 公園までは少し距離があるし、海 に子どもだけで行くのは不安もあ る。子どもが安心して遊べる空間 がほしい。	カラスがゴミを散らかしても、 放置はされない。できる人が掃 除してくれる。見て見ぬ振りな れないこと。	津波が来たときに逃げ切れるか。	とにかく高台に逃げる しかないとは思っている。	子ども会のような、子ども向けの 集まり。	穏やかに住めればいい。	
9	女	40	・気持ちよく挨拶できるご近所さん が多い。 ・祭を通して、地域の人とつなが ることができる。 ・小学校の通学を見守るスクール ガードがある。	特になし。	ペットを飼っているのに、ペットを連れ て避難場所へ急いで向かえるか。ペッ トのスペースは確保できるか不安。			地域猫、保護猫、保護犬などの情報 があれば、回覧板や掲示板などで 情報を共有したり、拡散に協力した い。	散歩していて、笑顔で挨拶 できる地域。ペットも幸 せになれる地域。	
10	女	50	多くのスクールガードが子ども達の 登下校を見守ってくれる。大人の私 達にもいろいろとやさしいと声を掛 けてくれる人もいて、とても気持ち がいい。	最近、ゴミ置き場に収集されずに 残っているゴミが多い。地域住民 以外の人が置いていくのか？ゴミ の出し方(混在等)を確認してほ しい。ゴミ置き場の掃除をちゃんとし ていない人もいえるようで残念。	ご近所との交流がほとんどないため、 いざ災害があったときに助け合えるの か？			災害時近所の人々と支え合えるよ うお互いを知っている、助けられ ることが増えると思う。 集まりがあったらいいとは思 うが、今の時代、近所付き合 いを敬遠する人が多いので、企 画しても集まる人は限定的に なると思う。	若い世代が住みたいと思 える地域。	
11	－	－	・海や山に囲まれ自然豊かで暮らし やすい。 ・地元の人達も温好で交流しやす い。 ・三浦はのびのびとした環境で子育 てにはいいという声もあった。	世代交代や新しい人も住むように なり、交流が少なくなっている。 る。	近隣には、気軽に相談に乗って くれる。	災害に対して防災訓練などの情報はい ろいろ発信されているが、実際に発生 したときに行動できるが疑問に思 う。		地域の中でいろいろな役割を担っ ている人たちの情報を発信して、 地域の音(特に若い人や転居して きた人達)に伝わるような取 組みができないか。	気軽に挨拶や声掛けし合 う地域に。	
12	女	70	毎日スクールガードに出ている。若 い人も出てくれたらいいと思う。	・ゴミステーションに網があるが、 中にちゃんと入れていない人がい るので、カラスが引っ張り出して困 る。 ・ゴミステーションが道路にあり、 危ないから他の場所に変えてほ しい。	いたなき物を近所におすそ わけしたり、留守にするときは 都度声掛けをしている。	家が海の側なので、津 波が来たら、少しでも大 きな物を持って、上の 方に逃げるしかない。		規則を守ってちゃんとゴミ を出してくれるようにして ほしい。		
13	女	70	地元の人々は名前も、その前の代の 人も知っているのが気軽に言葉を 掛けてくれる。また、子ども達にも気 に掛けて声を掛けてくれる。		近所には、気軽に相談に乗って くれる。	家か来たら、少しでも大 きな物を持って、上の 方に逃げるしかない。	今までの避難の仕方 がいいと思う。	夏なら浜でバーベキューとか、もっ と周りの顔が見えたらいいと思 うが、子どもも少なくないとい う。また仕事があるので、集まりが あったとしても少人数かなと思 う。	隣同士の顔がわかる地域 になったらいいと思う。	
14	女	80	ご近所とは顔を合わせれば挨拶す る程度で、頻りに交流することば まではないが、平穏な日常が維持で できている点がいい。	・決まりを守らないで出したゴミ や、通りがかりの人が捨てていく ゴミが収集されないままになって いて、ゴミが散らばっていること があり、残念に思 う。 ・ゴミステーションが道路端で、日 によって大量のゴミがはみ出し、 交通の妨けになっている。道路の 端でないぎりぎりの場所が欲しい。	・この地区の避難場所は旭小が指定 されているが、遠くて大変だとい う不安がある。体が不自由な人、お年寄 りには、特にそう。 ・災害のときだけでなく、避難の途 中、手を貸してくれる人がいるとい い。 ・大災害の時には、助け合っているこ とは通用しない。めいめい頑張るし かないので、年に一回といわず、避難訓練 を重ねていくことが大事だと思う。	引っ越して来た人や、一人暮らしの 人にとっては、雑談で気軽に話し合 う機会を望んでいると思うが、若い も若きも、それぞれが忙しく、改 まって集まることは難しいので は？	最低限、お互いに挨拶をす る。 迷惑を掛けたくないことを守 って、平穏な暮らしが維持で きればいい。			



No	性別	年代	上宮田第1区のいいところ	生活上の困りごと、あったらいいと思う手助け	住民同士の支え合いがあるか	災害時の不安	避難の仕方などについて考えていること	地域であるといいなと思うこと	どんな地域になってほしいか	その他
23	男	70		独身者が多い。 免許返納することになったら、買い物や病院に行けなくなる。						
24	女	70		・近所に一人暮らしの高齢者宅が5〜6軒ある。 ・このあたりは、お店がない。駅まで行かないと生鮮野菜、果物、肉、魚は買えない。車が使えなくなったら心配。今は夫の車が、自分一人の時はタクシーを使っている。 ・ゴミステーションは近くにあるけれど、木のゴミがたぐさになり、あふれることもある。	・年配の人はあまり近所付き合いをしない、出歩きたくないと聞く。介護認定があっても、余計な神経を使いたくない。家がいけないという人が多いのかもしれない。 ・夫がいるので、近所の人を誘って家でお茶するようなことはない。 ・近所の人たちは、みんな忙しくて、声を掛けるような人もいない。	津波の避難は、市境の道を通って坂上がるルートになるが、大変で歩けない。		昔は地域にスーパーがあったり便利だった。	京急ストアで買い物3,000円以上で配達してくれると聞く。自分には使っていない。	
25	女	70	ゴミステーションのガラス被覆が多いが、近所の人工夫してやられている。	・この辺は、買い物ができるところが何もない。コンビニもない。今は車があるけど、夫も70代後半で免許証返納後が心配。別居している子どもたちも心配してくれている。 ・もともと平地なら移動販売の車も来るかもしれないけど、この辺は中途半端。昔は近くの商店が、御用聞きに来てくれた。 ・近所に高齢者の独居や高齢者世帯があり、心配。一人で頑張っている人が多い。	この辺りは、昔から住んでいる人達なので、仲良くしている。隣の人には、息子達の連絡先を伝えてあり、1日雨戸が閉まったらままでのときは、息子に連絡してもらうよう頼みである。	・避難場所の旭川までは、行けない。通り道にブロック塀も多くて、危ない。 ・近くの坂を津波避難で登るといいと思うが、急なところが一か所ある。旗の手すりがあれば、高齢者も登れると思う。 ・所有する畑を、幼稚園の津波避難の一時避難場所に使っている。そこに、幼稚園の防災倉庫も設置している。地域のための防災倉庫の設置にも、活用してもらってもよい。 ・地区ごとに、水や毛布、食バ物等を用意しておくと思う。	・区民会館が、区の真ん中あたりにあるといいと思う。 ・昔は、子ども会でお化け屋敷とかの行事をやっていたが、今は子ども会がなくなってしまう。	・図書館と喫茶店がほしい。		



●大瀬戸

No	性別	年代	上宮田第1区のいいところ	生活上の困りごと、 あったらいいと思う手助け	住民同士の支え合いが あるか	災害時の不安	避難の仕方等について 考えていること	地域であるといいたく思ふこと	どんな地域になってほしいか	その他
1	女	70	・ご近所をよく知っている。 ・何かあったら、助けてもらっ たりする関係があるところ。 ・長く住んでいる、顔なじみの 人が多い。	・道が狭くゴミ収集車が入れない ため、ゴミステーションが家から遠い。 ・ゴミステーションの掃除当番は、毎 日、掃除用具と記録用紙を回してい る。 ・冬の夕方、暗くなると、親が子ども を迎えに来ているのを見かける。寒い ていると大変だと思う。	・近所に一人暮らしの高齢者がいる が、ご近所で声を掛け合ってくれてい る。 ・ご近所の顔が見えないと、声を掛け 合ったりしている。 ・子どもがいる家とも、挨拶したりし ている。	・池小が避難先。今のところ、心配はな い。		集まりがあっても、皆あまり出 て来れないかもいけない。		近くに、子ども達が集団登校で集 まる場所があり、にぎやかだ。
2	女	90	自然がある。海もいいし、山も いい。季節の移り変わりがい い。	近頃の商店がなくなってきたしま った。三浦海岸まで買い物に行かない といけない。今は息子の休みの日に、 連れて行ってもらうている。 近くに、ドラッグストア等でできま す。京急ストアでは、3,000円以上の 買い物で家まで届けてもらえるが、す ぐ食べたいものは持つて帰る必要が ある。配達が届くのを待てない。	・両親で、声を掛け合っている。 ・細長のときスクールガードを担当し てから、そのまま今も週1回隣けてい る。子どもたちがかわい。	地震や火事等、不安なことがいっぱい ある。	地震の場合は、線路の 高架下を通り、坂の上 に逃げようと思ってい る。	区民会館で集まりがあっても 遠い。		
3	男	70		今は困っていないが、車の免許を返 納したら買い物に心配だ。	・両親で、声を掛け合っている。 ・細長のときスクールガードを担当し てから、そのまま今も週1回隣けてい る。子どもたちがかわい。	地震や火事等、不安なことがいっぱい ある。	地震の場合は、線路の 高架下を通り、坂の上 に逃げようと思ってい る。			・道路がもっと広いといい。 ・自分で出掛けないと思ってい るが、最近、以前行っていた釣り にも行っていない。
4	女	70	皆さん親切で優しい。支え 合っているところ。	特になし。	・何かあると、ご近所で声を掛け合っ ている。 ・おすそわけがある。野菜がとれたら 配ったり、おかずをたくさん作たら あげたりしている。 ・親の代がなくなっても、子の代で もつながっている。 ・昔からの地元の人は、親切で声を掛 けてくれる。 ・近所にできた新しい家の人達とも交 流している。野菜を届けたり、車を停 めさせてあげたりしている。 ・スクールガードを週2回やっている。 夫が前の区長と活動を立ち上げた。 夫が亡くなった後も続けている。		旭小までは行けない。 近頃の畑等に逃げるつ もりだ。ここには、津波 は来ない」と聞いた。	今は、とても過ごしやす い。近所に引っ越して来 た方々も、気持ちよく接 渉してくれる。		
5	女	80	心配しないで、毎日生活でき るところ。	・年をとると、急に何か起こることが ある。息子がいるときは相談できる が、一人のときは自分で判断したり、 救急車を呼んだりしないといけない ので大変だ。 ・この辺は、子どもが少なくないとい う。地の人でも引っ越したり独身だつ たりと、子どもがいない人があまりい ない。引っ越して来た人たちの子どもが いる。	ご近所の支え合いがある。昔からあつ たが、今でも野菜をいただいたりす る。 以前は、屋敷で100の子どもも「100 のお兄ちゃん」というつながりがあつ たが、それがなくなってきた。 今は人を誘ったり、頼ったりはなく、 自分のライフスタイル、その人の個性 で生活している。	この辺は関東大震災以後、災害はな いけど、何かあったときには声掛けを してほしい。誰かに「逃げよう」「こつ ちに行こう」と声を掛けてもらわない と、正しいかわからない。若い人に声 を掛けてもらいたい。高齢者は「今ま で平気だったから今回大丈夫だ。」と 思ってしまう。 逃げるときに動けるかどうか不安。	・老人会に誘われたりする。出 なく、ちやいけいかなと思う が、自分のことで精いっぱい。 ・60～70才の元気な人向け の体操はあるが、80才以上の 人となるとどうか。	・年を取って、急に具合が悪くなつ て救急車でいった後、誰にそれを 伝えたいか？夫の片方が 入院したとき等、ご近所からの生活 を相談したい。一人になつたらど うしたらいいか。 ・介護認定はどうしたらいいの か。病院や老人ホームに入るに は？元気なうちに、どういう施設 があるのか、入る条件等を知りたい。 い。		

No	性別	年代	上宮田第1区のいいところ	生活上の困りごと、 あったらいいと思う手助け	住民同士の支え合いが あるか	災害時の不安	避難の仕方等について 考えていること	地域であるといいなと思うこと	どんな地域になってほしいか	その他
6	男	70	・災害がないところ。 ・治安がいいところ。 ・静かなところ。 ・住めば都。	特になし。	近所に一人暮らしの高齢者がいて、よくうちの庭で一緒に話をしている。	災害はないので、特に心配していません。	避難の仕方等について考えていること	孤独が好き。		・釣りが好きで、15人くらいのグループを作っている。一人だと、危ないので、自分達はゴミを出さず、必ず掃除をして帰る。だが、他から来た人が、ゴミを置いて帰っている。 ・二軒先の先の岩場は釣りスポットだが、釣り禁止となっている。釣り人が来ることで活性化にもなるので、釣り公園として有料化してほしい。
7	女	50		近所に一人暮らしの高齢者は少ない。農家さんなど、ご家族と一緒に暮らしている。	・大家がご近所で、おすそわけがある。 ・犬の散歩や登下校で、ご近所とは顔見知りだ。		災害時に向けて、近所の人と、もっと顔を合わせたい。炊き出しや、訓練等をしたい。以前「近所で避難訓練をしよう」と声を掛けてくれた人がいた。			
8	男	70	駅や海が近く、環境に恵まれている。行政センターも同様である。地形的に考えると、風水害の心配もありな気がした。津波だけでなく心配である。	現在は車の運転ができ、買物も自由ができるが、何年後か先には、買物も不自由するかもしれない。そうした場合、昔でいう御用聞きのような方法で、各家に注文取りをしたり、電話による注文取りをする方法も有効である。	以前はさくばくばらんであったが、今はアプリバン、個人情報等があるため、支え合うことは難しいのではないかな。		コロナの関係で2～3年は、防災訓練はおこなっていない。これからは、今までどおり防災訓練（津波訓練）をおこなうべきだ。 防災訓練は、高い所に避難するが、1区の場合、足の不自由な人用に、車いすでの訓練を実施したらどうか。	コロナの関係でいろいろな行事が中止になっていったが、昨年あたりから徐々に実施されるようになってきた。おん八様、防災訓練、組長の定例会は今までどおり実施していただきたい。	特になし。 今のままでいい。	
9	女	50	ゴミ捨て場が、いつもキレイ。	例大祭の神輿のときに、車を移動しなくてはいけなかったり、ゴミが散っていたり、深夜までうるさくて、とても迷惑している。何とかしてほしい。		避難所に、犬も連れて行っているのか？		特になし。		
10	男	60		時々コンビニ駐車場で、深夜お客さんの話し声、笑い声による睡眠妨害に困っている。警察による、日常的なパトロールを充実していただきたい。	平和なので、今のところない。	予測できないことが起こった場合。	避難の仕方は状況による。	特になし。	平和で、ポイ捨てゴミのない町。ペットのフンのない町、清潔な町。	区費の集金の必要性について、周知してほしい。個人的には、必要なら徴収として、市税に課税していただきたい。

●芝原

No	性別	年代	上野田新1区のいいところ	生活上の困りごと あったらいいと思う手助け	住居同士の付き合いが あるか	災害時の不安	避難の仕方等について 考えていること	地域であるといいたと思うこと	どんな地域になってほしいか	その他
1	男	70	・駅に近い ・海が見える ・静かで閑静な住宅街。	特になし。	野菜をもらったりする。	・1番の心配は津波、川の氾濫や、かけ崩れの心配はない。 ・家屋の倒壊も心配。	旭小が避難所。今はいいけど、ゆくゆくは自分の足腰が心配。	地域であるといいたと思うこと	消滅都市であることが心配。いろいろな人に住んでほしい。	
2	女	60		・近所の人と会って話す機会が少ない。 ・一人で家にいる高齢者もいる。つながりがほしいと思う。いつまで里親を払えるか」といっていた。 ・近所に子どもがいない人や、老介護の人もいる。	近所の人の通所に連れて行ったりしている。			情報 相談先が目につくところにあるといい。高齢者には、広報誌、チラシ、回覧板がいいが、若い人向けの方法と両方あるといい。		
3	男	70		地域の見守りや、緊急時の連絡方法があるといい。	ご近所からおすそわけをいただくこともある。	旭小の避難場所までが遠い。		皆が挨拶できるような、日頃から顔が分かる関係があるといい。地域の人か、そうでない人かがわかるようになれば、防犯になる。		
4	女	40	・住民の質がいい。 ・三浦海岸のバリエーションがいろいろあるらしい。	・公園が少ない。近所に1か所しかない。 ・公園があっても、整備されていない。遊具もなく、砂場がカチコチ。どの公園も、ベンチも朽ちている。	・同僚、向かい側の住民と良い関係がある。 ・近所に子どもを預かってくれる人がいる。おかすをいただいたり、お互いに安否確認をし合ったりしている。		三浦海岸ハイイツに逃げる予定。	・特に求めているない。 ・子ども会があったらいいなと思うが、運営が大変だからできないうい。	・年に1回、夏祭があったらいい。 ・子育てがしやすい地域になってほしい。子育て世代が集まれる場所があって、交流を持てたら嬉しい。	・ゴミステーションは新しい住宅の人たちで、費用を負担して設置した。地域の人たちと一緒に使っている。
5	女	40		特に困っていない。	会ったら声を掛け合ったり、お土産や野菜を渡し合ったりしている。	子どもがいるので、津波が心配。	・どうやって旭小に行くか、そとでも考えている。旭小までの通送が無理。だったら、どこかいい家に考えている。美容ハイツに送らせてもらえたら助かる。	・特になし。 ・必要な情報は入ってくる。		・スクールガードのみなさんに感謝している。どこに行っても、スクールガードがいるから、スクールガードの目があるから、ありがたい。大人の目があることで犯罪から守ってもらえている。
6	男	50	気候がいい、海がある。	住宅街の通りや旧道を、車がびっくりするほど速いスピードで通るので、怖いと感じる。	近所とは、いい関係ができている。	津波が心配。旭小まで逃げるのが大変。		特になし。今は近所でよいお付き合いができている。	市全体で、防犯カメラが重要所にあるといい。	・新しい南下浦市センターの図書館が活用されて、活性化するといい。 ・市の財政が心配。消滅可能性都市。
7	女	80	静かでない。	・子どもが少なくて寂しい。 ・別荘にしている人がいるので、留守宅がある。たまに姿を見ることがあるが、回覧板は飛ばしたりしている。	・困っていることがないので、支え合いはないけど、顔を合わせれば、声掛けをし合っている。連絡ではないが気遣いはある。様めことはない。 ・若い世代は、近所付き合いをしている様子がある。	避難場所が遠くて、現実的ではない。		地域に出ることはほとんどない。		
8	男	40	特になし。		あまりない。	・旭小まで距離があるので、心配。 ・能登では、住民は、国からの支援待ちになっていて、地域での助け合いが弱くなっていると感じた。		・組の集まりがない。組ができたら当初は会館で集まったが、今は集まりはない。 ・災害で避難しても、近所の人の顔と名前が分からない状況なので、もう少し交流があるといい。		
9	女	40		・あまり困っていることはない。 ・組長、会計や組の運営が大変そう。役は1年交代で回っているが、留守の人も多いので集金が大変そう。	子どもの同級生の親と付き合いがある程度。	犬を飼っているのと、どこかに避難に行くことはできないと思っている。		・特になし。 ・組で集まって話すことは難しいと思う。	今、問題なく静かに過ごせているのでこのままがいいと思っている。	

No	性別	年代	上宮田第1区のいいところ	生活上の困りごと、あったらいいと思う手助け	住民同士の支え合いがあるか	災害時の不安	避難の仕方等について考えていること	地域であるといえないと思うこと	どんな地域になってほしいか	その他
10	女	60	・区長が一生懸命やってくれている。 ・上宮田1区会館を使えるように残しておいてくれたことがよかった。		わからない。	1区は津波被害が怖い。避難じがほしい。			地域の人の顔がよくわかり、もって交流のある地域になるといいと思う。	
11	女	50	・挨拶すると挨拶を返してくれる人があるところ。 ・子どもたちの登下校の見守りをしてくれているところ。 ・地元の方が何となくわかるところ。不審な人がいたら気が付ける。	・時々ゴミ出しのルールを守らない人。 ・犬のフンが道路にそのままになっている。	・組長になったとき「大変ですね。頑張ってください。」と励ましてくれたり、里親等を呼びつたりの金額で用意してくれていたりする。 ・共働きのので、日中家にいないことが多く、支えることはなかなかできていない。	・避難先に行ったとして、誰がリーダーになり、自分かどんな役割ができるのか、といった避難所の運営面。 ・我が家は現在、全員が自分で避難できる健康状態だが、一人で避難すること、が難しい人はこの地区にどれくらいいるのか？ ・台風や暴風雨時の避難するタイミングの判断。	・避難先に行くと、子どもたちも楽しく参加できるという。 ・レクリエーションとして、ポツチャ、モルックといった、簡単な道具で子どもが楽しめるものがあるという。	・挨拶したら挨拶が返ってくる。 ・いざというときに協力、共助し合える。		
12	-	-	・海が静か、騒音が無い、車が通らない。仕事をするのにベスト。	まだわからない。	特になし。	・墓山に逃げる。 ・散歩で道を覚えるようにしている。 ・玄關に逃げ出す時の荷物を置いている。	・墓山に逃げる。 ・散歩で道を覚えるようにしている。 ・玄關に逃げ出す時の荷物を置いている。	・もう少し活性化してほしい。 ・海にベンチもない。海辺でアイスクリームを売るとか、そういった店もない。海が綺麗だからもつたない。 ・桜まつりでも駅前にお祭り(出店等)がない。		
13	女男	70 80	・縁やで災害が少ない。事件もなく、近所は親切で優しいので住みやすい。	・砂浜にゴミや犬のフンがある。 ・バスの本数が少なく、車がないと買い物が不便。 ・近所の家の洗濯やゴミ出し等、家事の手伝いがあるという。	・近所の子とも仲良くさせてもらい交流している。孫みたい。	・台風19号では瓦屋根が壊れ、雨漏りした。 ・災害時は、もっと寄付をした方がいいと思う。	どこにどんな人が住んでいるのかわからない。子どものこともわからないので、子ども会や母親クラブがあるという。あると煩わしい面もあるが。	・明るいのが一番。 ・何かあれば、すぐにみんなが集まれるような、助け合える町。	・地震以来、魚がいなくなつた。 ・水が綺麗になりすぎた。 ・海藻がない。	
14	女	70	海があり、富士山が見える。	・野菜が安い。	・何かしらある。 ・挨拶しない人もいる。昔は近所で入院したら皆で見舞いに行つたが、今は知らない。	津波。	炭、包丁、鍋など、畑に避難時の道具がある。	・交流がない。盆踊り、カラオケをやらなくなくなった。 ・里全体で祭をしたい。今の祭は若い人だけになってしまった。	・通称化してほしい。 ・子どもたちは昔、外に出て行った。	
15	男	80	区に会館があること。	井戸端会議等、近所のつながりが改めて必要になってきている。	縁側にいると声を掛けてくれる人がある。	・家が築100年、関東大震災でもビクともしなかった。 ・災害時にボランティアがあるというと思う。	足が重いので、あきらめている部分もある。	・人のつながりを多くしていける。会がこちらでできればよい。以前は月1回あった。 ・小中学の同級生は、兄弟のようだった。	・住みよい町。 ・犯罪のない町、その仕組み作りが必要。	
16	女	60	・考えたことがない。 ・区長さんが、すごくよくやつてくれている。	・高齢者が多く、空き家がどんどん増えていく。 ・川の側に子どもが落ちそうなところがある。ロープを張っていないところもあり、入れそうで危ない。	海沿いだから、津波が心配。親戚が心配してくれている。	避難所がよくわからない。津波の時は抱小、それ以外の時は南下浦コミュニティセンターか？	・特になし。	・働いていたので、近所との付き合いがない。付き合いが持てるといい。 ・もともと三浦が活気づくという。親世代が多い。子ども世代は働けるところがないので、出て行ってしまつた。		
17	女	60	ご近所が助けてくれる。	特になし。	ある。困ったことがあれば、すぐ助けてくれる。植木を切つたりすると、すぐに来て、片付けを手伝ってくれたりする。	・避難所は抱小だが、高齢者には大変。少し遠い。足が重いので、心配。 ・東日本大震災のとき、抱小に子どもを迎えに行つたら、グラウンドがびび割れていた。	逃げ方はどうしたらいいのかわからない。歩いて行けばいいのかわからない。	集まりは苦手なのであまりない。いい。	このままでいい。	

No	性別	年代	上宮田第1区のいいところ	生活上の困りごと、あったらいいと思う手助け	住民同士の支え合いがあるか	災害時の不安	避難の仕方等について考えていること	地域であるといいなと思うこと	どんな地域になってほしいか	その他
18	女	70	おおらかなところ。		・近所の顔目がなく、他人ではない感じのお付き合いがある。近所におかすを届けに行ったり、雨戸が開まっていたら、棒子を見に行く等、お節介様している。それを受け入れてくれている。 ・一人暮らしの高齢者の家に声掛けに行くと喋ってくれる人がいると助かるよ。」と言われる。 ・女性同士で井戸端会議ならぬ花畑会議をしている。	・風が心配。台風の後、家等に水を掛けると作業が大変。	・東日本大震災のときは、近所に声を掛けて回って避難した。言葉掛けが大変。 ・「息子が帰って来るので残っている。」と言って、逃げない人もいた。	・勝手に集まっている。 ・「家にかかって」というので外にいますを出して、お茶しようか、お喋り会をしてみたいね。」と話している。喋りたいことばたくさんある。 ・会館だと騒々しいので、近所の井戸端会議がいい。	今のままでいい。若い人が帰って来ないが。	蛇がいなくなつた。蛇はねずみを食べるから、いた方がいい。
19	女	—	わからない。良くも悪くない。	・自分のことではない。病院と買い物にやっとならなくていい。 ・足が悪いので、歩くのが大変。 ・移動は自転車。自転車に乗れなくなつたら困る。	・近所のつながりがいいので住みやすい。 ・ゴミ出しに来た知り合いを家に呼び入れたらいい。 ・救急車が来ると、近所の人や友人が心配してすぐ来てくれる。 ・近所の人が「何かあったら言ってくれ」と言ってくれたり、何かあったら電話してね」と電話番号を教えてくれたりしてくれる。	津波が怖い。	上に上がって行くつもり。 そのときは、火事場の馬鹿力で行けると思う。	・世間話をしたり、顔を合わせる機会があったらいいと思う。年に一度くらいあるといい。 ・催し物があつても、行けない。	今のままでいいと思う。	・1日のスケジュールを自分で決めて、なるべく動くようにしている。 ・テレビ体操を1日3回している。 ・5時から散歩している。以前は池まで行つていただけ、今は無理。
20	男	70	空気がいい。	近所とあまり付き合いがない。	近所に住む一人暮らしの親戚の買い物やゴミ出しを手伝っている。	・別にない。 ・この辺は湾が広いから、津波は上がつて来ないと思う。 ・東日本大震災のときは、少し津波が出た。 ・台風の風当たりが強い。近所で瓦が飛んでたこともあり、風が心配。		集まる所があるのか、分からない。	外国人が海沿いから歩いて来るけど、住んでいる所があるのかなと思う。	
21	男	50	静かである。	リス、ハクビシン等の害獣が多い。倉庫に侵入して、市に相談して餌を仕掛けて捕まえたが、その後も倉庫に侵入した。業者で餌やワイルドを待つているから、触つたらダメ」といわれた。	一人なので、体調が悪い時は心配。何かあつたら、見つけてくれる人がいないので、近くに住んでいる会社の人には、最期に留守する時は事前に伝えて、（ずっと出勤しない時は訪ねて来てと頼んで）電話番号を教えてくれたりして、頼んでくれたが、その人が不在になってしまつた。	・なるようにしかならぬから心配してない。ここがひどい状況なら、東京もひどいだろうから、どうしようもない。 ・津波、地震より、風が心配。以前の台風19号の時、瓦が飛んだり、被害が出た。		忙しいから、顔を合わせない。	・この辺は平和。近所ですれどなく、顔を掛けてくれる。 ・ゴミステーションもいつも誰かが、気に掛けて整えてくれている。	
22	男	80	・気候はいい。 ・安全で安心な地域。緑の多いところ。 ・見守り活動が盛んに行われているところ。	・一人暮らしの人が増えている。 ・まだ少ないが、空き家も増えている。 ・引越して来て、また元の場所に戻る人もいます。 ・一人暮らしの人に対して助け合いの場がほしい。 ・大きな企業もない。	・隣近所同士のよしみで、庭の木の剪定や伐採等をおこなっている。そういった付き合いがあり、頼られている。 ・音から住んでいるので、人とのつながりは強いと感じているが、広げないといけない。 ・新しい住民はなかなか馴染みにくいと、思つたので、アドバイスをするのが必要。 ・昔は漁業の女性による婦人消防隊があつたが、会としての活動がなく、解散した。		・子ども、親子で集まることが大変。 ・子ども会があるといいが、役にたつていない人ばかりで、難しい。	・何でも話し合える地域。 ・上宮田第1区に5名の地域担当役員がいるので、何事も気兼ねなく相談されたい。住みよい地域にしたい。	昔は半農半漁が多かつた。	

●芙蓉ハイツ(芝原のマンション)

No	性別	年代	上宮田第1区のいいところ	生活上の困りごと、あったらいいと思う手助け	住民同士の支え合いがあるか	災害時の不安	避難の仕方等について考えていること	地域であるといいなと思うこと	どんな地域になってほしいか	その他
1	男	70	引っ越してきて40年になる。皆温厚でトラブルはない。		・公園掃除、花植え、スクールガード、活性化サロン、大勢参加してくれる。 ・特にスクールガード活動は、とても熱心である。		机上の避難計画ではなく、丈夫なマンションの利点を活かした垂直避難について話し合っている。	地域であるといいなと思うこと	日頃から挨拶交わす、安心な地域になってほしい。	
2	女	70	普段マンション内でのいいと思うところは、住民同士の仲がよく、挨拶は当然のこと、何かあったら電話して相談したり、助け合ったりしているところ。	一人暮らしになってから、電気の交換を頼める人がいたらいなと思っていて。	先日、トイレが詰まったという相談を受けた。一緒に業者を探した。苦勞して、何とかすくって来てもらえ業者が見つけることができた。		津波が起きたら、5階の住民宅へ避難する約束になっている。	今現在、マンション活性化委員会があり検討中。歌を歌う、スマホの学習会、折り紙、ゲーム等これまでにも実施。集会室以外でも来訪会ができていないか？という話が持ち上がった。	困ったときに助けを叫べる、また力になれる地域。	
3	男	70	・諏訪神社の祭や、正月明けに海岸でおこなうおふく博など、地域で交流ができる機会はいくつもある。 ・スクールガードに参加している人数は、上宮田第1区が圧倒的に多いのではないかと、スクールガード同士で顔を合わせただけで、多くの情報交換ができる。	・当マンションでも全体が高齢化している。高層に住む人は、ゴミ出しの負担が大きくなっていると思う。 ・1階に住む人が専用庭の手入れを負担に感じている。当初は、好きに花を植えられる喜びを感じていたが、今後は負担になっている人もいる。今回の調査で問題が具体的にあれば、対策も可能だと思う。	今は「できる人ができることを」といった支え合いはできている。具体的には、公園清掃、花壇の花植え、スクールガード、長期修繕計画の作成など。	・この近辺は水害の心配はない。地震による津波が最も警戒すべきことだと思う。	・ハザードマップでは約10メートルまで浸水しない規定であり、避難所に逃げるよりは、時に垂直避難する方が効果的であると考え、多くの備蓄は持つようにしている。	・コロナ禍以前は、年1回くらい花見の会を開催し、会費と差し入れで贈っていた。近隣住民にも声を掛け、参加してもらっていた。 ・話をすると馴染みになること、人の輪が広がっていくと、人の文化を定着させていく。	・高齢者率が高い地域だが、高齢者にもできることがある。受け身にならず、いろいろな活動に積極的に参加する地域にしたい。 ・三浦地方には昔から「津波・てんでんこ」の言い伝えがあり、津波の際は各自ずばやく高台に逃げることで、1人でも多くの命が救われる文化ができて、あつたことを誇り、誰他の人を救えなかったことを責めないという。三浦にもこの文化を定着させていく。	
4	男	80	よくわからない。	特になし。	特になし。	津波は心配していないが、地震について震度5以上の場合、階段をスムーズに降りられるか心配だ。	散歩の会等	第一歩として、会えば誰となく挨拶できるように、進んで実行したい。		
5	女	—		・高齢化が進んでいる。 ・どんな些細なくだらないことでも、相談に乗ってもらえる窓口があったらいいと思う。解決しなくても、話を聞いてもらえるだけいいと思う。	マンションに「ふよう会」というエキスパートの会がある。管理会社に対接するのはなく、自分達でいろいろな難しいこと(管理規約の改訂作業・修繕計画等)をやってくれている。					
6	女	70	交通の便がとていい。歩いて行けるように歯科、内科が近くにある。 スーパー・マーケットもいくつもあり、車がない者にとてありがたい。	一人暮らしの人が足をケガし、ゴミを出せずに困っていた。 粗大ゴミや新聞、段ボールが出せない人がいたので、手助けをした。知り合いがいなかったら手助けがあつたらいいと思う。	よく「お茶飲みにおいで」と誘いをもらう。野菜、果物、魚などをよくおすそ分けをもらい、ありがたい、交えられている。	旅行先等で災害にあつたらどうしようかと不安である。	避難時は、とにかく5階まで登ってみようと思っている。	この辺りで、無理のない程度でハイキング等行きたい。	日頃から、顔を合わせたら挨拶し合つてコミュニケーションをとる地域になってほしい。芙蓉ハイツはできているので、ずっと続けたいと思う。	
7	男	70	芙蓉ハイツに40数年住んで行き会ふ人と会釈する程度だが、上宮田第1区で今まで起こった事件もなかつた。無事であることは、この地区の恵みである。常識をわきまえた人々であるからだと感じる。平穩無事が何よりである。	芙蓉ハイツでは理事会(輪番制)の下部組織として「ふよう会」があり、大規模修繕工事等、一朝事あるときは、理事会の諮問を受けマンションの管理運営の手助けを30数年おこなってきた。ふよう会は住居有志により、2年毎に募集している。	芙蓉ハイツも高齢化が進んでいることから、住民同士の交流の輪を広げるべく「ふようハイツ交流サロン」と称してスマホ教室等を開催している。 この取り組みは、交流の輪を広げると同時に、災害等緊急時の対応対応にも役立つものと考えている。		芙蓉ハイツは耐震構造であるため、地震等災害時は、ハイリッパ上層に避難するよう住民に周知している。 その後、事がおさまった時点で旭川に避難することを推奨している。	春…浜辺で音楽会(エレキバンド、ロックバンド、ハワイアンバンド、フラダンス、吹奏楽など) 夏…地引網&バーベキュー 秋…地引網&芋煮会 冬…正月のひととけ祭りと合わせて、芋煮会等を開催し、ご来光に集まる人を手厚くもてなす。 花火大会…横須賀市、三浦市、京急電鉄合同主催のイベントとし、津久井浜から三浦海岸にわたる海上花火大会を夏の名物にするような盛大な花火大会を作り上げる。	幹事等を活用して、交流の輪を広げ、心豊かな地域になってほしい。	



No	性別	年代	上宮田第1区のいいところ	生活上の困りごと あったらいいと思う手助け	住民同士の支え合いが あるか	災害時の不安	避難の仕方等について 考えていること	地域であるといいなと思うこと	どんな地域になってほしいか	その他
8	女	70	- 挨拶、声掛けが多い。心が暖まる。心が純朴な人が多い。 - 野菜果物の育て方を教えてくれる人がいる。 - 知識人、手先の器用な人がいる。 - 野菜果物が新鮮。 - 空気が新鮮、景色がいい。 - 市役所の人が高齢者に親切。	有償で、高い所の作業や、重い物を運ぶ活動、腰を痛めている人等もいると思うから、お願いするにも配慮が必要である。	わからないこと、困ったことをお願いし、助けてもらっている。	・マンションなので、避難せずそのままか、心細いので場合によっては集合したい。 ・災害の勉強は毎年指導してほしい。		・歩くこと、脚の健康維持。 ・1人だと道に迷う等が怖いので、短い距離から、徐々に距離を長くして、1人でも安心して歩けるように指導してもらいたい。 ・三浦は道が複雑で迷いやすい。 ・近所の農家のボランティア。 ・子ども会の復活を望む。我が子がとても楽しいと話していた。	人に親切丁寧に接する地域。	



●石作(2組以外)

No	性別	年代	上宮田第1区のいいところ	生活上の困りごと、 あったらいいと思う手助け	住民同士の支え合いが あるか	災害時の不安	避難の仕方等について 考えていること	地域であるといいな と思うこと	どんな地域になってほしいか	その他
1	男	10	いろいろなお店が近い。	特になし。	野菜をおすそわけしてくれること。	自分が持っているものがどうなってしまうのか。	寝袋を持ち、すぐに近くの学校に走る。	今のままで満足している。	のんびり暮らせる地域に なってほしい。	
2	男	40	海が近く、のんびりで きる。	小児科が近所にないため、子どもが急病 になったときが不安。	困ったときに、周辺のお宅に相談する ことは、それなりににはできると思っ てる。	三浦幼稚園や津久井浜も、津波ハザード マップの想定危険水域に入っている。 避難訓練していると思うが、津波が到 達するまでの時間的余裕があまりな いので、子どもたちが安全に避難でき るのかという不安がある。		海で子ども達が集まれるイ ベントがあるといいと思 う。	海沿いの民宿等が多く閉鎖 されている寂しい。何か有効 活用できればいいと思う。	11月の花火大会はとでも よかった。今後も継続して もらえるとありがたい。
3	女	30		近所の集合住宅でゴミ出しのマナーが守 られていない所があり、ガラス等にゴミ が落ちた。そのゴミが道路や周辺に 散乱していることがある。知らない人が 多く、怖くて直接注意できない。	特になし。					
4	男	40	静かなこと。	特になし。	特になし。	家の近くに山があるので、がけ崩れが 心配。		特になし。	このままでいい。	

●居住区未回答

No	性別	年代	上宮田第1区のいいところ	生活上の困りごと、 あったらいいと思う手助け	住民同士の支え合いが あるか	災害時の不安	避難の仕方等について 考えていること	地域であるといいなと思うこと	どんな地域になってほしいか	その他
1	女	30	住みやすい。		近所でのコミュニケーションは、毎日とっている。	子ども達もいるので、避難所等、実際に災害にあった時、どうなるのかなと、少し不安はある。			子どもや、高齢者も皆が安心できる地域。	
2	女	50	住みやすさ。自然がある。 交通の便がいい。	高齢者から、買い物のお店が遠いと聞いたことがある。	声掛け。	津波。	災害マップを見本にしている。	高齢者が集まれるような会。	どの世代も、困ったときに相談できる人が、近くにいてほしいような地域。	
3	女	70		ゴミステーションのカゴのネット張り替えを、手伝う人数が足りない。	小数だが、漁師や、若い人も、時間がないのに助けてくれる。	東日本大震災で避難したが、こんなに海が近いのに、郡と避難しない人が多くてびっくりした。 「避難所の旭小までの山登りがキツい」とか、「津波は来ないだろう」という考えだろうか？		他区の例では、安否確認のために、集会所で昼食サービスを実施している。ボランティアが豚汁を作り、非常食のごはんパックで食事をとったとのこと。楽しいおしゃべりの時間だったそうだ。	なるべく体を動かすために、できることは自分たちでやる。 できないことは、若い人や、地域の役員に相談する。	旭小の中に、ようやく学童ができた。 ・ゴミステーションの掃除(砂取り)をしたところ、45とニール袋に10〜12袋あり、市役所に相談したら、すぐに片付けてくれた。



ソフト面 活動団体ヒアリング

●特集1 芙蓉ハイツについて

芙蓉ハイツの概要	 ・昭和 57 年に完成した。1 号棟・2 号棟がある。 ・全 75 戸。令和 7 年 8 月現在、67 世帯が居住し、8 世帯が別荘として使用している。これまでほぼ常に満室を保ってきている。 ・若い世代もいるが、高齢者の夫婦や独居が多く、高齢化率 60%。 ・敷地内に公園があり、お花見や芋煮会の会場としている。住民で定期的に清掃している。 ・マンションは耐震構造になっているため、地震や津波等の災害時はマンション上階に避難するよう住民に周知している。ことが収まった時点で旭小に避難することを推奨している。また、芋煮会等のイベントの際、近隣住民にも「津波からの避難場所として利用するように」と声を掛けている。 ・組は「芝原 3 組」である。理事の 1 人が自治会担当（組長）になり、区の定例会に参加している。 ・マンション管理組合（以下「理事会」とする。）の下に「ふよう会」という有志の会がある。
ふよう会について	・ふよう会は、理事会の諮問機関である。理事会よりマンションの管理運営に関する重要な事項について諮問を受け、答申書の作成や実働する役割を持つ。活動の目的は、良好な住環境を確保すること。 ・理事会は輪番制。難しい問題をふよう会が担うことで、理事の負担を軽減している。 ・マンション建設から 10 年後のこと。12 年ごとの大規模修繕にあたり資金不足がわかり、理事の OB 等の有志が集まり 30 年間の修繕計画を策定した。これをきっかけに、理事会とは別の組織が必要であると反省し、ふよう会を設立した。 ・主に大規模修繕関連のほか、規約や協定、細則の制定や改訂などに取り組んできた。数年前に部会制とし、これまでの役割を担う「規約部

	会」と、新たに住民同士のコミュニケーションを図る「活性化部会」に分けた。活性化部会はサロン活動等を企画運営している。 ・会員は2年任期。入居者であれば誰でも加入できるため、年々会員が増えている。
ふよう会における 近年の取り組み	【入居者の緊急連絡先の調査】マンション内の孤独死がきっかけで、平成21年に始め、以後数年ごとに更新している。現在は入居者と連絡が取れない場合に備え、緊急連絡先2か所とその人に家のカギを預けているか等の情報を提供してもらい、理事会で管理している。令和7年度には規約を改訂し、毎年情報更新をすることを定めた。災害時に備え、家族構成等の情報も聞いている。3～4年前には資格、特技等について併せて調査した。「協力できる」との回答が得られた人は、サロン活動の講師として活躍している。 【困ったときの相談先】ふよう会の主要メンバーの連絡先を記載したものを入居者に配布し、悪質な訪問販売等の困りごとに応じている。 【春のお花見会・秋の芋煮会】芝原公園で開催。入居者だけでなく、近隣の住民や区長を招待し、交流を深めている。なお費用は理事会の支出ではなく参加者負担であり、入居者以外も参加しやすくなっている。 芋煮会の報告 【集会所で図書カフェ】月～金曜日の午前中に開催している。入居者から本の寄付を募り、目録を作成している。集会所に本を並べ、入居者であれば誰でも（入居者以外は応相談。）来て本を読めるようになってい

	る。 【スクールガード】マンション内の対象児童の有無にかかわらず、年に一度スクールガードを募集している。現在 10 名が毎日交代で登校と下校を担当している。マンション内のゴミステーションに予定表を掲示し、都合が悪くなったときは交代できるようにするなど柔軟に活動している。40 代男性の参加者もある。
ふようハイツ交流サロン	・芙蓉ハイツの高齢化が進んだことから、令和 5 年 7 月から住民同士の交流の輪を広げるべく「ふようハイツ交流サロン」を開催している。交流の輪を広げることと、災害等の緊急時にも役立つ関係の構築を目指している。 ・女性を中心とした活性化部会が企画運営している。 ・折り紙教室、リースづくり、運動、スマホ教室、栄養の講座、城ヶ島や小網代の森のホテル観察会等を実施している。参加費は実費で 1 回 2～300 円くらい。 お住いの皆さんへ 令和 5 年 12 月 16 日 第 3・4 回 「ふようハイツ交流サロン」 活動報告 ～ スマホ教室 ～ 皆様からご要望の多かった「スマホ教室」は、11 月 18 日、12 月 3 日に開催し、多くの方々にご参加いただきました。有難うございました！！ ドコモスタッフの「ガイドブック」と「らくらくフォン」による親切丁寧な指導の下、スマホの便利さ・安全さ・楽しみ・身近さに皆さん驚き、あっという間の充実した 2 時間でした。  「最初から笑顔な笑顔です」 「一歩も聞きはききいぞ」 <今後の予定> 「ダンベル体操」 令和 5 年 1 月 28 日 (日) 10 時 集会所 講師＝ さん() 「折り紙教室」 2 月 25 日 (日) 10 時 集会所 講師＝ さん() 「花・花見の会」 3 月下旬～4 月上旬の土日 芝原公園 主催～ふよう会 「健康講座 (仮)」 4 月下旬に開催予定 ※今後も皆さんのご要望にお応えして、色々なイベントを開催してまいりますので、ご希望のイベントがあれば、事務局へ () までご連絡 (メール可) ください。皆様のご参加、お待ちしております！！ ～ 明るく！ 楽しく！ 元気な！ ふようハイツ！ ～ コミュニケーションの輪を広げてください！！ マンション活性化部会 お住いの皆さんへ 令和 5 年 10 月 16 日 第 2 回 「ふようハイツ交流サロン」 ～ 折り紙教室 開催 ～ 10 月 29 日 (日) 10 時～12 時 集会所にて 指導＝ さん() 皆様からご要望の多かった「折り紙教室」を、上記の通り開催いたします。当日の折り紙は、 さんのご厚意により用意いただいております。お気軽にご参加ください！！   ○ 次回開催イベント (予定) 「スマホ教室」～ ドコモ・スマホ・セミナー ～ 11 月 18 日 (土) 10 時～12 時 集会所にて ※詳細は追ってお知らせいたします。   ～ 明るく！ 楽しく！ 元気な！ ふようハイツ！ ～ コミュニケーションの輪を広げてください！！ マンション活性化部会 ふようハイツ交流サロンのちらし

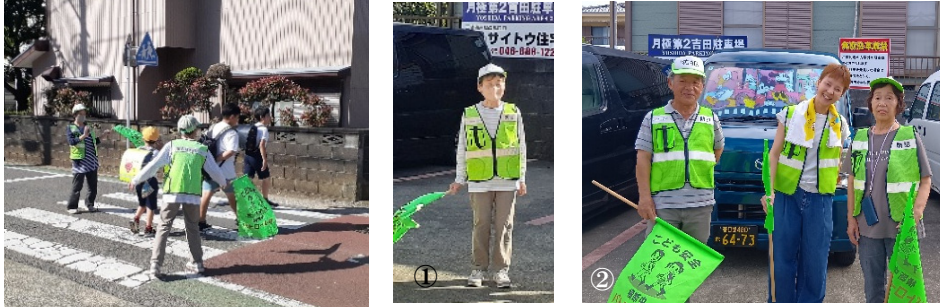
●特集2 スクールガードについて

調査の経緯	地域診断を進めるための住民有志による「茶話会」では、区内でおこなっている旭小へ通う児童を見守るスクールガードの活動について、何度も話題に上がっていた。 これまでの地域診断結果に鑑みて、スクールガードがここまで活発な地域はなく、当該区の支え合い活動を調査するにあたって、重要な活動であると判断したため、現地調査を含め調査を実施した。
活動の概要 (令和7年4月現在)	16か所のポイントにおいて、組長その他住民有志45名がスクールガードとして登校時の見守りをおこなっている。一部、下校時の見守りも実施している。
上宮田1区のスクールガードの成り立ち	立ち上げ当時の区長である鈴木寧夫さんに取材した。 ・平成18年に上宮田1区でスクールガードの活動を立ち上げた。平成9年に兵庫県で発生した児童の連続殺傷事件を受けて、児童の安全を守るためにスクールガードの必要性を感じていたことが理由である。 ・目的は、区内にある旭小の低学年の児童の登下校の見守りである。 ・当初の人員は区役員、組長を主体としたが、人員不足から区民全体に働きかけたところ、参加者がぞくぞくと増えた。開始から4ヶ月後には、10拠点において総勢41名（役員・組長、区民、教職員）が活動していた。 ・神奈川県防犯パトロールに登録※し、区の費用で用意した帽子とベストを着用して見守りをおこなっている。犯罪被害の抑止のために、買い物や散歩のとき、月に1度の区の定例会に集まるときにも帽子やベストを着用するよう要請した。 ・平成20年に財団法人神奈川県防犯協会連合会及び神奈川県警察の感謝状を受けた。 ※神奈川県の自主防犯活動団体一覧には「上宮田第1区防犯みまもり隊」として登録している。登録団体には、四半期ごとに「くらし安全通信」が送付されたり、事故給付金制度（活動時の事故によるけが等）の給付金の支給がある。
令和6年度の取り組み	①区主催 スクールガード連絡会 コロナ禍以降、中断していた区主催連絡会を再開した。茶話会に参加していた住民有志は、茶話会で話し合ったことを元に、積極的に意見を出していた。 日 時：令和6年11月28日（木）18：00～ 場 所：区民会館 参加者：区長、区役員4名、スクールガード16名、旭小校長・教頭・PTA会長、三崎警察署生活安全課（スクールサポーター） 内 容：参加者の自己紹介。警察の情報提供。各ポイントの人員状況の

	報告や増員について意見交換した。スクールガードの「立ちポイント」の地図作りの提案があった。 ②区の役員と有志による地図作り 地図作成の提案を受けて担当になった役員と住民有志が、スクールガードの「立ちポイント」を可視化する「スクールガードマップ」作りをおこなった。 ③旭小主催 スクールガード連絡会 日 時：令和 7 年 3 月 7 日（金）16：00～ 場 所：旭小 参加者：区長、区役員 3 名、スクールガード 11 名（上宮田第 1 区・第 5 区）、校長、三崎警察署生活安全課（スクールサポーター） 内 容：参加者の自己紹介。警察の情報提供。意見交換。完成したスクールガードマップをお披露目した。ポイントごとの担当者の情報を確認した。 区民会館の連絡会 旭小の連絡会
現在の様子と今後について	スクールガードマップの制作をおこなったメンバーは、令和 7 年 4 月に「スクールガードの会」を立ち上げた。 同会は、スクールガードマップをより実用的にするべく、同年 6 月に立ちポイント付近の電柱等に番号を書いたシールを掲示した。その番号を記した地図を全スクールガードと上宮田第 1・5 区長のほか、旭小校長、PTA、交番、警察署生活安全課、消防署にも配布し、有事に備えて共有した。例えば事故があったとき、スクールガードが「No.1 のポイント」といえば伝わるようにするためである。 同会が月に一度開催する集まりには、校長、PTA 会長も参加し、通学路の危険箇所等を確認している。また、以下の課題について検討している。 スクールガードの募集 現在は組単位で募集したり、組長が担当したりと集め方がまちまちである。今後は地区担当制ではなく、希望者を募集していきたい。 保護者や PTA との連携 保護者や PTA にスクールガードの活動をもっと理解してもらい、できる範囲で協力してもらいたい。

活動中のスクールガードについて、現地調査をおこなった。残念ながら全ての地点やスクールガードを確認することはできなかったが、取り組みの様子を一部紹介する。なおポイントの名称は、前頁で紹介した「スクールガードマップ」に則った。

三樹院入り口、幼稚園入り口



写真①安田トシ子さん、②左から新倉清志さん、渡辺ともみさん、長谷川真弓さん
▼安田さん「子ども達がかわいい、元気をもらえる。生きがい。」▼渡辺さん「自分の子どもも旭小に通学しているので、お手伝いしている。」▼長谷川さん「これがあるから毎朝起きられる。」

三樹院前

ここ 2 つのグループの児童が待ち合わせをして登校していく。



写真①川合博さん、②長谷川勝彦さん

▼川合さん「定年後、7～8年続けている。場所を提供してくれる三樹院にはお世話になっている。」▼長谷川さん「5年以上続けている。隣に住む男の子とはいつも声を掛け合っている。」

吉田運送付近



写真①吉田ケイコさん、②中村登美子さん、③佐藤スミ子さん

▼吉田さん「主人がスクールガードを立ち上げた。思いを継いで活動して 20 年。」▼中村さ

ん「主人の後を引き継ぎで活動している。」▼佐藤さん「現在 90 歳。役割があるからしっかりしようと思える。子ども達が顔を覚えてくれて声を掛けてくれるのが嬉しい。」

吉田運送角右折上り坂曲がり角



写真①高橋公雄さん（区長）、②高橋なをみさん夫婦

▼公雄さん「住宅建設中で車の出入りが多くなったため、この場所に立つようになった。約 50 名の児童が通過する。」▼なをみさん「私は 10 年以上、主人は定年後から 5 年位活動している。」

坂を登った三叉路

子ども達とじゃんけんをしながら、見守っている。



写真 原田喜信さん（民生委員）

校門付近



写真 深沢忠治さん

房州屋の角付近

男性 5 名で見守りをしながら、地域の情報交換もしている。鈴木寧夫さんと新倉義博さんはスクールガード活動の立ち上げから関わっている。



写真①左から長島寛さん、鈴木寧夫さん、新倉邦夫さん、新倉義博さん、②松原実さん
▼長島さん「組長として携わり始め 10 年以上継続している。」▼新倉（邦）さん「7 年以上活動している。」▼松原さん「上宮田小学校へ通う児童の見守りのため駅の近くまで付き添っている。」

マーガレットシー付近

芙蓉ハイツの有志が見守る。



写真①左から熊谷敏明さん、松居岳さん、永井久子さん、山岸義明さん、②中間薫さん
▼山岸さん「芙蓉ハイツに入居する 10 名が交代で担当している。下校時間も見守っている。ハイツ内で毎年募集し、掲示板で当番情報を共有し、できないときには交代するなどシステム化している。」

ハイツ入リロ



写真①倉地哲郎さん、②高橋洋子さん

▼倉地さん「活動を始めて 6 年目。できる限り、登校時と下校時に見守っている。この道を約 30 名が通っている。」▼高橋さん「始まった当初から継続している。子ども達の成長を見られることが楽しい。中学生になっても会うと会釈してくれる。校長も毎朝巡回してくれているので嬉しい。」

石作公園入口

上宮田第5区の久代妙子さん、山本紀子さん

▼久代さん「自分の健康のためでもある。」 ▼山本さん「子ども達に会えて嬉しい。」

石作公園近く墓地付近

長嶋貴子さん

旭小裏門付近

熊谷京子さん

その他**保護者の声**

- ・スクールガードがいてくれて助かっている。自分が子どもの頃にもスクールガードが立っていて、見守ってもらっていた。

児童の声

- ・仲のいいおじいさんがいたが、足が悪くなりやめてしまった。最後に挨拶に来てくれて嬉しかった。
- ・坂の上に、いつもいろんなお話をしてくれるスクールガードがいて楽しい。

各団体

市民活動団体を紹介する。

団体名	卓球の会
代表者名	熊谷 敏明
日時	毎週金曜日 9:30~11:30
場所	区民会館
参加者	人数: 男性 6 名 年齢層: 70~80 代 対象: 芙蓉ハイツ入居者
内容	卓球をして楽しむ。
活動していてよかったこと	本会のみならず、マンション内の「ふよう会」の活動を通じて、コミュニケーションを密にとることで信頼関係を構築している。それぞれが自分にできることで役に立っていると実感しながら、日々活動できていると思う。
活動していて困っていること	コロナ前まではハイキングを実施していたが、現在は代表者の膝と腰の具合から企画を見送っている。他に企画する人がいない。
参加者の声	卓球のほかにも、スクールガードや将棋などいろいろな活動に参加している。
メッセージ	3 名は他の卓球サークルにも参加しています。いろいろな行事に参加して、地域の人々と顔見知りになることが重要だと考えています。卓球の会はどなたの参加もウェルカムです！
活動の様子	 

団体名	元気アップ体操（白波会）
代表者名	山岸 義明
日時	毎週水曜日 14:00~15:00
場所	区民会館
参加者	人数: 13 名（男性 5 名、女性 8 名） 年齢層: 60~70 代
内容	市の高齢者の運動教室。運動指導士による体操。
活動していてよかったこと	体を動かし健康になる。コミュニケーションがとれる。
参加者の声	健康維持のため元気アップ教室に参加している。
活動の様子	 

団体名	さわやか会
代表者名	松原 啓子
日時	水曜日 月 1～2 回 午前中
場所	区民会館
参加者	人数：5名（男性2名、女性3名） 年齢層：60～70代
内容	卓球の練習を本格的に頑張っている。 ラージボールの県内各地の大会にも出場している。
活動していてよかったこと	楽しく活動している。 健康維持に役立っている。
参加者の声	会館を利用させてもらえて助かっている。
メッセージ	令和5年の夏から活動しています。もともと潮風アリーナで卓球をやっている仲間で、この会館に集まりやすいメンバーが集まって始めました。試合前に少しでも多く練習したいという思いです。

団体名	スズキクラブ
代表者名	鈴木 強
日時	毎週金曜日 16：00～18：30
場所	区民会館 ※令和7年度よりチエル Sea みうらに移動。
参加者	人数：9名（男性4名、女性5名） 年齢層：75歳以上
内容	ラージボールの卓球をしている。もともと潮風アリーナで卓球をやっていたメンバーが声を掛け合い、いろいろなチームから集まって始めた。
活動していてよかったこと	卓球を始めたきっかけは、市健康づくり課から、運動をするよう勧められたこと。それから卓球を習い始めて14年、リハビリがてらやっている。今は、卓球が趣味で生きがいだ。
参加者の声	今86歳。70年ぶりに卓球を再開して2年ほど経つが、面白い。運動のためにしている。
活動の様子	

団体名	菜の花会
日時	毎週火曜日 11：00～13：00
場所	区民会館 ※令和7年度よりチエル Sea みうらに移動。 最初は南下浦市民センターで活動していた。
参加者	6名（女性） 年齢層：70代
内容	卓球をやっている。点数のカウントはとらず、優しく楽しく仲良く取り組んでいる。 子育て等が一段落し「何かしたい」と思って卓球を選んだが、潮風アリーナの会がいっぱいだったため、自分達でグループを作って始めた。

団体名	ほうかごひろば	 代表 杉野 綾
日時	毎週木曜日 15：00～市のチャイムが鳴る時間	
場所	上宮田第1区会館	
参加者	人数：平均10名前後、スタッフ1名 年齢層：小学生	

活動の概要

○元小学校教諭のボランティアが、放課後、子ども達の宿題を見たり、遊ぶ様子を見守っている。

○子ども達は学校が終わってから会館まで歩いてきて、自分達で机を並べて、まず宿題をする。宿題後は卓球したり、おやつを食べたり、遊具等で遊んだりしている。

代表者ヒアリング

○始めたきっかけは、友人から「以前、児童会館（現在の区民会館）で宿題を見てもらっていてとても助かっていたが、今はない。」と聞き、自分で会をやってみたいと思ったこと。その思いを友人に伝えたところ、民生委員の竹原さんにつながり、とんとん拍子で話が進み、令和4年10月から活動を始めた。

○子ども達が安心して過ごせるように気を配っている。区民会館だと雨でも遊ぶことができるので助かる。

○この活動で子ども達と過ごす時間が楽しい。

メッセージ

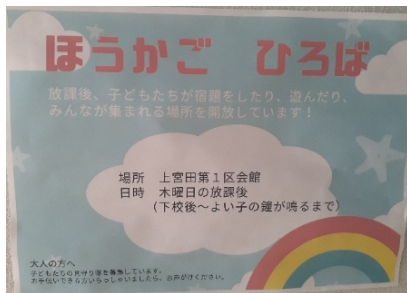
お手伝いしてくださる方を募集しています。木曜日に見学にいらしてください。



活動の様子



集合写真



区民会館に掲示してあるチラシ

団体名	老人クラブ 千鳥会	 会長 長谷川 正代
日時	①日曜日（不定期） ②日曜日（2 ヶ月に1回）	
場所	①サロンハナミズキ（三浦屋） ②三浦市老人福祉保健センター	
会員	人数：11 名（男性 2 名、女性 9 名） 年齢層：全員 75 歳以上。最高齢 96 歳	

団体及び活動の概要

①クリスマス会や勉強会をおこなっている。ここ数年では、薬膳料理を習ったり、二胡の演奏を聴いたり、太極拳をした。

②毎回 5 名程度参加する。以前は同センターの送迎バスを利用していたが、集合場所まで歩いて来られない会員が増えたので、会長が自家用車で自宅まで迎えに行っている。

○その他、友愛チームの活動もしている。会員の見守りや相談に応じて買い物等をしている。対象者は千鳥会の会員である。

○各会員が自宅で作ったそうきんを区に提供している。

○以前は諏訪神社の掃除を月 1 回 7～8 名でやっていたが、できる人が減ってしまい数年前にやめてしまった。

○年会費は 1, 000 円。区と市老連から補助を受けている。

代表者ヒアリング

○活動していてよかったこと
近所の人達と助け合う関係があること。おすそわけをしたり、留守の時に家族の世話をしたりする。

○活動していて困っていること

- ・新しい会員が入らない。
- ・介護保険が始まったことで、老人会や隣組の助け合いの必要性が減っている。
- ・高齢になって、外に出ることが難しくなっている人が多い。市老人クラブ全体の行事がうり等であっても参加できない。

○地域の弱み・困りごと、地域であるといいなと思うこと

- ・区民会館で、バザーができるといい。物を捨てず、欲しい人に安く譲る機会。
- ・三浦海岸音頭を広めたい。

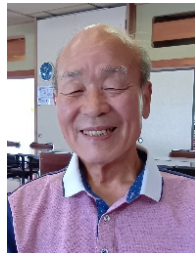
参加者の声

○50 歳の時に千鳥会に入って 36 年。おしゃべりが楽しみ。会をやめようとは思わない。

○一人暮らしで 15 年。外に出るのが楽しみでいつも参加している。会長が自家用車で迎えに来てくれるので助かっている。




活動の様子

団体名	老人クラブ かもめ会	 会長 松原 敬司
日時	①偶数月の第2水曜日 12:00～ ②奇数月の第2火曜日	
場所	①ココス三浦海岸店 ②三浦市老人福祉保健センター	
会員	人数: 12名(男性3名、女性9名) 年齢層: 81～90歳位。 居住区: 大瀬戸、芝原、石作	
団体及び活動の概要 ①集まって食事会をする。会で1人500円分を負担する。毎回10人くらい集まっている。 ②みんなで昼食後、カラオケを歌ったり、お菓子を食べながらおしゃべりをして過ごしている。 ○令和6年度の春、久しぶりに日帰り旅行を実施した。		
代表者ヒアリング ○活動していてよかったこと コロナ禍のときは、関係を絶やさないよう老人福祉保健センターに通っていた。 ○活動していて困っていること ・会の現状維持がやっとの状況。旅行や、老人クラブにおける社会奉仕の日の通学路清掃など、高齢化に伴い今はできなくなった。母親クラブの延長で入会者も多く勢いのある時期もあり、当時は助け合いの友愛チームも組織していたが、8年以上前に解散している。 ・若い会員が入らない。もともと地元出身ではない会員も多く、地域とのつながりがあまりなく勧誘できない。区には新しい住民も増えているが、つながりが持てていない。かもめ会と結びつくチャンスがない。 ○地域の弱み・困りごと、地域であるといいなと思うこと ・区で「60歳以上は老人会へ」というチラシを作って、繰り返し配布してほしい。 ・老人クラブの入会を地域に限らず、入りやすいところに入れるようにするとよい。入会で引きこもってしまう人を防ぐことができると思う。 ・歩いて行ける範囲で利用できる場所があるといい。 ・人付き合いを苦手とする人も増えている。 ○地域のためにできそうなこと、やりたいこと ・農家の生産組合で女性のグループがあると聞いている。一緒に活動できると嬉しい。 メッセージ 会員募集中です。会長の松原まで、ご連絡ください。 参加者の声 ○60歳より前から加入している。家では一人でテレビを見ているばかりだから、みんなと話すのが楽しい。 ○20年前に移住して来た。ここに入って地域の皆さんの顔がわかってよかった。 ○近所の一人暮らしの人にも声を掛けていますが、なかなか参加しない。 ○カラオケが得意な人もいる。吉幾三みたいな美声に聞き惚れる。 ○一人暮らしだと誰とも話す機会がないから、会に入った。90歳を超えても、元気に過ごすことができている。 ○自分達の親世代は、ほぼ全員が夫婦で老人会に入っていた。世代交代した後、この世代は働いている人がいたり、体の具合が悪くなったりして、誘える人が少なく、また誘っても入ってくれなかったりする。		



活動の様子 老人福祉保健センターにて

団体名	放課後児童クラブたんぽぽ	
活動場所	旭小 4 階	
活動日	通常：月～金曜日 学校終了後～18：00 長期休み中：月～金曜日 8：00～18：00 （共に延長 19：00 まで） 土曜日：8：00～16：00	
利用児童	43 名（小学 1～6 年生まで）	

代表 村田 みさと

団体及び活動の概要

保護者会が運営している。令和 7 年 2 月 25 日、コスモマンションから旭小 4 階に移転し、同年 4 月 1 日より正式に開所した。

代表者ヒアリング

- ・この学童は、学校の授業が終わった後の子ども達の居場所として「ただいま」と帰って来られる場所でありたいと思っている。家のリビングのような感覚で過ごせるよう靴を脱いで入室してもらう。床にはクッションマットを敷いて寝転がってもいいようにしている。
- ・学童に来たら宿題をして、おやつを食べた後は自由時間。校庭で遊んでもいいし、室内で好きなことをしてもいい。ふんわりとしたスケジュールの中で指導員に見守られながら過ごす。
- ・子ども達が学年を超えてごちゃまぜで過ごせるのは学童ならではの良さ。にぎやかな 1 年生を 6 年生が見守ったりしている。
- ・指導員はパート含め 6 名前後。学校の先生とは違った立場で子ども達や保護者とコミュニケーションをとっている。

〇活動していてよかったこと

- ・旭小への引越しが無事に済んだこと。地域や関係者の皆さんのおかげ。
- ・会長になって 3 年。この活動は自分にとって「仕事」「家庭」とは別の居場所となっている。
- ・地域の区長や組長とつながってコミュニケーションの輪が広がった。
- ・保護者同士が、学年を超えたつながりを持つことができている。

〇活動していて困っていること

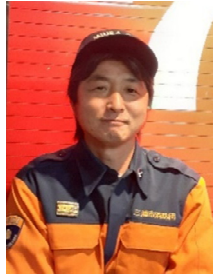
- ・学童は保護者会運営なので、運営にかかる全ての作業を、担当の保護者がそれぞれ持ち帰っておこなっている。仕事と家庭の両立に加えてそういう作業があるので大変である。
- ・個々の家庭に寄り添いながら運営の公平性を考える等、物事を判断して方針を決めていく責任がある。

メッセージ

学童から習い事へ行く場合があり、下校時間外に子ども達だけで歩くこともあるので、地域で見かけたら子ども達を見守っていただけるとありがたいです。



活動の様子

団体名	三浦市消防団第7分団	 分団長 長嶋 崇
日時	定例会 月2回	
場所	第7分団詰所（上宮田 1185-6）	
団員	18名（男性17名、女性1名）	

団体及び活動の概要

○上宮田全区域を対象地域としている。

○団員は農家・自営業・サラリーマン等で、20代もいるが、30代が多い。

○活動内容

▼定例会（月2回）▼分団長会議（3～4ヶ月に1回）▼操法大会（2年に1回）▼歳末特別警戒の巡回（12/25～30）▼おんべ焼き、三浦海岸納涼まつり花火大会における警戒▼出初式▼長距離送水訓練▼地区内消火栓点検（年1回）▼地域の避難訓練への参加

代表者ヒアリング

○活動していてよかったこと

- ・区長さん達の顔を覚えた。
- ・横のつながりが増えた、近所付き合いが広がった。友達が増えた。

○活動していて困っていること

- ・新しい団員が増えない、団員の高齢化。
- ・ホース類の劣化。
- ・もっと消防団活動を理解してほしい。

○地域の弱み・困りごと、地域であるといいなと思うこと

- ・最近移住して来た人が多い。そういった人達との相互理解の機会があるといい。例えば日頃から挨拶をしたりする等、お互いに知り合うことは災害時にも重要だ。
- ・一人暮らしの高齢者などに意識して声掛けしている。

メッセージ

第7分団の消防団員募集中！上宮田在住の18歳以上の方は、男女問わずどなたでもどうぞ。



集合写真

団体名	上宮田第1区自主防災隊	 隊長 池田 元
場所	上宮田第1区内	
隊員	30～40名	

団体及び活動の概要

○第1分隊は今井原・仲今井、第2分隊は大瀬戸、第3分隊は芝原・石作と、3分隊編成となっている。

○全体の隊長、各分隊の隊長、会計1名がいる。各分隊は15名前後の隊員がいる。

○区が例年9～10月に主催する防災訓練（旭小で実施）に参加し、訓練の補助・補佐をするほか、防災隊の器具の点検をしたりする。

○区主催の草刈りなど、人手が必要な作業のときに活動する。

代表者ヒアリング

○令和6年4月から隊長に就任した。

○コロナ禍以降、ここ数年は区主催の防災訓練が開催されていない。

○隊員は、30代半ばから60代の男性が中心。農家や漁師等の自営業が多い。消防団OBもいる。



石作公園の自主防災隊倉庫



区民会館の自主防災隊倉庫

団体名	三和漁業協同組合上宮田支所	 支所長 吉田 一博
場所	上宮田漁港・支所（上宮田 540）	
組合員	18 名	

団体の概要

○上宮田漁港の漁師による協同組合。平成 31 年 2 月に城ヶ島、初声、上宮田の漁業協同組合が合併し、「三和漁業協同組合」の上宮田支所となった。

○定置網、刺網、タコ漁、貸しボート等をおこなっている。

○組員の高齢化により、漁に出ているのは 18 名のうち 10 名。

○組合員の年齢は 40～80 代。最高齢は 88 歳で漁に出ている。2 世代前には、60 名位の組合員がいた。

活動の概要

○年末地魚直売セール：毎年 12 月 29・30 日 9 時から上宮田漁港で開催している。漁師が鮮度のいい朝どれ地魚を直売する。

○上宮田漁港海鮮市：三浦国際市民マラソンの日に合わせ、上宮田漁港で 10 時から開催している。

○地びき網：組合員が仕掛けた網を砂浜で引いて網揚げを体験できる。とれた魚を持ち帰ることができる。季節によって魚の種類が異なる。年に 2～30 回の利用がある。小学生の海洋学習の一環として、市内の他、横浜からも体験に来ている。学童保育や会社などもある。三浦市観光協会が窓口である。今後海洋教育や一般向けの案内もできる予定。

代表者ヒアリング

○地域とのつながり、関わり

- ・以前は、旭小との交流があり、わかめの種付けから収穫まで 1 年を通じて体験をしたり、獲れた魚の稚魚を届け、水槽に魚の赤ちゃん水族館を作ったりした。上宮田小学校でも実施していたが、コロナ禍以降なくなってしまった。
- ・組合員の多くは、自主防災隊に入っている。
- ・仕事中は海にいる。南下浦水難救済会に入っていて、水難事故の救援で呼ばれたことがある。

○地域の弱み・困りごと、地域であるといいなと思うこと

- ・地域の高齢化。跡を継ぐ人がいない高齢夫婦も多い。その一方で、農家が手離した土地に分譲住宅が建ち、新しい住民も増えている。
- ・昔からの地元民と、移住して来た新しい人の交流機会がなく、知らない人が増えたと感じる。子ども会もない。お互いが知り合える交流の場が必要だ。
- ・住民同士が交流できるイベントがあるといい。ボランティアで関わることはできる。
- ・お正月に海岸でおこなうおんべ焼きで、回覧板をまわし「自由に来てください」と呼び掛けるといい。案内をすれば参加したい人はいると思う。交流の場になる。
- ・災害について、仕事上台風や大風が心配。最近は勢力が強い台風が多く、屋根が飛んだりする被害が出ている。漁師は船を陸に上げたり、油壺湾に船を避難させたりしている。
- ・市が管理している津波や高潮の被害を防ぐための防潮扉が、漁港周辺から三浦海岸にかけて 10 か所以上設置されているが、重くて閉めにくい。4～5 人分の人力やフォークリフトが必要な扉もあり、災害時に閉めて回ることができるか心配。駅に近い海岸にある県の土木事務所が設置している防潮扉はステンレス素材で、軽く閉めやすくなっている。

○上宮田漁港について

- 上宮田漁港の特徴は、三浦海岸という広い砂浜があること。以前は海で「音霊」による音楽イベントもあり盛り上がっていた。
- 上宮田漁港は港の堤防が中途半端で、台風で砂が港に溜まってしまい、船が出せなくなってしまうことがある。市の予算が下りず、港の改修が頓挫してしまった。港が堤防に囲われていると安心して係留できるのだが、それができない状況である。
- 海の様子も変化していて、漁獲量も減っている。わかめが育たなくなっている。
- 後継者を育てたくても受け入れるためにはよい環境とは言えない。船は中古で手に入るが、港が大きくないと大きい機械を入れられない。



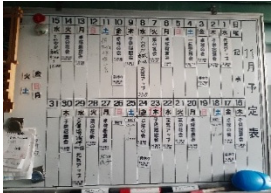
ヒアリングの様子



上宮田漁港海鮮市の様子

各施設

市民活動団体等の拠点となっている施設を紹介する。

名称	上宮田第1区会館
所在地	上宮田 516-2
概要 ○土砂災害・風水害の緊急避難場所となっている。 ○築 60 年以上。以前は児童会館だったが、閉館後、区の会館として使用している。 ○2 階建て。 ○1 階には、小さめの会議室が一つと、流し、トイレ、倉庫がある。什器としてホワイトボード、机、イスがある。 ○2 階には、流しと大きな会議室がある。什器として卓球台 2 台、黒板、机、イスがある。水と電気の使用が可能。屋上への外階段がある。 ○会館の敷地には、児童会館の頃からある滑り台、防災倉庫が設置されている。車を 3～4 台停めることができる。 ○組長会議の開催場所である。 ○基本的な利用対象者は区民である。	
利用状況 ○玄関のホワイトボードの予定表に、毎月の利用予定が表示されている。 ○毎月の区の定例会は、2 階の会議室で開催している。その際、配布物は 1 階の会議室に並べ、組長が持って帰る仕組みである。 ○51～53 頁で紹介した団体が定期利用している。	
 外観  1 階会議室  予定表  2 階会議室(卓球の会)  滑り台と防災倉庫  外階段	

名称	レンタルスペース aiba（あいば）	 代表 須藤 成美
所在地	上宮田 1119	

概要

○時間貸しレンタルスペース、イベント企画運営をおこなっている。定期的なレッスンやイベントを通して、地域の人との交流の場を提供し、活気あふれる街づくりに貢献することを目指している。

○約50年営業した旅館・民宿「ホテルあいば」を平成30年に閉店し、その後令和3年5月に「レンタルスペース aiba」としてリニューアルオープンした。知り合いから「コロナ禍でウェルネス関係の活動の場がない。」と相談を受け、思い切って始めた。

○1階、2階の4部屋をレンタルスペースとしている。営業時間9～21時で不定休。

利用状況

○定期レッスンのほか、イベント開催も多数ある。現在の定期レッスンには6つのヨガ、エクササイズ、体操、スマホ教室等がある。

○利用者の年齢層は子どもから高齢者まで幅広い。イベントにおけるメインの層は40～50代である。

○最近は結婚式の撮り出しの控室としての利用も多い。

○イベントは、定期的な保護犬譲渡会や健康をテーマにしたもの、マルシェや音楽祭、お話し会等多岐にわたる。駐車場にキッチンカーが来ることもある。

○季節によって「三浦野菜直売所」として、農家から直接仕入れた新鮮な野菜の販売をしている。

地域について感じていること

○以前は、区内にホテルや民宿、海の家、保養所などがたくさんありにぎやかだったが、今はほとんどなくなってしまった。運営者や働いている人も多かった。

○三浦海岸に移住して来た人達とのつながりもできている。移住してきた人達が訪ねてきて、おしゃべりしていくこともある。



玄関



イベント開催予定の掲示



過去のイベントの様子

レンタルスペース aiba 定期レッスン団体の紹介

団体名	呼吸を深めるヨガ
代表者名	阿部 佳子
活動内容	呼吸を一番に大切にしながら、自分の可動域で気持ちよく身体を動かし、心も身体も健やかに健康に保つ。QOL を高める。
活動日時・参加費	① 毎週火曜日 60 分間 ・ 1 回 500 円 ② 毎週木曜日 90 分間 ・ 1 回 1,500 円
参加者	① 約 20 名 ②約 10 名 いずれも 50～80 代の女性
活動していてよかったこと	参加者同士が知り合い、毎回楽しく話している様子を見て嬉しく思う。
メッセージ	「ヨガ」というと「体が硬いからできない」という方がいらっしゃいます。呼吸が常に通るところで動いてもらうので無理な動きがありません。お家から一歩出て参加していただきたいと思います。

名称	三浦市立旭小学校	 校長 二宮 則子
所在地	上宮田 950	

概要

○昭和 57 年に開校。

○令和 7 年 9 月現在の生徒数は 140 名で、1 学年 1 クラス。男子 68 名、女子 72 名。教職員 20 名となっている。

○令和 7 年度 4 月から学童保育が学校内に移転してきた。

代表者ヒアリング

○特徴は、20,750ha の学校林があること。特別環境委員が子ども達と農作物を育てている。農家の父親達が協力してくれる。年 2 回環境整備で木を切っている。

○地域の皆さんでスクールガードを立ち上げ活動してくれる。年に 1 回、学校でスクールガード協議会を開催し、スクールガードの顔合わせやスクールガードの在り方、子ども達の様子について協議している。スクールガードの皆さんは子ども達のことをよく見てくれていて、学校では見られない様子を教えてくれる。地域で子ども達を育ててもらっていると感じている。

○令和 5 年度は総合学習でグランドゴルフを通じて、地域の高齢者と交流した。

○平日の夜と土・日曜日、体育館とグラウンドを社会体育の場として地域に開放している。

○地域の避難場所となっていて、住民の分の防災食や水が用意されている。外と体育館のトイレは洋式に改修した。

○地域を見ていて困っていそうだと思うことは、住民の高齢化である。



校舎と校庭

団体名	浄土宗 海東山「三樹院」	 住職 今井正純
場所	上宮田 601	

概要

- ・ 仲今井地区にあるお寺。
- ・ ご本尊は十一面観音で、昔から今井の観音様と呼ばれている。年に3回ご開帳があり、1月の初観音では雅楽の法要もある。
- ・ 開かれたお寺として、本堂でいろいろな催しを開催している。過去には、講師神田ようかんさんの講談や和太鼓、インドネシア音楽、篠笛の演奏会などをおこなった。
- ・ 写経研究家による指導のもと、写経体験を年3回実施している。参加者は檀家に限らず、近所や三崎から来ている。これに合わせて音楽やハーブなど催しを開催することもある。
- ・ 今井さんは、三浦地区保護司会会長である。保護司として犯罪をした人などが社会の中で更生していく支援をおこなう活動に長年携わっている。

代表者ヒアリング

〇地域のためにおこなっていること

- ・ 本堂の上の駐車場を、災害時の一時避難場所として市民に開放している。スロープで登ることができるになっている。なお、三樹院前の道で海拔9.4mの高さがある。
- ・ 「三浦五井」の一つである「今井の井」は、災害時にも使えるようにポンプをつけてある。普段からお参りの花用の水として使ってもらっている。
- ・ 本堂を貸し出している。現在は自彊術が月3回開催され、毎回約10名が参加している。

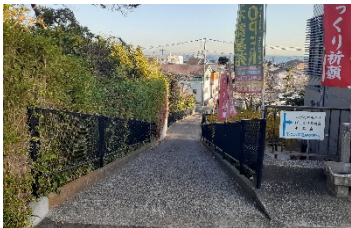
〇地域について感じていること

- ・ 月参りで一月に80軒近く訪問し、話を聞いているが、隣近所のつながりが少なくなっているようで心配だ。後継者がいないという店の話も聞く。
- ・ 地域で協力して何かに取り組むことが少なくなっている。代替わりを経ていろいろなことが急激に変わっていて地域のことが継承されなくなってしまう。お稚児さん等、残すべきものは残してほしいと伝えていかないといけない。
- ・ コロナ禍の影響は大きい。行事は3年休むと次に続かない。行事を復活しても簡素化するなど変わってしまう。

メッセージ

- ・ どなたでも来てもらえるお寺として催しをしたり、場所を貸したりしています。もともとは寺子屋でもあったので、いろいろなことに使ってもらいたいです。
- ・ 「お寺に来たら気持ちよかった」と思って、心安らかになってもらえたら嬉しいです。
- ・ お寺には常に誰かがいるので、困ったときに頼ってもらえるようなお寺でありたいと思っています。
- ・ 昔は子どもがよく遊びに来てくれました。藤棚もあるのでぜひ見に来てください。


 外観


 スロープ

ソフト面 店舗・会社等

今井原地区		
1	三浦創生舎（社会福祉法人県央福祉会） 開所日：月～土曜日 ○多機能型の生活介護・就労継続支援 B 型。平成 23 年に開所。 ○定員は 50 名。利用者の年齢は 18～77 歳で、平均 44 歳。知的障害者が多く、重複で精神や身体障害を持つ方もいる。男女比は同等で、三浦市民が 3 分の 2 以上を占める。 ○日常作業として、餃子作りや新聞紙でのエコバック作りに取り組んでいる。 ○コロナ禍以前は施設内でお祭を実施し、催しやカレー販売をしていた。近所の人にも来ていただいていたが、現在はできていない。 ○利用者と施設の周りの清掃活動をしている。 ○近所の人達が餃子を買いに来てくれたり、エコバックの材料になる古新聞を持ってきてくれたりして、ありがたい。 ○災害時に市の要請を受けて開設する「福祉避難所」として登録している。 ○地域には一人暮らしの高齢者もいる一方、新しく越してきた人もいる。 ○障害のある人が地域でどう活躍できるかが課題だと思う。 ○メッセージ：障害のある人のことで困っていることやわからないことがあれば、いつでもお声掛けください。	
2	永塚歯科クリニック 診察日時：月～金曜日 9:30～12:00・14:00～18:30 ○歯科診療。学校指定医（三崎小学校）。 ○スタッフは医師含め 7 名。三浦市民と横須賀市民とが半々。 ○患者は子どもから高齢者まで幅広いが、全体的に高齢者が多い。開業から 20 年以上経ち、患者も高齢化している。家族の送迎で来院する人も増えている。 ○地域の幼稚園等から口腔内の怪我で来院するケースもある。 ○エレベーターを設置し、体の不自由な人や車いすの人も来院しやすいようにしている。 ○横須賀歯科医師会の三浦班・班長を務めている。三浦市の歯科行事や検診の医師の調整、災害や感染症の会議、介護保険の審査会等、担う役割が多い。 ○三浦海岸花火大会への協賛をしているが、歯科医師会班長の役割が多く時間がとられてしまっていて、地域とのつながりは少ない。 ○歯科医師会三浦班の医師が高齢化している。若い歯科医師に入会してほしい。	

3	学校法人三浦幼稚園 幼児教育：平日 10：00～14：00、土日祝日休み、春・夏・冬休みあり。利用者は計200名。 すくすく保育舎：7：30～18：30、土日祝日休み、お盆・年末年始休み。利用者は計40名。 ○開園して70年を迎えた。写真上は鈴木隆之園長。 ○園児の3分の2が三浦市民。 ○幼児教育では、ニーズに対応するべく満3歳児クラスを開設した。 ○すくすく保育舎は、働いている親の子どもを幼稚園の開園前後の時間もお預かりするところである。 ○従業員の6割が三浦市民。 ○年に1回、南下浦中学校生が来園し、絵本の読み聞かせ実習をおこなう。 ○この地域で防犯に関して危なさは感じていないが、近年の防犯意識の高まりを受け、行事に以前のように地域の人を呼ぶことを控えている。 ○災害時の一次避難所として、地域住民のご厚意で線路の先の畑を借り、防災倉庫も置かせてもらっている。小さな子どもでも5～6分で避難できるよう、訓練をしている。 ○地域があつての三浦幼稚園だと感じているので、地域に恩返しができるよう、平時から地域の人とコミュニケーションをとって関係をつくりたいと思っているが、具体的な取り組みはまだできていない。 ○地域については、高齢者が多いので災害時が心配。幼稚園で避難する際に高齢者がいたら助け合って避難したい。 ○園を代表して、園長が地域の防災隊に登録している。令和5年度までは隊長を務めていた。 ○区で、津波避難のための高台避難場所を設け、訓練ではそこに集まってから避難する仕組みをつくっていた。しかし実際の災害時は訓練とは異なり、高台避難場所から次の場所へ誘導できる人がいるとは限らない。各自旭小に向かったり、高台避難場所に行くまでのルートが危険な場合は直接旭小へ向かう等、柔軟な対応が必要だと考える。	 
4	有限会社 プロフィット測量 営業：月～金曜日 8：30～17：30 ○測量業。 ○従業員5名のうち、3名が三浦市民。 ○客の年齢層は50～80代。 ○公共事業では三浦市や神奈川県と、民間事業では、三浦市、横須賀市、横浜市、神奈川県と関わっている。 ○測量で出向くと、近隣にお年寄りの一人暮らしが多いような気がする。 ○三浦市に限らず、空き家が多く見受けられる。行政でもっと空き家対策を進めていくべきだと思う。	

5	有限会社 高梨商店 営業日時：木・日曜日以外 8:00～17:00 ○豆腐の製造販売。豆腐・油揚げ・こんにゃく・おからドーナツ等。 ○3代前から100年以上豆腐製造を続けている。三浦では昭和5年に開業した。 ○従業員はパートを含めて12名、そのうち半分为三浦市民。 ○利用客は、高齢の女性が多い。 ○2代目は、保護司を25年間務めた。 ○元気がないお客様には86歳になる自身の健康体験を話し、元気づけている。 ○元気の秘訣は、体力と気力。体力をつけることと、自分の気持ちに負けないような精神力が大切だと思っている。	
6	CUT SPACE TAKAHASHI 営業日時：火・第2、3月曜日以外 8:30～18:30。予約制。 ○理容店。 ○明治45年に開業し、112年になる。 ○現在3代目が一人で営業している。 ○店内にはレコードやフィギュアを陳列し、メダカもいる。 ○客層は40～80代の男性で三浦市民や横須賀市民。子どもの頃から5～60年通っているお客さんもいる。 ○常連客で急に来なくなる人がいると心配になる。 ○一人暮らしのお客さんも多く、ご自宅まで出張カットに行ったり、送迎することもある。ケアマネジャーから担当利用者のカットの依頼が来ることもある。 ○横須賀・三浦の理容組合の数人で高齢者施設に出張カットに行っている。午前中だけで25名位をカットする。 ○この辺りに住む80代のお客さんは家から駅までが遠く、バスもないため買い物が大変そう。 ○昔はカットの後に店内で将棋をしたりして楽しむお客さんもいた。 ○先代の頃から地域の祭にも関わっている。 ○地域には高齢者が多く、子どもが少ない。何か橋渡しになるようなことができたと思っている。	
仲今井地区		
7	鍼灸マッサージ院 H.A.N.D 営業日：月～土曜日 営業時間：月～金・9:00～12:00、14:00～20:00 土曜日・9:00～12:00 （第2・4土のみ14:00～18:00も営業） ○令和6年開業の鍼灸マッサージ院。 ○客の年齢層は20～60代。 ○地域とのつながりは店舗周りの清掃。今後神社や区の会館の清掃などにも協力したい。 ○店舗入り口には、手すりのついたスロープを設置している。	

8	長谷川農園 営業日：年中無休 ○農家。大根を作って漬物（たくあん、キムチ）に加工している。他にズッキーニ、きゅうり、おかひじき、空心菜、ブロッコリー、キャベツ等を作っている。 ○夫婦、長女の家族で運営している。 ○2年前から長女がキムチ（カクテキ）の製造を始めた。たくあん加工時に使わない大根の上の部分を活用している。 ○漬物用の大根は、他の農家と分業して育てている。この大根は出荷費用（段ボール代）がかからない。その分、少しでも収入につながるようと考えている。 ○気候が変化し、暑さにより思うように育たない野菜もあり、試行錯誤している。 ○上宮田地区では、いわゆる三浦型農業といわれる大根、キャベツ、スイカ、南瓜以外の物を作る、新たなスタイルの農家が増えつつある。 ○仲今井の作業場前に、6年ぶりに直売所を再開したところ、地域の人達とのつながりが増えた。地域に移住してきた人達とつながりが持てることは災害時の支え合いのためにも大切だ。 ○新しく家が建つとどんな人が越してくるのか気になる。子どもがいる世帯も多い。 ○長女は祭にも関わっている。昨年の祭では、地域に越してきた子ども達を誘ったところ、「参加できて嬉しい。」と喜ばれた。声掛けを待っている人達もいる。 ○子ども会があれば、祭などに声を掛けやすい。子ども会があった頃は楽しかったが、今やりたいと思っても、役を担う親が大変になってしまうだろう。	
9	有限会社西崎保険事務所 営業日時：月～金曜日 9：00～17：30 ○損害保険、生命保険の代理店。 ○従業員3名のうち2名が三浦市民。 ○利用客は比較的高齢者が多い。 ○個人、法人の保険対応のほか、地域のお祭や行事の保険対応に関わっている。 ○三浦市内には専業で経営している保険代理店が少ない。 ○地域を見てみると、子どもが少なく、高齢者が多い。困りごとを相談できる人があまりいないという人が多いように感じる。 ○近年は風水害が多いので、災害の備えが必要だ。 ○地域の災害対策について、持っている資格や今までに学んだことを活かしてお手伝いできることがあると思うので、関わっていきたい。	

10	新倉農園 営業日：年中無休 ○農家。スイカ、ゴーヤ、カブ、玉ねぎ、秋ジャガイモ等を作っている。新しい野菜にもチャレンジしている。 ○20代後半にタイル職人から転職した。就農して10年になる。ゼロから始めるには5年にかかる。地域の人達のおかげで農家になることができた。 ○野菜は市場に出荷している。市場から新しい情報を得ることができる。 ○三浦は環境がいいので何でも育てられる。都心にも近いので、新鮮な野菜を消費者に届けることができる。 ○より安全で安心な野菜を作りたいという思いから、抗酸化力の強い野菜になるよう化成肥料の使い方等を工夫している。 ○地域では、消防団に所属している。祭にも長年関わっている。 ○地域に高齢者が増えてきたので気に掛けていきたい。子どもの頃に気に掛けてもらった。地域に育ててもらった分、恩返ししたい。同じように地域の子どものことも気に掛けたい。 ○海のそばなので、避難訓練の情報などをきちんと知りたい。情報があればもっと住みやすい。 ○公園等の子どもの遊び場が少ない。屋根のある遊び場があまりない。	
11	西崎商店 営業：木曜日以外。9：00～18：30 ○お酒、調味料、菓子、たばこ等の販売。メロン・スイカの発送をおこなっている。 ○明治時代に酒屋として創業し、5代目になる。 ○昔ながらの何でも屋で、お酒以外にも米やたばこ等を販売している。お酒は蔵元直送で仕入れているものもある。 ○メロンとスイカは農家と提携して注文を取り発送している。異常気象でメロンの生育に影響が出ている。農家や漁師が繁盛しないと、地域の元気が出ない。 ○町おこしでできた「三浦大根焼酎」は、平成10年に発足した「みうら江戸前倶楽部」（三浦海岸周辺の飲食店主らのグループ）の企画によるもの。 ○熨斗をつけて包む、お祭り等で使う奉納用のお酒の注文を受けている。最近是对應する酒屋が少ないようで、遠方からも依頼がある。 ○以前は南下浦地区だけで22軒の酒屋があったが、今は3軒しかない。 ○70年前は海の家が100軒以上あり、シーズンになるとたくさんの海の家に多くの酒類を届けていた。 ○海の家が40軒くらいに減少した頃、三浦をにぎやかにしていくために、三浦海岸周辺の商店主に呼び掛けて「三浦海岸まちなみ事業協議会」を発足した。三浦海岸わいわい市や駅前のイルミネーションを企画した。その後河津桜の植栽に取り組み、桜まつりも開始した。現在も代表をしている。	

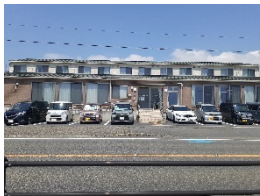
	○メッセージ：お陰様で近年は桜まつり期間中に30万人近くの来場者がある。これからも拡大したいと思っている。	
12	わん'sLAND 三浦海岸 営業日：年中無休（メンテナンス時期を除く） ○会員制のリゾート施設。全室ペットの犬や猫と宿泊できる。オープンして6年になる。 ○客室は11部屋。室内外にドックランあり。 ○従業員の半分が三浦市民。 ○客層は家族連れから高齢者夫婦まで全世代で幅広い。三浦市民の利用もある。 ○食事の提供はないため、犬と利用できる地域の飲食店を、店舗の了解を得て宿泊客に情報提供している。 ○地域の観光スポット等をブログで案内している。 ○地域とは、近所を犬連れで散歩をしている人達と交流がある。 ○宿泊客にはペットのマナーケアの徹底を呼び掛けている。 ○SDGsの取り組みとして、きれいな海や環境を守っていくために、海岸清掃等を心掛けている。	
13	佐々木社会保険労務士事務所 営業日時：月～金曜日 9:00～18:00 ○社会保険労務士として独立し、開業している。労務に関する相談、手続き全般をおこなっている。 ○社会保険労務士会に登録している。令和7年4月から、年金事務所の相談員としても勤務している。 ○顧客は法人が主。ベンチャー企業等の若い法人が多い。 ○知り合いになった地域の人達から、労務のちょっとした疑問を聞かれることもあり、柔軟に答えている。 ○年金が地域住民の身近な問題になっていることがわかった。そういった悩みを持つ地域の人達に貢献したいと思い、個人年金について知識をブラッシュアップしている。 ○「ちょっと聞きたい」というときに、地域で頼ってもらえる存在になりたい。	
14	特定非営利活動法人 成樹会 サロン ハナミズキ 開所日時：月～日曜日 9:30～16:30 ○介護保険事業の地域密着型通所介護（デイサービス）。送迎・入浴あり。 ○平成21年8月1日に立ち上げた。当時はNPO法人での三浦市第1号であった。 ○定員10名。利用者は三浦市全体から来ている。 ○年末最後の利用日は年越しそば、年明けはおせち料理を提供する。 ○一人暮らしの高齢者を訪問し、介護保険サービスについて説明することもある。孤独にならないよう声を掛けていきたい。 ○地域の顔見知りの高齢者が、散歩の途中で立ち寄り先の一つになっているので、来られたときは丁寧に声を掛けている。	

	○津軽三味線のイベントを開催するときは、利用者以外にも声を掛けている。 ○以前は幼稚園の子ども達を受け入れて、交流していた。また再開したい。 ○介護保険の事業所として、高齢者はもちろんのこと、子どもからどなたでもお迎えしたい。	
15	ワークアウト三浦海岸(有限会社 One up) 営業日時：月～金曜日（祝日含む） 8：00～18：00 ○令和4年に開業した、定員20名の生活介護事業である。なお令和7年4月から、多機能型の生活介護・就労継続支援B型事業に業態変更し、定員40名となる。 ○従業員の6割が三浦市民。 ○利用者の年齢層は24～66歳で、平均40代。知的障害者が多く、精神障害を重複して持つ人もいる。女性の方が多い。週5日通う利用者では、三浦市民が8割くらい。 ○日中活動として、午前はボクササイズ、筋トレ、散歩等の運動、午後は日替わりプログラムとしてゲームや卓球、制作活動、個別事業等をしている。 ○三浦国際市民マラソンに出店し、農家の野菜や手作りクッキーやサブレを販売した。 ○地域を見ていると、三浦海岸周辺は点字ブロックが少ないと思う。利用者には視覚障害のある人もいるが、環境が十分でない。 ○メッセージ：土日当社のスペースの活用をしたいという方がいたらご相談ください。ボクササイズの器具等も使えます。	 
16	民宿あほうどり 営業日時：金・木曜以外 10：00～17：00（販売） ○お弁当製造・販売を20年、現在はうらりマルシェにおいて販売をしている。元は民宿をしていた。 ○地元出身の3代目が取り仕切る。従業員6名は全員三浦市民。 ○客層はうらりマルシェの観光客や地元事業所の方。20～60代が中心。地域の人買いに来てくれることもある。 ○代表者は、保護司として活動している。	
17	有限会社 須原自動車商会 サービス工場 営業日時：月～土曜日 8：30～17：30 ○自動車整備店。 ○昭和30年頃から開業し、現在3代目である。自動車販売のショールームは半次にある。 ○従業員8名。 ○客の年齢層は10～80代で、7～8割が男性。三浦市民や津久井浜に住む人が多い。 ○地元の行事に積極的に関わり、毎年花火大会へ寄付している。祭礼時は、店頭を神輿の落ち合う場として提供している。	

18	もったいない食堂 三浦海岸店 営業日時：水～土曜日 11：00～15：00 （金・土は 18：00～22：00 も営業） 日曜日 8：00～15：00 ○レストラン。食材は横須賀・三浦の農家から余剰野菜や規格外野菜を仕入れている。三浦海岸店を開店して2年になる。令和6年8月にすぐ近くに移転・改装し、複合的に使えるお店とした。 ○従業員12名のうち半分が三浦市民。 ○客層は、観光客や地域の人。観光客は20～60代。地域の人には夜の利用も多い。 ○横須賀・三浦の漁師から魚を仕入れている。 ○地域との関わりでは、旭小に呼ばれて、もったいない食堂の取り組みについて児童にお話したことがある。 ○地域に農家が多いのに野菜を食べない子どもも多いと聞いたので、お子さま定食のメニューも始めた。	 
大瀬戸地区		
19	岡田クリーニング店 営業日時：月～土曜日 9：00～18：00 ○クリーニング全般。 ○先代が横須賀市で創業し、移転して60年。2代目として営業して40年になる。 ○この辺りにはクリーニング店がなかった。三浦海岸駅周辺はクリーニングの取次店が多かったが、最近は減ってきている。 ○お客さんが高齢になってきている。 ○以前は買い物に行くために歩いている高齢者をよく見かけたが、最近はあまり見なくなってきた。 ○夏は車の渋滞がひどくて大変だと感じる。	
20	西崎歯科医院 診察日時：月～土曜日 9：00～12：00、14：00～21：00 （土曜日は17：00まで） ○歯科治療。 ○従業員6名のうち4名が三浦市民。 ○客の年齢層は1歳～90代。 ○地域の活動として、ゴミステーションの清掃をしている。 ○地域を見ていて、ゴミや犬のフンのポイ捨てが多いと感じる。ファミレスのココスが連日混雑しているので、駐車場のある食堂があるといいと思う。	
21	有限会社 池田電気商会 営業日時：月～土曜日 9：00～18：00 ○家電製品等の小売り、電気工事（電気機器の取り付けや配線工事等）。 ○創業して50年以上になる。当初はラジオの製造から始めた。 ○家族と従業員1名で経営している。 ○客層は地元の人達で、比較的高齢者が多い。家電製品のネッ	

	ト注文や量販店まで買いに行くことが難しい人等。 ○昔から営業しているのでお店を知ってくれている人が多い。 ○三浦海岸駅近くに自社の家電製品販売店がある。 ○農家や漁師から、ちょっとした電気工事などの依頼もある。 ○この辺りの旧道はバスがないので、大変そうに歩いている高齢者をよく見かける。自動運転の小さな乗り物等ができるといいと思う。 ○防災隊隊長をしている。地域でできることはいろいろあると思う。	
22	書道教室吉田 営業日時：毎週木曜日 大人 14：00～、子ども：放課後～ ○自宅で 40 年くらい習字を教えている。本部は東京の町田市にある書王社。以前は学童の指導員をし、学童でも教えていた。 ○現在通っているのは、子どもが 13 名、大人が 1 名。 ○月謝は、大人は月 4,000 円、子どもは月 3,000 円である。 ○授業の方法について。生徒は 1 回の教室で、6 枚書く。まず 3 枚書いて指導を受け、さらに 3 枚書きその中から良いものを 1 枚選ぶ。さらに月ごとに 1 枚選んで本部に提出している。優秀な作品は書王社の月刊誌に掲載される。 ○年 2 回の昇級試験がある。 ○年に 1 回、上野で書道展があり、作品を出している。 ○参加者の声。「きれいに書けると嬉しい。先生がちゃんと教えてくれる。わかりやすく楽しい（小 5）。」「皆でやっているなので飽きない。上達できると嬉しい。（小 6）。」 ○メッセージ：書道教室をやっていてよかったことは、子ども達といろいろな話ができること。書道を始めたい人はぜひどうぞ。	
23	有限会社 浜庄司プロパン商会 営業日時：月～土曜日 9：00～17：00 ○プロパンガスの販売。ガス器具の販売、交換、ガス工事。 ○従業員の半分が三浦市民。 ○客層は高齢者が多い。 ○それぞれのお客さんとのつながりがある。 ○神奈川県地域見守り活動に関する協定※に加盟しているが、今までに緊急時に居合わせたことがない。 ※協定を締結した業者は業務で個人宅を訪問した際に、新聞が溜まっているなど異変を感じ、生命の危険が予見される場合は、市町村や警察署、消防署に通報する仕組み。 ○困ったこととして、お客さんが認知症なのか、家に入ったきり戻って来なくなることがあった。その後は、ヘルパーのいる日時に行くようにしている。 ○ガス以外でもお客さんから頼まれることがある。 ○災害用に予備ボンベを用意している。横須賀市では市と県LPガス協会横須賀・三浦支部に協定があり、避難所にボンベを設置することになっているが、三浦市には協定がない。	

24	ミニストップ 三浦海岸店 営業日時：24時間365日 ○コンビニエンスストア。 ○開店して20年位経過しているため、建物を補修しながら営業している。 ○副店長は約20年勤務している。 ○従業員の大体半分が三浦市民。 ○年齢層は子ども～高齢者まで幅広い。 ○「あんみつ」は本来、期間限定商品だが、高齢者に人気のため定番商品としている。 ○地域には独居高齢者が多い印象がある。 ○来店した高齢者から、定額給付金等の書類の書き方や、携帯電話が壊れた等の相談を受ける。「コンビニを最後の頼れる場所にしている。」といわれることもある。 ○セルフレジが苦手な高齢者が多いので、セルフレジの導入は敢えて見送っている。 ○高齢者の中には、小銭を計算して支払うことが難しく、お札で支払う（財布の中が小銭であふれている）人がいるため、スタッフに余裕がある朝の時間帯等はスタッフが小銭で支払う手助けをしている。 ○同じ物を何度も買いに来たり、支払いは済んでいるのに「払っていない」という高齢者がいる。 ○他にもご様子が心配になる高齢者がいて、近所の人に相談したこともある。気になる客がいた場合に、どこに相談したらいいのかがわからない。相談できる場所があると助かる。 ○障害のある人の来店も多い印象がある。三浦創生舎から職員と利用者で買い物に来ることもある。 ○障害のある人が一人で来店したときに困ったことがあり、副店長から一度注意をしたら、話をきちんと聞いてくれた。今まで障害者と接する機会があった訳ではないが、話せばわかってもらえると思って行動した。一方で、対応が難しいケースもある。 ○店内の喫茶コーナーが、夕方、中学生のたまり場になることがある。しばらくは様子を見るが、30分位経ったら帰るように声掛けしている。 ○以前は駐車場にゴミ箱を設置していたが、捨て方のマナーが悪かったため、現在は店内のみにゴミ箱を設置している。バーベキューセット、七輪、コンロなどのほか、魚の釣り針が捨ててあり、店員がケガをしたことも複数回あった。 ○店のゴミを保管しておくケースに鍵をかけておかないと、勝手にゴミを捨てられてしまうため、施錠している。	
芝原地区		
25	城門 営業：火～金曜日 11：00～15：30 土日祝 11：00～20：00 ○ラーメン店。	

	○昭和 54 年に創業し、2 代目を取り仕切っている。 ○従業員は 15 名、ほとんどが三浦市民。 ○客層は 30～80 代が多く、通常のラーメン店より年代の幅が広い。地元の人が多いが、市外、県外から来る人もいる。 ○昔から通っている人も多く、30 代の頃から利用していて現在 80 代という人や小さい頃父親に連れて来られたと話す人もいる。 ○お祭りの若い衆や地域の人達が団体で来ることもある。 ○地元の人間が 50 年続けているので、お店自体が地域そのものであり、欠かせない地域の一部になっていると思う。いつもどおり昔ながらの形を維持することを心掛けている。 ○地域を見ていると、小学生や若い子達が遊べる場が少ないので、そういう場が増えてほしいと思う。 ○地域に 20 時以降、食事できるところが少ない。 ○三浦が好きなので、お店がある以上三浦に貢献したい。	
26	原理容店 HARATOKO with craft coffee 営業時間：8：00～19：00。予約制。 ○理容店。 ○祖母が開店し、現在 3 代目が運営している。6 年前に改装した。現在は家族（息子と父）で経営。 ○客層はお子さんから高齢者まで。若い世代や女性客も多い。パーマ等の待ち時間に自家焙煎の豆を挽いてコーヒーを提供している。 ○個人的な活動として、三浦海岸駅に雨の日に使ってもらうための傘を定期的に届けている。	
27	ふるさとホーム三浦海岸（株式会社ヴァティー） サービス付き高齢者向け住宅：年中無休 通所介護：年中無休 9：30～16：45 ○開所して 7 年目。 ○従業員は 20 名で、三浦市民が半分かくらい。 ○サービス付き高齢者向け住宅とは、高齢者単身・夫婦世帯が居住できる賃貸等の住まいである。介護付きなので介護サービスが受けられる。定員 35 名。 ○介護度 1 以上から利用でき、看取りまでおこなう。 ○入居者が利用するデイサービスを併設している。入居者以外の利用も可能。 ○入居者の平均介護度は 2.8。60～90 代で男性は 10 名以下で女性が多い。三浦市在住の子が遠方に住む親を呼び寄せたり、家族が「東京から通いやすい」という理由で、遠方から入居に至る人も多い。 ○地域とのつながりはほとんどない。コロナ禍以前は、フラダンスのグループを招いたことがあるが、最近はできていない。 ○災害時は、施設 2 階への垂直避難の予定。以前、避難訓練として車で旭小に向かったことがあるが、災害時に車で避難することは難しいと断念した。地域の人の協力があると助か	

	る。 ○デイサービスに、子ども達によるボランティアを受け入れたい。 ○メッセージ：地域の人役に立てる施設でありたいと思っています。問い合わせや見学はご相談ください。	
28	Burgers&Smoothies The POP-UP 営業日時：月～金曜日 11:00～15:00 土・日・祝日 8:00～18:00 ○カフェのほか、キャンプ用品の販売やレンタルをしている。 ○リニューアルし、ハンバーガーと季節の三浦産果物を使ったスムージーの専門店として再出発した。	
29	㊤須原農園（まるにすはらのうえん） 直売所営業日時：6～9月は毎日営業 8:30～18:00 ○農家。直売所の営業もしている。 ○10月はナスの収穫状況に応じて販売する。 ○夏はナスが人気で、スイカやメロン、キュウリ等も取り扱う。冬は大根と玉ねぎ、3月頃は新玉ねぎを販売している。 ○買い物客は、近所の人が多い。車で来る人もいる。市外の飲食店がナスを買いに来ることもある。 ○以前は、夏はスイカ・メロン、冬は大根のみを栽培していたが、消費量が減ったことから、ナスや玉ねぎを始めた。ナスは接ぎ木ではなく、種から栽培しているので「おいしい」と好評だ。 ○従業員は家族が主。ヤギのうーちゃんがいる、お客さんに人気。高いところが好き。 ○市内の農家の後継者問題は深刻。自身は親の跡を継ぎ現在50代だが、近所の農家で若い人はあと1軒くらい。 ○地域には越してきた家も多いが、旧道沿いは昔からの人が多い。 ○ゴミステーションの置き場所を敷地内で提供している。ゴミステーションの場所が確保できずに、遠くにゴミステーションがある地域もあり、大変そう。旧道沿いのゴミステーションに住民以外の人ゴミを捨てていることが多く、あふれてしまうこともあった。分別してあればまだいいが、していないと大変だ。区から、アパートを建てるときに敷地内にゴミステーションも併せて作ってもらうように提案したら、捨てて行く人が減った。 ○不動産屋は新しく越してくる人にゴミのことも含めて説明しておくべきだと思う。 ○地域で区費を1年分もらいに行く組長が大変。「高齢で組長をできない。」という人が増え、以前は40年に1回といわれていたが、最近は20年に1回、組長が回ってくるようになった。 ○旧道を猛スピードで走る車が多い。生活道路であるにもかかわらず、スピードを出す車が多く困っている。 ○近くの大型店舗ができた当時は、駐車場から海沿いにも出口	 

	を設けるという話だったが、現在は旧道からしか出られない。 ○昔、消防団員を12～13年やっていた。今は消防団のOBとして、区の防災隊に所属している。消防団は若い世代が入ってきたら、上の世代が抜ける仕組みだが、いまは若い世代があまり入らないため、なかなか抜けられないようだ。区内の火事の際は団の消防車に乗り、火事場に駆け付けていた。	
30	有限会社 島崎設備工業 営業日：月～金曜日 ○水道設備。 ○1人で運営している。 ○市内の依頼が多い。1人なので市外まで回りきれない。 ○この地域で水道漏れなどの相談があれば、土日や夜間でもすぐ対応するようにしている。	
31	あゆみの家 チューリップ・すずらん（有限会社 One up） 開所日時：年中無休 ○共同生活援助（グループホーム）。 ○2棟とも令和4年に開所した。共に定員4名。 ○主に夜間において、共同生活を営む住居で相談、入浴、排せつまたは食事の介護、その他の日常生活上の援助をおこなう事業所である。 ○あゆみの家全体で6棟あり、従業員はパート含め約50名。三浦市民が6割以上。外国籍のスタッフも雇用している。 ○入居者は、知的や精神障害を持つ女性のみで20～60代。日中は、区内にある事業所ワーカウトに通所する人や、電車で横浜方面の就労支援事業所に通所する人もいる。 ○地域では、三浦ライオンズクラブ主催の芋掘りや海岸清掃の行事に参加している。 ○地域のゴミ当番にスタッフと利用者が参加している。 ○メッセージ：開所してようやく3年。グループホームであることを地域の人達に知っていただけていないので、地域連携推進会議等に地域住民の参加を呼び掛けていきたいです。	 
石作地区		
32	介護老人保健施設なぎさ（医療法人眞仁会） 入所：年中無休。 通所リハビリテーション：月～土、祝日 9：30～15：40 ○介護を必要とする高齢者の自立を支援し、家庭への復帰を目指すために、医師による医学的管理をおこないながら、看護・介護のケアや、理学療法士や作業療法士によるリハビリテーション、栄養管理・食事・入浴等の日常サービスを併せて提供する施設。通称「ろうけん」。 ○入所は100名定員、通所は40名定員である。 ○従業員は76名。近所から通っている人もいる。 ○利用者の年代は平均80代。100歳を超えた利用者もいて、市長の百歳高齢者表敬訪問も受けている。 ○コロナ禍以前は、区から草刈りのお知らせがあり協力してい	

	た。上宮田小羊保育園の園児との交流もあった。 ○新型コロナウイルスが５類になったものの、施設内で感染症が流行すると保健所の指導が入るため、思うように行事や面会を再開できない。 ○施設は畑に囲まれており、農家との交流がある。裏の畑では三浦ライオンズクラブによる障害のある人を対象としたじゃがいも掘りのイベントが実施されていた。 ○地域のためにできることとして、三浦海岸の花火大会後のゴミ拾いに参加した。 ○メッセージ：高齢者の介護等で困っていることがあれば、気軽に相談にいらしてください。	
33	炭火焙煎珈琲&ギャラリーわんから 営業日時：金曜・第１土曜日以外 10：00～18：00 ○ギャラリー喫茶として開店して30年近く経つ。 ○仕事を早期退職し、コーヒーを学びオープンした。 ○メニューは炭火焙煎コーヒーのほか、紅茶等、デザートケーキ、軽食（トースト、ビーフカレー等）やスープなど。 ○従業員は近くに住んでいる。 ○第４金曜日 13：30 から「うたごえカフェ」を開催している。その他、月に１回絵手紙教室を開催している。ステージにはピアノもある。 ○年間を通じて季節の花が咲くよう木を植えている。６月に咲くジャカランダの花が有名である（右写真）。 ○客の年齢層は70～90代で、80代が多い。入口の階段に転倒防止の手すりを設置し、段差に黄色いラインを引いている。 ○ギャラリーの貸し出し費用は無料。個展や教室の利用が多い。 ○地域の住民や自治会が会議や打ち合わせに使うことも多い。 ○地域住民が高齢化していて大変そうに思うことが多い。常連客で、歩けず来れなくなってしまった人もいる。 ○お客さんに送迎や植木用の土を買う等を頼まれて手伝うこともある。 ○高齢者がいろいろなことに参加できる地域になってほしい。読むこと、しゃべること、出掛けることが大切だと思う。	  
34	岡安園 営業日：年中無休だが、天候による。 ○農家。キャベツ、枝豆、南瓜が主な作物。ミカン園でのミカン狩り。 ○枝豆の時期はパートを増員する。 ○ミカン狩りは農協や駅の案内所経由で来る人が多い。毎年来てくれる人も多い。 ○依頼に応じてミカンの発送をしている。 ○三浦海岸ハイツの自治会（上宮田第５区）がミカン狩りに来ている。以前は幼稚園等が来ていたが、最近はない。 ○住宅街なので、消毒の際は張り紙で実施日など知らせてい	 

	る。また、トラクターに泥がついた状態で住宅地を通るときは汚さないように気を付けている。 ○消防団に属している。 ○祭の手伝いをしている。祭は 29 歳までの若い衆を中心におこなっているが、人手不足のため今も手伝っている。	
35	鈴木農園 営業日：年中無休 ○農家。作物はキャベツ、イチゴが中心。夏野菜はナス、トマト、南瓜、山芋、サツマイモ等。 ○従業員は、横須賀市にある障害者のグループホーム（きらめきの家）の入居者が中心。多いときは 7～10 名来ている。 ○農業体験を受け入れている。対象は幼稚園、小中学校、障害者等。 ○令和 7 年度中に障害者支援の就労継続支援 B 型事業を開始する予定で申請している。 ○毎月第 2 日曜日は、農業ボランティア「まほらマエミー」から学生等 4～10 名を受け入れている。 ○石作で 7 軒あった農家が、現在 5 軒となっている。後継者がいないことが課題。作物の売値は変わっていないのに経費のコストが上がっていて農家の利益では生活ができない。変化をいわず意見交換や連携することに時間をつくるのが大切だと思う。 ○長年の考え方を変えていくためには、ネームバリューのある人を講師に招くような機会があるといいかもしれない。 ○三浦市の新規就農者の受け入れ体制がもっと柔軟に整備されるとよい。 ○旭小の体育館で毎週水曜日の夜にサッカーを教えている。	

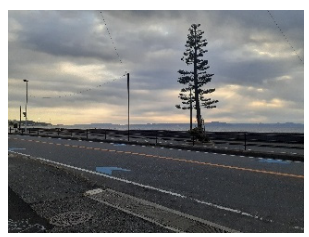
ハード面

下記地図上の番号は、実際に上宮田第1区内を歩いてみて感じた危険箇所やバリアフリー化の状況、ゴミステーションや消火栓等公共の設備・施設等を示している。なお本章の地図上の境界線は、大まかな目安としてご覧いただきたい。



仲今井・今井原		
1	排水溝の上のコンクリートが一部ひび割れている。	
2	排水溝に落ち葉が入らないよう金網を立てる工夫をしている。	

3	急坂が続く道。	
4	土地の持ち主は三浦幼稚園の津波避難場所として畑を使えるよう許可している。入り口が広がっている。	
5	排水溝のグレーチングが開いたままになっている。	
6	横須賀市津久井浜との境にあるゴミステーション。カラス除けに鏡を置くなど工夫している。	
7	ゴミステーション。金属製のケースが2つと大きなネットがある。	
8	金属製のしっかりしたゴミステーション。	
9	ブロックで囲まれたゴミステーション。ネットが外れないよう竿で押さえる工夫がある。	

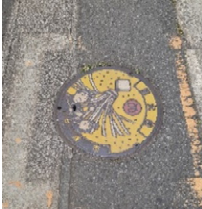
10	避難場所を表示している看板。剥がれている部分が多く、避難場所の建物名や説明を読むことができない。	
11	ホースカー収納箱。	
12	旧道のゴミステーション。地域住民いわく、道路際にスペースが狭いのでゴミが多い日はあふれてしまうとのこと。	
13	区民会館。詳細は 62 頁参照。	
14	海沿いのゴミステーション。金属製のケースをネットでしっかり覆っている。	
15	海沿いのゴミステーション。両側はブロックで囲まれ、ネットがついている。金属製のケースもあるが、ゴミが入りきらない。	
16	海沿いの国道 134 号線。道路の海側に駐車場、歩道があり、低い堤防の向こうはすぐ砂浜になっている。	



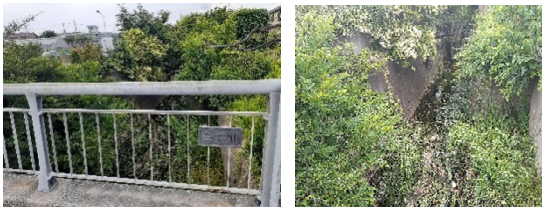
大瀬戸		
1	消火栓のマンホールがある。すぐそばに汚水等のマンホールがある。	
2	電信柱の上に、カラスの巣があるため、カラスに注意の張り紙が掲示されている。 (令和6年5月30日時点)	
3	京浜急行線の高架橋。旭小への通学路となっている。手前脇にゴミステーションがある。金属製のケースをネットでしっかり覆っている。	

4	暗渠と水路がある。住宅の合間を縫って、海まで細い水路が続いている。	
5	旧道沿いの水路。	
6	消火栓。	
7	海沿いのゴミステーション。金属製のケースをネットでしっかり覆っている。	

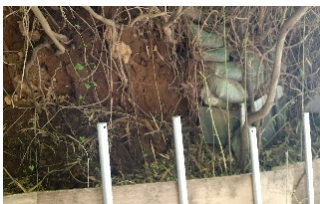


芝原	
1	消火栓ホース収納庫と消火栓。消火栓を囲むオレンジのラインが消えかかっている。  
2	消火栓。 
3	京浜急行線の高架橋。旭小の通学路になっている。電信柱に「通学路スピード落とせ」の掲示がある。 

4	金属製の小屋になっているゴミステーション。カギがかけてあり、使用する住民間で管理している。	
5	芙蓉ハイツのゴミステーション。	
6	芝原公園。 出入口は2か所ある。 鉄棒と砂場、水飲み場、ベンチがある。 芙蓉ハイツのすぐ隣にあり、同ハイツの住民が定期的に公園の清掃をおこなっている。ハイツが主催するお花見会や芋煮会の会場としても利用されている。	     
7	金属製の箱型のゴミステーション。後からできた分譲住宅とその周辺の住民で使っている。	
8	掲示板。「一区子供会 上宮田一区」と表記されている。今は子ども会はないが、掲示板として活用されている。	
9	須原農園の敷地内にあるゴミステーション。	

10	陣屋川と川に架かる境橋。橋のそばの川底や護岸はきれいに整備されている。	
11	高台へ避難の掲示がある。	
12	上宮田第一区消火器具置場とその脇に金属製のゴミステーションがある。	
13	海岸の防潮扉。区内では約 600 メートルごとに防潮扉が設置されている。	
14	今井川と川に架かる今井橋。川底や護岸には草木が茂っている。	



石作		
1	小屋型のゴミステーション。	
2	三叉路の真ん中に消火栓がある。	
3	土がむき出しの斜面がある。	

4	旭小擁壁のクラック。平成 20 年に石作 2 組自治会として教育委員会に陳情し、それから両者で定期的に観測調査を継続している。現在まで概ね変化はないとのこと。	
5	旭小につながる坂と階段。住民ヒアリングでは「避難時に上がるのが大変だ。」という声が多く聞かれた。	
6	用水路。 旭小の下辺りから、住宅地に沿って石作公園の下まで続いている。畑から土が流れて水路に溜まり、草が生い茂るため、流れが悪くなってしまうためたびたび市に相談している。 住民から「豪雨時や津波の遡上で内水氾濫が発生するのでは。」と心配する声も聞かれた。	
7	石作公園付近の水路では、以前犬が落ちてしまうことがあった。現在は柵もあるが、子どもの転落などの心配もある。	
8	住宅地の階段。踊り場の真ん中に、車等が誤って通らないようポールが設置されている。両側に手すりがある。	

9	きれいに整備されたゴミステーション。かご、ネット、掲示板、水道もある。	
10	通学路沿いの斜面。土砂災害警戒区域。木が道路側に覆いかぶさっている。倒木時は組から市に連絡した。	
11	草木が生い茂る土手。近所の人が自主的に草刈りしている。	
12	きれいに整備されたゴミステーション。かご、ネット、掲示板、水道もある。	
13	通学路の横断歩道。旭小の1年生が横断歩道の渡り方について警察署の指導を受けていた。	
14	「こども110番のいえ」(神奈川警察・警親会)の札をつけている家。	
15	縁石がずれてしまっている。 ※写真右:令和7年9月に確認したところ、補修済みであった。	

16	一旦停止の停止線が交差点との境にある。「この位置で車が止まっても、歩道を歩いてくる人とぶつかってしまいそうで危ない。」という住民の声があった。	 
17	石作公園。 2 か所出入口があり、どちらも階段がある。 中は広い広場になっている。 滑り台と鉄棒、東屋、10 台のベンチ、「上宮田第1区自主防災隊倉庫」が設置されている。	      
18	旭小通学路上の複数の電柱に「通学路 スピード落とせ」の掲示がある。	 
19	ブロック塀に囲われたゴミステーション。上部と正面をネットで覆っている。ネットがめくれないように工夫している。	 
20	歩道の境にポールが立っている。	

21	京浜急行線の高架橋。車 1 台が通れる幅である。しばしば両方向から車が来て、高架橋手前で片方の車が端によけている様子が見られる。	
----	---	--

■ワークショップ（茶話会）について

地域診断の一環として進めてきたワークショップ（茶話会）について、取り組みの経過を記載する。

日時・場所	実施内容												
令和5年12月	地域住民への提案と説明 区の定例会で組長に調査票、茶話会のチラシを配布し、以下の内容を説明した。 「住民有志と共に地域づくりを考える茶話会を開催しながら、住民に地域のいいところや困っていること等のヒアリング調査をおこなう。地域の団体や企業にも、地域とのつながり、地域のためにやっていること、今後やってみたいこと等を聞き、最終的に冊子にまとめる。」 併せて組長に調査票を配布し、回答の協力を呼び掛けた（調査票は19頁に掲載）。 上宮田第1区のみなさまへ お茶を飲みながら、地域のことをおしゃべりする会♪ 世代を超えて、若者男女どなたでも！ 茶話会 1月27日（土） 10:30～12:00 レンタルスペース aiba（アイバ） ・地域のことをいっしょに考えてみたい…！という方はぜひお気軽にご参加ください ・集まった皆さんで、自己紹介のあと、上宮田第1区のいいところ、こまってみところ「こうだったらいいな」「こんないいところもあるよ！」等おしゃべり。 ・地域の交流を体験するカードゲームもやってみます！ <u>※上宮田第1区にお住まいの方に限ります</u> （問合せ先）社会福祉法人 三浦市社会福祉協議会 担当 青田 TEL・FAX 046-874-9882 vol2@shakyo-miura.com これから安心して暮らせる地域をめざして 今、全国で『新しい地域づくり』（住民が主体となった助け合い活動の推進）が進まっています。5年後、10年後も安心して暮らすことができるように、大いに関わりあう地域づくりを始めてみませんか？ <table border="1" style="width: 100%; font-size: x-small;"> <tr> <td>事業名</td><td>地域協働を通じて地域を知る、地域づくり事業</td></tr> <tr> <td>目的</td><td>これからの安心して暮らせる地域をめざして、地域の課題や悩みを把握し、解決に向けて、地域でできることを考えるきっかけとする。</td></tr> <tr> <td>内容</td><td>在所等とともに、地域づくりを考える茶話会を開催しながら、地域住民に地域のよいところや困っていること等を聞くヒアリング調査をおこなう。地域で活動する団体や企業にも、地域とのつながり、地域のためにやっていること、今後やってみたいこと等を聞き、最終的に冊子にまとめる。</td></tr> <tr> <td>目指すゴール</td><td>この事業を通じて、地域のことを知り、自分だったら地域でこんなことができるかもという人を増やし、活動が生まれていくことを期待する。</td></tr> <tr> <td>今後の流れ（※）</td><td>12月～ ・区民会館を利用する区内のグループや参加者にヒアリング。 ・1月の茶話会の開催（区民会館等）をする。 1月～ ・1月に地域のことを考える茶話会を実施（※1回で継続）。 ・地域協働（老人会等）や個人宅にヒアリング。 2月～3月 ・茶話会の実施。 ・地域協働（老人会等）や個人宅にヒアリング。 ・地域で活動する団体や企業にもヒアリング。 ・地域を歩き、ハード面を調査する。 4月～5月 ・ヒアリング結果の分析。 ・冊子にまとめる。 ・冊子を配布し、区内で茶話会の実施。</td></tr> <tr> <td>実施主体</td><td>社会福祉法人、三浦市社会福祉協議会 地域協働推進 担当 企画文庫コーディネーター 青田 藍子 〒259-0101 三浦市南浦下町上宮田 1459-8 TEL・FAX 046-874-9882 E-mail vol2@shakyo-miura.com</td></tr> </table>	事業名	地域協働を通じて地域を知る、地域づくり事業	目的	これからの安心して暮らせる地域をめざして、地域の課題や悩みを把握し、解決に向けて、地域でできることを考えるきっかけとする。	内容	在所等とともに、地域づくりを考える茶話会を開催しながら、地域住民に地域のよいところや困っていること等を聞くヒアリング調査をおこなう。地域で活動する団体や企業にも、地域とのつながり、地域のためにやっていること、今後やってみたいこと等を聞き、最終的に冊子にまとめる。	目指すゴール	この事業を通じて、地域のことを知り、自分だったら地域でこんなことができるかもという人を増やし、活動が生まれていくことを期待する。	今後の流れ（※）	12月～ ・区民会館を利用する区内のグループや参加者にヒアリング。 ・1月の茶話会の開催（区民会館等）をする。 1月～ ・1月に地域のことを考える茶話会を実施（※1回で継続）。 ・地域協働（老人会等）や個人宅にヒアリング。 2月～3月 ・茶話会の実施。 ・地域協働（老人会等）や個人宅にヒアリング。 ・地域で活動する団体や企業にもヒアリング。 ・地域を歩き、ハード面を調査する。 4月～5月 ・ヒアリング結果の分析。 ・冊子にまとめる。 ・冊子を配布し、区内で茶話会の実施。	実施主体	社会福祉法人、三浦市社会福祉協議会 地域協働推進 担当 企画文庫コーディネーター 青田 藍子 〒259-0101 三浦市南浦下町上宮田 1459-8 TEL・FAX 046-874-9882 E-mail vol2@shakyo-miura.com
事業名	地域協働を通じて地域を知る、地域づくり事業												
目的	これからの安心して暮らせる地域をめざして、地域の課題や悩みを把握し、解決に向けて、地域でできることを考えるきっかけとする。												
内容	在所等とともに、地域づくりを考える茶話会を開催しながら、地域住民に地域のよいところや困っていること等を聞くヒアリング調査をおこなう。地域で活動する団体や企業にも、地域とのつながり、地域のためにやっていること、今後やってみたいこと等を聞き、最終的に冊子にまとめる。												
目指すゴール	この事業を通じて、地域のことを知り、自分だったら地域でこんなことができるかもという人を増やし、活動が生まれていくことを期待する。												
今後の流れ（※）	12月～ ・区民会館を利用する区内のグループや参加者にヒアリング。 ・1月の茶話会の開催（区民会館等）をする。 1月～ ・1月に地域のことを考える茶話会を実施（※1回で継続）。 ・地域協働（老人会等）や個人宅にヒアリング。 2月～3月 ・茶話会の実施。 ・地域協働（老人会等）や個人宅にヒアリング。 ・地域で活動する団体や企業にもヒアリング。 ・地域を歩き、ハード面を調査する。 4月～5月 ・ヒアリング結果の分析。 ・冊子にまとめる。 ・冊子を配布し、区内で茶話会の実施。												
実施主体	社会福祉法人、三浦市社会福祉協議会 地域協働推進 担当 企画文庫コーディネーター 青田 藍子 〒259-0101 三浦市南浦下町上宮田 1459-8 TEL・FAX 046-874-9882 E-mail vol2@shakyo-miura.com												
令和6年1月	区より茶話会の募集チラシを配布した。												
1月27日（土） 10:30～12:00 レンタルスペースあいば	第1回茶話会開催 参加者10名。住民同士で声を掛け合い、民生委員2名と主任児童委員、区長、区の役員、その友人のほか、三浦市社協から声を掛けた区内在住のボランティアや老人クラブ会長が参加した。 												
2回目以降の茶	第2回 令和6年2月17日（土） 9名 第3回 3月18日（月） 6名												

話会 なお、記載の人数は参加者数である。開催場所は、第2～5回はレンタルスペースあいば、それ以降は区民会館である。	第4回 4月11日（木） 6名 第5回 5月13日（月） 6名 第6回 6月11日（火） 5名 第7回 9月10日（火） 4名 第8回 10月7日（月） 5名 第9回 11月12日（火） 5名 第10回 12月10日（火） 4名 第11回 令和7年1月21日（火） 5名 第12回 2月10日（月） 6名 第13回 3月11日（月） 5名 第14回 5月12日（月） 5名 第15回 6月27日（金） 12名 ※第2層協議体と合同開催 第16回 7月10日（木） 5名 第17回 8月22日（金） 6名 以降毎月1ペースで開催中。
	茶話会の様子 ・毎回参加するメンバー全員がスクールガードであることから、スクールガードの取り組みの課題や改善点について活発な意見交換が多く挙げた。 ・芙蓉ハイツの活動やふよう会の仕組みについて情報共有をした。 ・地域の困りごとへの対応方法、これから始めたい取り組みについて相談をすることもあった。 ・防災活動について、東日本大震災から学んだことの共有や上宮田第1区でできたらいいと思うことについて意見交換した。 意見 ・高齢者が多い。近所で集まる機会が昔より減っている。 ・工事現場付近に、下校する子どもの見守りが必要だ。下校の見守りは時間が長いため、やりたくても難しく、できる人が限られる。 ・若い世代が地域でコミュニケーションを持てる機会が少ないと感じる。 ・災害時に向けて、隣近所で訓練や炊き出しをしたい。 ・移住してきた若い世代が「子どもの病院がどこにあるのかわからない。」など生活上の困りごとを抱えている。 ・スクールガード活動は、近所の高齢者の近況に関する情報交換の場にもなっている。

茶話会参加者と 一緒に実施した 調査	4月16日、4月19日、4月23日、5月2日 ・石作2組住民ヒアリング15件、アンケート調査13件 ・石作ハード面調査
	5月7日、6月13日、6月14日 ・芝原住民ヒアリング20件 ・芙蓉ハイツ アンケート調査 8件
	5月27日、6月3日 ・今井原・仲今井住民ヒアリング6件、アンケート調査14件
	5月30日、6月6日 ・大瀬戸住民ヒアリング6件、アンケート調査4件
	令和6年4月8日 上宮田第1区の皆様へ 支え合いの地域づくりのための調査(地域診断)について 社会福祉法人三浦市社会福祉協議会 会長 杉 山 真 上 宮 田 第 1 区 住 民 青 志 貴方様のご理解のこととお願い申し上げます。 また、日頃より本会へのご協力を賜り、誠にありがとうございます。 本会では「住み慣れた地域生活の営み、誰もが、いつまでも、安心して生活できるようにすること」を目的に、支え合いの地域づくりを進めています。 上宮田第1区では、区民のご理解を得て、昨年の12月より取り組みを始めました。 はじめに、地域の回りごとやある程度の距離を結ぶために、近隣住民1区会館を利用するがために開会にお願いいたしました。その際、住民有志で意見交換を重ね、4月からは実際に上宮田第1区の一部の地域を回り住民の聲にお話を開く調査を開始することとなりました(詳しくは裏面に書く予定です)。 調査の実施期間は2024年1月～2024年6月です。支え合いの地域づくりを進めるために、ご理解とご協力をお願いいたします。その際、以下の質問をさせていただいたためです。差し支えない範囲でお話しいただけると幸いです。 ・上宮田第1区の良いところ、地域住民間の支え合いでできていること ・生活で困っていること、ご自身の助けがなかったらいいかなど思うこと ・災害時に困って不安なこと、避難の仕方について書いていること ・今後の上宮田第1区は、どんな地域になって欲しいか ……など 上宮田第1区 茶話会 ★住民有志による集まりです。「地域でこんなことで困っている」「支え合いの地域づくりについて書きたい」という内容は、参加していただければ大丈夫です。OKです！(月に1回1時間30分程度)です。住民有志で集まっていきますので、お気遣いなくください(目標は地域住民有志者20名程度です)。 事務局 社会福祉法人三浦市社会福祉協議会 生活支援コーディネーター 山田 千239-0101 三浦市南下浦町上宮田 1459-3 TEL・FAX 046-874-9882 Email ydc2@shahoc-mura.com HP: http://www.shahoc-mura.com ●今回の取り組みの経緯 ・背景 地域包括ケアを通じて地域を育み、地域づくりの事業 ・目的 これからも安心して暮らせる地域を創出し、地域の課題や悩みを把握し課題に対して、地域でできることを考えるきっかけとする。 ・内容 住民有志とともに、地域づくりを育める茶話会を開催しながら、地域住民に地域のよいところや生活して困っていること等話聞くヒアリング調査を前向きに。地域で活動する団体や企業にも、地域とのつながり、地域のためにやっていること、今後やってみたいこと等質問を、継続的に実施すること。 ・目指すゴール この事業を通じて、地域のことを知り、自分だったら地域でこんなことができるかもしれない人を知り、活動が生まれていくことを期待する。 ・実施主体 社会福祉法人 三浦市社会福祉協議会 地域福祉課 総務 生活支援コーディネーター 山田 千239-0101 三浦市南下浦町上宮田 1459-3 TEL・FAX 046-874-9882 Email ydc2@shahoc-mura.com ●「住み慣れた地域生活の中で、誰もが、いつまでも、安心して生活できること」とは？ これは、厚生労働省が打ち出す「地域包括ケアシステム」の趣意です。日本全国で高齢者が多く、住み慣れた地域で暮らしを続けたいという声は、国や自治体といった専門機関のサービス提供を受ける人のこと、地域住民間の「支え合い」が重要であると考えられています。現在、定期的に「地域包括ケアシステム」の構築に向けた活動が実施されています。 ●上宮田第1区での取り組みの経緯 南下浦地区と東宮田地区、新大森の隣接から上宮田第1区の現状や今後を色んな方と関わり合いながらお話しを聞きました。 12月 区民に相談。 区民の定例会に参加し、意見を聞いて地域づくりの取り組みの動機としてヒアリングシートを記入してもらいました。 12～1月 区民の意見に基づき、関係する団体の代表者や参加者などにヒアリングシートの記入をお願いしました。 1月～3月 地域づくりを育める茶話会を月に1回開催し、集まった住民有志で意見交換をおこないました。 茶話会での意見交換(記録) ・参加者が多いが会場で集まる機会が限られている ・工事現場などでの作業の機会の減少 ・若い世代が地域でコミュニケーションを育める機会が少なくなっている ・災害時に困って30分程度で避難や救助出しをしない ・居住してまだ若い世代が地域での生活に関わり合いを求めている

住民有志と共に発出した区民向けの案内

なお、本書の作成のきっかけは、南下浦地区の第2層協議体において、民生委員の竹原治美さんより、上宮田第1区の現状を憂う声を聞いたことである。「数年前までは高齢者が元気で、近所の家に集まりお茶会をする等の交流があったが、コロナ禍を機に集まりができなくなり、会えないまま亡くなる人もいた。同様に、防災訓練等の区の行事も休止している。地域で何か活動が必要だと思うが、どうしたらいいかわからない。」という話だった。それを聞き、地域診断をおこなうことが解決の糸口になるのではないかと考えた。その後、竹原さんは継続して茶話会にも参画している。

ワークショップ（茶話会）の進め方について

これまでのワークショップ（茶話会）で得られた、ワークショップ運営のノウハウの一部を紹介する。

雰囲気づくり	・堅苦しい会議の場ではなく、参加者が自由な雰囲気地域で地域の課題や取り組みなどについて意見交換できる場であることを大切にする。 ・話し合う中で、参加者自身が取り組んできたことに地域づくりとしての意義や、課題や悩みの改善・解決策を見出すことが、新たな活動の発見や「やりたい」という意欲につながる。 ・さまざまな住民が顔を出せるような周知や工夫があるとよい。例えば、新しく引っ越してきた人等を迎え入れる、またはテーマ別の茶話会を作り、関心を持つ住民を集めて話し合う等。
話し合いの方法	・地域づくりを考える有志と定期的に集まり、意見交換を進める。 ・注意としては、結果を急がず、まずはお互いに思っていることを伝え合うこと。その中で信頼関係を築きながら意見交換をしていくこと。
話し合いがうまくいかないときは	・課題や取り組むべきことが数多くあるため、皆の思いがまとまらなくなってしまうことは当然ある。そのようなときは▼大まかな長期計画を立てる▼KJ法（データをまとめるための手法の一つ。ふせんに書いたアイデアを、グループ化して整理すること。）を活用し、課題や資源を整理する▼他の自治会や活動団体の取り組みなどを学ぶ等の手段をとってみる。

結果

地域踏査と茶話会を通して見えてきた上宮田第1区の課題や強みを挙げ、今後に向けた提案をする。

1 課題

(1) 自治会に余力がなく、活動の展開が困難である

900世帯を超える大きな区でありながら、自治会の役員は5名と少数である。自治会は、会議等の定例の活動以外に、日常的にゴミステーションや電灯の管理などに追われていて、活動を興すことは難しいのが現状である。自治会の中に、各組の組長の役割を設けているものの、1年ごとに交代することもあり、今以上の負担を強いることは困難である。

また、現在の自治会活動を維持するという点においても課題がある。区内に公共交通機関がなく、高齢者や自家用車を持たない住民から「会場である区民会館への距離が遠く、夜の定例会に行くことができないので、組長等の役を引き受けることができない。」という意見が複数挙がった。

(2) 住民間の交流や支え合いに差が生じている

住民間の交流が「交流がない・少ない」と感じている住民がいることがわかった。

住民ヒアリングで「近所と声を掛け合っている」「安否確認をし合っている」という逆の意見も複数挙がったものの、それらは「農家」や「高齢者」の近隣間でおこなわれていることが多い印象を受けた。当然とも言えるが、ある程度長く共に地域で暮らしてきた住民間に発生している限定的な支え合いのようだ。

上宮田第1区は、多様な人が住む地域である。住み始めた時期（先祖代々この地に住んでいる人や移住者）、住む家の種類（戸建住宅・小～中規模マンション・アパートなど）、世帯の構成（高齢者独居世帯・日中独居世帯・3世代同居世帯など）、職種や年齢など、区内に住む人々の様々な背景がわかった。

区画の成り立ちの違いや、住んでいる人の多様さが、区としての一体感を生み出しづらくしているようだ。

また、コロナ禍の自粛ムードが尾を引いていることがわかった。「コロナの関係でいろいろな行事が中止になっていた。」「コロナ禍の前は近所で電球を取り換えたりする助け合いが普通にあった。コロナ禍から感染防止を気遣い、お付き合いしにくくなってしまった。コロナ禍が終わっても元の付き合いには戻らず、関係が希薄になってしまった。どうやったら取り戻せるだろうか。」などの意見も挙がった。

(3) コロナ禍以降、避難訓練が未実施である

(2)で述べたコロナ禍の影響は、防災の取り組みについても同様である。過去には区として一時避難場所を決め避難訓練も実施していたが、ここ数年は実施していない。

今回は、住民の意向を知るために、災害への不安や避難に関する問いを設けた。結果、「歩行困難者を想定した避難訓練をしてはどうか。」「自治会で災害時の避難について話し合っていないことが不安。」など、区における日頃の災害対策を求める意見が多く挙がった。また「坂があり、指定避難所である旭小への避難が難しい。」など避難の困難さを訴える意見も挙がった。

2 強み

（１）地縁を保ち育む行事がある

住民の一体感を生む魅力的な活動があることがわかった。

諏訪神社の祭礼は歴史ある行事でありながら、20～30代の若者の参画があり、更に中学生から小学生へ木遣りを教えるなど、新しい世代へ脈々と受け継がれていた。この祭礼を通して、新たに引っ越してきた住民との距離を縮めたという意見も聞かれた。

住民からは「つながりが希薄になった」という声も多く上がっていたが、共働きの当たり前になり、地域の活動に勤労世代の参加を得ることが全国共通の課題といえる中、このような活動を継続していることは強みであるといえる。

（２）地域貢献や互助の活動がある

例えば、スクールガードや芙蓉ハイツの「ふようの会」などがそれである。これらの活動者は「茶話会」にも積極的に参加していた。

消防団の拠点や自主防災隊もあり、地域を自分達の手で守っていく意識を持つ住民が何人もいることがわかった。

（３）活動の拠点が複数ある

市民活動におけるスペースがない場合は、確保の手間や費用負担が大きくなるものであるが、区内には区民会館、民間の貸しスペース、喫茶店やファミリーレストランなどがある。近くの下浦コミュニティセンターも市民活動の拠点となっている。これだけの選択肢があることは、活動者を後押しするだろう。

（４）住民や企業の多様性がある

課題でも述べたとおり、様々な住民がいることがわかった。また、諸種の企業もある。今後改めてニーズの掘り起こしや、参画を呼び掛けることで、活動にも多様性を生むと考える。

（５）「茶話会」という集団が生まれ、継続している

「地域のために何かしたい」という人達が集まって、定期的に話し合いを持ち、SNSで情報交換するようになった。茶話会を始めてから本誌をまとめるまでに、茶話会参加者が「スクール

ガードの活動をより良くしたい」という課題意識を持ち、それを自分達の手で解決するために、関係者を巻き込み新たな組織（スクールガードの会）を結成するに至った。

茶話会の集まりは、住民の主体性そのものであり、今後の展開に期待せずにはいられない。茶話会参加者は、南下浦地区の第2層協議体にも参加している。今後第2層協議体の議論が深まることで、新たな福祉的課題の解決に向けて行動する可能性も持っている。

今後に向けて

住み慣れた地域社会の中で、誰もが・いつまでも・安心して暮らしていくための支え合いの地域づくりの足掛かりとするために、地域診断と茶話会の取り組みを進めてきた。

これらの結果を踏まえて、次の3点を提案する。

- 1 自治会の体制強化の検討
- 2 今回わかった課題の解決に向けて取り組む
- 3 茶話会の継続と発展により「協議体」をつくる

提案内容は以下のとおりである。

1 自治会の体制強化の検討

少人数の役員を支えるための仕組みが必要であると考ええる。

- (1) 各専門委員（民生委員、保健衛生委員、青少年指導員等）や区内の活動団体（老人会、自主防災隊、スクールガードの会等）にも組長の定例会に参加を求めているかどうか。日頃の活動状況について情報交換しておくことで、互いの活動をフォローし合うことができるのではないかと。
- (2) 42頁にて取り組みを紹介した「ふよう会」の仕組みを取り入れてはどうか。ふよう会は、マンションの理事会の諮問機関であり、規約作り、住民間の交流会を企画実施する役割を持っている。同会は住民有志が担い、輪番制の理事の役割を補完している。このように、補助的な組織を設けることを提案する。
- (3) 一部にWEB会議システムを導入してはどうか。「会場が遠く、夜間の定例会に出ることができない。」という意見があったが、Zoom等WEB会議システムを使い、自宅から会議に出席できれば、この問題は解決できるのではないかと。端末の操作が難しい人や環境がない人については、区内に点在する貸しスペースや南下浦コミュニティセンター等、何か所かに中継ポイントを設けることで解消できる。この方法には、導入や運営に費用がかかることや、都度機材の設置が必要なこと、結局区の配布物を区民会館まで取りに行く二度手間になること、慣れるまでに時間がかかることなどのデメリットがある。しかし、高齢者や勤労者等、様々な人にとってアクセスしやすくなれば、自治会活動に協力できる人が増えるのではないかと。

2 課題の解決に向けて取り組む

地域診断により、避難訓練等の防災活動や、子どもの交流の場等を住民が求めていることがわかった。ここでは防災活動の中でも「避難路がわからないから教えてほしい」「傾斜がきつく、いざというときに逃げられないかもしれない」という意見と、同じく住民ヒアリングで出ていた防災活動に関する提案を元に、個人や近隣間～中学校区あるいは市域で取り組めることをいくつか例示する。

【一人ないし家族】（自助）

- ・買い物や散歩のついでに、自分で歩いて行ける高台、自分の一次避難所を探してみる。
- ・近隣と顔見知りになっておくために、日々挨拶をする。
- ・サロンやリハビリテーションで筋力向上に努める。
- ・福祉用具の活用により、歩行可能な距離を伸ばす。
- ・非常用持ち出し袋を、持ち出しやすいところに置く。
- ・家族間で、避難経路や場所と、そこで落ち合う方法を話し合っておく。

【近隣～組】

- ・旭小まで歩きながらおしゃべりする、誰でも自由に参加できる散歩の会を作る。
- ・近隣間でお茶会を開く。
- ・近隣間で避難経路や場所を話し合っておく。

【組～区】

- ・避難場所や危険個所を、地図等で住民に周知する。
- ・小地域における防災活動のいい事例を住民に共有する。
- ・住民に向けて、逃げ地図ワークショップや福祉用具に関する勉強会を開催する。
- ・高台への避難訓練、炊き出し訓練を実施する。
- ・第2層協議体に参加し、課題提起する。
- ・小地域活動をおこなう団体に向けた奨励金制度を作る。

【第2・1層協議体～市】

- ・防災に関する小地域の実情に関する情報交換や、最新の情報提供をおこなう。
- ・勉強会等新たな活動の実施について検討する。
- ・避難所立ち上げ等大規模訓練をおこなう。

たった今から気軽に取り組みそうなものから、関係機関各所との協議が必要なものまで様々な方法を考えた。まずはやりたいことを足掛かりとして、行動を起こすことが重要である。これらはあくまで一例であり、話し合うことで、より地域住民のニーズに即した活動にしていくべきである。話し合うにあたり、茶話会や自治会等への参加に勇気が要るようなら、まずは仲のいい近隣間の井戸端会議で話してみるなど、とにかくスモールステップで、自分にできることから始

めることをお勧めする。なお、自分達で茶話会を開いてみたい人のために、98 頁に茶話会のノウハウを掲載しているので、参考になれば幸いである。

3 茶話会の継続と発展により「協議体」をつくる

協議体は範囲別に 1～3 層があり、第 1 層は「市域」、第 2 層は概ね「中学校区」を指す。これらの協議体は、介護保険制度の生活支援体制整備事業の中で設置が定められている。

「茶話会」は既に、小地域の困りごとを吸い上げ、できることを模索する第 3 層協議体になりつつある。今後の継続とさらなる発展のために、まずは住民や地元企業から参加者を募ってはどうか。思わぬアイデアや推進力が生まれ、活動に広がりを見せるのではないかと考える。また、第 2 層協議体への参画についても継続し、区内では解決が難しい事例について一緒に考え、連携して進めることが望ましい。

なお、今回の住民ヒアリング調査は、全世帯の約 9 分の 1 にとどまった。さらにその一部は、アンケート用紙の配布による実施だったこともあり、地域の活動に協力的である人達から得られた回答であるということには触れておかなければならないだろう。

最後に、三浦市社協と三浦市が取り組むべきことを記述する。

三浦市社協が取り組むべきこと 「支え合い活動のサポートと地域包括ケアシステムの構築」

三浦市社協は、社会福祉協議会が持つ「住民主体の原則」に則り、住民の支え合い活動の創出や運営のサポートをおこなう立場である。今後も生活支援コーディネーターを中心に、上宮田第 1 区の課題解決に向けた地域住民間の支え合い活動を側面的に支援していく。

例えば、茶話会の発展のためのネットワークづくりや、勉強会の企画・実施について、助言や見守り等の支援をおこなう。

同じく、地域包括支援センターリンクとしては、誰もが住みやすい地域づくりを目指す地域包括ケアシステムの構築に向けて活動を進めることが求められる。

まずは、地域住民や活動者との関係づくりが重要である。既にサロン活動の支援や第 2 層協議体への参加、日々の個別支援を実施しているところではあるが、加えて、茶話会にも顔を出すことで関係を構築していきたい。

行政が取り組むべきこと 「地域の支え合い活動を創出する具体的な支援の実施」

三浦市には、各地域における支え合い活動を推進するという役割がある。高齢者のニーズと社会資源の状況を把握し、地域における取り組みを総合的に支援・推進する役割を担う「生活支援コーディネーター」と、その生活支援コーディネーターの役割を補完する組織「協議体」の設置が義務づけられている。



現在三浦市では、ようやく第2層協議体が市内3圏域に設置され、定期的で開催されるようになったが、この協議体から生まれる住民主体の活動をどう支援していくのかという具体策を未だに用意していない。なお形骸化している第1層協議体を、政策立案能力の伴う協議体として再整備していく必要があるだろう。

また、介護保険法の介護予防・日常生活支援総合事業における「住民主体型サービス」という類型が平成29年に生まれ、早7年が経過しているが、三浦市では未だ自治体として何の動きも見られない。

例えば通所型のサービスは、住民による要支援者を中心とする自主的な通いの場として、体操や運動、趣味活動等を通じた日中の居場所づくり、定期的な交流会、サロン、会食といった、幅広い取り組みが対象として認められている。こういった活動団体に補助金を交付して、住民主体の取り組みを推進する自治体もある。三浦市は早急に、事業整備を進めていく必要がある。



編集後記

上宮田第1区での地域踏査を終え、ようやく地域診断書を発行することができました。まずは、お忙しい中、地域の実情について丁寧に、そして、率直なご意見をお聞かせくださいました住民の皆様、関係各位に、感謝を申し上げます。

そして、今回地域を考える「茶話会」のメンバーとして当初からともに取り組んでくださった住民有志の皆様は心より敬意を表します。上宮田第1区という大きな区を前に不安を感じていましたが、この区で取り組むきっかけをくださった民生委員の竹原さん、社協からの提案を快諾してくださった高橋区長をはじめ、茶話会に集まった皆様が上宮田第1区への熱い気持ちをもって毎月茶話会に参加し、地域の課題について意見交換を重ねる姿に力をもらいました。

調査開始から発行に至るまでに、予定を大幅に超えて時間がかかってしまったことをお詫びいたします。ただ、期間中にヒアリングでまわることができなかった住宅が多くあることが心残りです。「こんな課題がある」「こんな助け合い、支え合いがあることを知っている」という方はよろしければぜひ茶話会にご参加いただいたり、茶話会出席者に意見を伝えていただけると大変嬉しいです。

最後に、茶話会に参加された有志の皆様からの一言を記載します。1年以上にわたる茶話会、住民ヒアリングへの参加、本当にお疲れ様でした。上宮田第1区の皆様が、住み慣れた地域でいつまでも安心して暮らしていけるよう、これからの活動もサポートさせていただきますのでよろしくお願いいたします。（生活支援コーディネーター齋田聖子）

○茶話会に参加した有志の皆さん



令和7年8月22日茶話会にて
前列左から新倉邦夫さん、熊谷敏明さん、高橋公雄さん、竹原治美さん
後列左から齋田聖子、長嶋貴子さん、山岸義明さん

（以下順不同・敬称略）

高橋公雄（区長）

上宮田第1区の茶話会が月1回のペースで開催されています！区内のことやほかの地域のニュースなどを交えて話し合いをおこなって情報を得ています。今後も区内の活動の参考に

して高齢化社会に対応できる生活環境を少しでも進めていきたいと思っています。

竹原治美

毎日子育てや仕事に追われ地域のことなど考えずに生活してきました。子育ても終わりやっと自分の時間が持てたとき、依頼を受けて民生委員になり、地域のことを考えるようになりました。その時に、社協から地域診断のお話が来て活動するようになり、たくさんの人達の話聞きながら、地域の問題等…多くのこと知ることができました。高齢者や子ども達の問題、新しく移住してきた方との付き合い方等、問題は山積みですが、これからもたくさんの方達と話し合いながら上宮田 1 区が住みやすい町になってくれたらと願っています。

山岸義明

茶話会の一員として参加でき、大変見識を深めることができました。区長、区の役員の方、近隣の方々と「住みやすい快適環境」を様々なテーマについて相談できました。感謝しています。

熊谷敏明

区長をはじめ、長年地域活動に貢献されてきた方々との話し合いを通じて、芙蓉ハイツも上宮田 1 区の一員であることを再確認しました。スクールガードに関しては、旭小の児童を見守るために、地域での協力と連携が重要であると確認できました。このような会を設定していただきましたことに感謝申し上げます。

新倉邦夫

この診断書づくりに協力できてよかったです。1 区は今まで大きな災害もなくとても住みやすい町だと思います。しかし現在は全国で異常気象や地震が頻発し、また南海トラフ地震も今後 30 年の間に起こるといわれています。大きな災害を小さな被害にするには防災に力を入れ区民の皆様とこの町を守っていきたいです。

長嶋貴子

来年自治会の役員が回ってくるって時に「おいでよ」と同級生の竹原さんに誘われて茶話会に参加。そしたら「うちはこんな地域だよ。」「うちはサークル活動してるよ。」と色々情報が貰えて世間が開けるって感じ。そして石作 2 組の地域診断のアンケートを斉田さん竹原さんとまわり、ご近所の困っていることや関心のあることが少しずつ見えてきて、ご近所みんなで顔の見える関係作りができつつあります。茶話会そして地域診断に感謝。



地域包括ケア推進のための地域診断書

社会福祉法人三浦市社会福祉協議会

〒238-0102 三浦市南下浦町菊名 1258-3

発行人：杉山 実

編集責任者：高根沢 奈津子

編集人：齋田 聖子

TEL 046-888-7347 FAX 046-889-1561